

# 盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅺ

—道明地区土地地区画整理事業関連遺跡平成 27・28 年度発掘調査—

細谷地遺跡

2019. 2

盛岡市・盛岡市教育委員会



# 序

盛岡市は、東北地方の東部を南北に縦断する北上川と、その支流である雫石川・中津川が合流する地点に中心市街地が形成され、北に雄大な岩手山と姫神山を望む、岩手県の県庁所在地です。その都市骨格は、約400年前に戦国大名南部氏により築城された総石垣の盛岡城を中心とした城下町であり、藩政そして明治以降は岩手の県政の中心として、また交通の要衝として栄えてきました。

平成になると、平成4年に南の都南村と、平成18年に北の玉山村と合併。人口約30万人、面積約886平方キロメートルという北東北の拠点都市へと成長し、平成20年4月には中核市へ移行しました。平成23年に未曾有の大被害を受けた東日本大震災後、着実に復興を果たし、平成28年には「希望郷いわて国体・いわて大会」が県内各地を会場に開催され、盛岡市では冬季のスケート・アイスホッケー、本大会の水泳・サッカー・テニスのほか多くの種目の選手・役員の方々をお迎えしたところでもあります。

昭和の時代から盛岡市が都市として成長する中、将来の発展を見据え、既存の中心市街地の南西部、雫石川の南に広がる一帯に新市街地を形成しようと計画されたのが「盛南開発構想」です。その大部分は、独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）が事業主体となり「盛岡南新都市（愛称：ゆいとびあ盛南）」が整備され、平成25年度に事業完了しています。道明地区は、その盛岡南新都市の南東部に隣接しており、都市基盤づくりのひとつである「盛岡南地区都市開発整備事業」の一環として、施行面積21.7ヘクタールの土地区画整理事業が現在進められています。

この事業に伴い、当該区域内に所在する埋蔵文化財包蔵地のうち、整備工事により消滅を余儀なくされる遺跡の発掘調査を、平成20年度から当市教育委員会が行い、現在も調査が継続しております。

本報告書は、平成27・28年度に実施した細谷地遺跡の調査成果について報告するものです。市民の皆様をはじめ、各学校や教育機関・研究者等の方々に、当該地域の歴史を知るための資料としてご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大なるご協力やご指導を賜りました岩手県教育委員会生涯学習文化財課、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに対し深く感謝申し述べると共に、発掘調査にご理解とご協力をいただきました地権者各位ならびに地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成31年2月

盛岡市教育委員会

教育長 千葉 仁一

# 例 言

- 1 本書は、岩手県盛岡市本宮・向中野・飯岡新田ほかに所在する盛南地区道跡群において、「道明地区土地区画整理事業」及び関係事業に伴い平成27・28年度に実施した発掘調査の報告書である。なお、「盛南地区道跡群」の名称については、盛南開発地区内に所在する計18道跡（大宮北、小幅、宮沢、鬼柳A、本宮熊堂A、本宮熊堂B、稲荷、野古A、飯岡沢田、飯岡才川、台太郎、向中野館、細谷地、矢盛、焼野、夕覚、南仙北、向中野幅）を包括する総称として使用し、本書ではそのうち細谷地道跡の調査成果を報告する。
- 2 本書の編集及び刊行事務は盛岡市道跡の学び館が行い、編集・執筆作業を津嶋知弘が担当した。
- 3 道構平面位置は、日本測地系（平面直角座標X系を座標変換した調査座標）で表示した。
  - ・調査座標軸は、日本測地系第X系に準じる
  - ・調査座標原点（細谷地道跡）  $X = -35,000$   $Y = +26,000 \rightarrow RX = 0$   $RY = 0$
- 4 高さは、標高値をそのまま使用した。
- 5 土層断面図は堆積のしかたを重視し、線の太さを使い分けた。層相の観察にあたっては「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。  
層名の記号は次のとおりとした。

記 号	
道構内堆積土	A～I層
カマド崩壊土	J層
カマド構築土	K層
床構築土	L層
地形堆積土（遺物包含層含む）	I～V（ローマ数字）層

- 6 遺構記号は次のとおりとした。

記 号			
竪穴建物跡	RA	溝跡・堀跡	RG
掘立柱建物跡	RB	配石・集石遺構	RH
掘立柱列跡	RC	井戸跡	RI
土坑	RD	土器埋設	RP
竪穴状遺構	RE	古墳・円形周溝ほか	RX
焼土遺構	RF	土坑墓ほか	RZ

- 7 道構平面図の線種は次のとおりとした。

検出	実線	—————
推定	破線	- - - - -
時期差	一点鎖点	· - · - · - · - ·

- 8 古代の竪穴住居跡のカマド方向は、カマド本体中心（焚口）から煙道先端（煙出し）を結んだ線の方向の傾きとした。
- 9 古代の土器区分は、土師器・須恵器・あかやき土器に分類した。「あかやき土器」の名称は、ロクロ使用の酸化焼成土

- 器（坏類、甕類、鉢）に使用し、ロクロ使用の内面黒色処理の坏類は土師器に分類した。
- 10 古代の土器の実測図作成については、坏類は口縁部残存1/4以上かつ底部まで残存するもの、甕類は口縁部残存1/4以上かつ底部まで残存するものを基本とし、必要に応じて破片実測も行った。また拓本は、須忠器甕類のタクキ目等器面調整が確認できるものとした。
  - 11 出土遺物の実測図化・トレースは、(株)タックエンジニアリングに委託した。また、出土炭化材の放射性炭素年代測定と樹種同定は、(株)加速器分析研究所に委託し、その結果報告を附章に掲載した。
  - 12 細谷地遺跡第36次調査出土ガラス小玉の科学分析調査を独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所埋蔵文化財センターが実施しており、分析を担当された保存修復科学研究所の田村朋美研究員より賜った玉箱を附章に掲載した。
  - 13 出土遺物の写真撮影は、津嶋知弘が行った。
  - 14 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管している。
  - 15 当該調査の一部については、現地説明会資料等により報告しているものもあるが、本書の記載内容をもって訂正する。

### 細谷地遺跡に係る発掘調査報告書

#### (公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（本報告）)

- 2002年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成13年度）』第397集〔台太郎遺跡36次、細谷地遺跡6次〕
- 2003年3月『細谷地遺跡発掘調査報告書—第4・5次調査—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査』第414集
- 2004年3月『細谷地遺跡第8次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第454集
- 2004年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成15年度）』第455集〔稲荷遺跡6次、本宮熊堂B遺跡19次、台太郎遺跡50次・52次、野古A遺跡19次・20次、飯岡才川遺跡5次・6次、細谷地遺跡7次〕
- 2007年3月『細谷地遺跡第9次、第10次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第500集
- 2008年2月『飯岡才川遺跡第7・13次・細谷地遺跡第12次・矢盛遺跡第9次発掘調査報告書—一般国道46号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査—』第508集
- 2008年2月『細谷地遺跡第13次、第14次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第513集
- 2008年2月『細谷地遺跡第15次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第514集
- 2008年3月『平成19年度発掘調査報告書』第524集〔細谷地遺跡18次、矢盛遺跡14次〕
- 2009年2月『細谷地遺跡第16・17次発掘調査報告書—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査—』第535集
- 2010年2月『細谷地遺跡第19・20次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査—』第556集
- 2011年3月『細谷地遺跡第24・25次向中野館遺跡第12・13次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査—』第577集
- 2012年3月『細谷地遺跡第26次発掘調査報告書—盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査—』第595集

#### (盛岡市教育委員会)

- 2009年3月『盛岡地区遺跡群発掘調査報告書Ⅱ—盛岡南新都市開発整備事業平成5～12年度発掘調査②—稲荷遺跡・本宮熊堂A遺跡・本宮熊堂B遺跡・野古A遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・向中野館遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・南仙北遺跡〕〔稲荷遺跡1・1次補足、本宮熊堂A遺跡2・2次補足、本宮熊堂B遺跡3・3次補足・8・11次、飯岡沢田遺跡1・2次、飯岡才川遺跡1次、向中野館遺跡1・2次、細谷地遺跡2次、矢盛遺跡2次、南仙北遺跡15～17・22～24・27・28・30～32・35次〕
- 2014年3月『盛岡地区遺跡群発掘調査報告書Ⅵ—盛岡南新都市開発整備事業平成13～18年度発掘調査③—飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・南仙北遺跡〕〔飯岡沢田遺跡4・6～8・11次、飯岡才川遺跡10・11次、細谷地遺跡11次、矢盛遺跡7・8次、南仙北遺跡37～39次〕

- 2015年3月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅵ—盛岡南新都市開発整備事業平成19～21年度発掘調査—大宮北道跡・小幡道跡・宮沢道跡・本宮熊堂B道跡・台太郎道跡・飯岡沢田道跡・飯岡才川道跡・細谷地遺跡・矢盛道跡・夕覚道跡」〔大宮北道跡11～14・15次、小幡道跡23次、宮沢道跡13次、本宮熊堂B道跡32・33次、台太郎道跡59～65・67～70次、飯岡沢田道跡12次、飯岡才川道跡14次、細谷地遺跡21～23次、矢盛道跡15～17・21・22次、夕覚道跡1～6次〕
- 2017年3月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅶ—盛岡南新都市開発整備事業平成22～24年度発掘調査②—細谷地遺跡・矢盛道跡・焼野道跡」〔細谷地28・31次、矢盛28・30・31次、焼野3次〕
- 2018年3月「盛南地区道跡群発掘調査報告書Ⅷ—道明地区土地区画整理事業関連道跡平成20～26年度発掘調査—細谷地遺跡・夕覚道跡」〔細谷地29・30・32～34次、夕覚3・5・8・9・11次〕

# 目次

第1章 経過	
第1節 事業の経過	1
第2節 発掘調査の経過	2
第3節 体制	3
第2章 遺跡群の位置と環境	
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査成果	
第1節 細谷地遺跡の立地と概要	9
第2節 調査内容	
(1) 第35次調査（平成27年度）	9
(2) 第36次調査（平成28年度）	15
第4章 総括	
1 調査のまとめ	21
表	
遺構図版	
遺物図版	
写真図版	
附章	
細谷地遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）	111
細谷地遺跡から出土した炭化材の樹種	117
細谷地遺跡出土ガラス小玉の分析	121
報告書抄録	

# 表 目 次

挿表1 盛南地区道跡群発掘調査一覧表〔道明地区、平成27・28年度〕	3
挿表2 古代竪穴建物跡・竪穴状遺構一覧表	21
第1表 細谷地道跡第35次調査竪穴建物跡主柱穴規模等一覧表	29
第2表 細谷地道跡第35次調査ピット計測表	29
第3表 細谷地道跡第36次調査竪穴建物跡主柱穴規模等一覧表	30
第4表 細谷地道跡第36次調査ピット計測表	30
第5表 細谷地道跡第35次調査遺構土層観察表(1)	31
第6表 細谷地道跡第35次調査遺構土層観察表(2)	32
第7表 細谷地道跡第35次調査遺構土層観察表(3)	33
第8表 細谷地道跡第35次調査遺構土層観察表(4)	34
第9表 細谷地道跡第35次調査遺構土層観察表(5)	35
第10表 細谷地道跡第36次調査遺構土層観察表(1)	36
第11表 細谷地道跡第36次調査遺構土層観察表(2)	37
第12表 細谷地道跡第36次調査遺構土層観察表(3)	38
第13表 細谷地道跡第36次調査遺構土層観察表(4)	39
第14表 細谷地道跡第36次調査遺構土層観察表(5)	40
第15表 細谷地道跡第35・36次調査出土土器観察表	41
第16表 細谷地道跡第35・36次調査出土土製品・石製品・ガラス製品観察表	41
第17表 細谷地道跡第35・36次調査出土外生土器観察表	42



# 目 次

挿図1 遺跡位置図	4	第19図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ・Ⅱ区ビット	62
挿図2 道明地区土地区画整理事業全体図	5	第20図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区旧河道	62
挿図3 細谷地遺跡南東部(道明地区)		第21図 細谷地遺跡第36次調査Ⅱ区全体図	63
竪穴建物等分布模式図	25	第22図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区西半部全体図	64
		第23図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区東半部全体図	65
第1図 細谷地遺跡南東部(道明地区)全体図	45	第24図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区	
第2図 細谷地遺跡第35・36次調査区全体図	46	RA246 竪穴建物跡(1)	66
第3図 細谷地遺跡第35次調査Ⅱ区全体図	47	第25図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区	
第4図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区北半部全体図	48	RA246 竪穴建物跡(2)	67
第5図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区南半部全体図	49	第26図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区 RE025 竪穴状遺構、	
第6図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区		Ⅱ区 RE026 竪穴状遺構	68
RA240 竪穴建物跡	50	第27図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区	
第7図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区		RD584～588 陥し穴	69
RA241 竪穴建物跡	51	第28図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区	
第8図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区		RD589～593 陥し穴	70
RA242 竪穴建物跡	52	第29図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区	
第9図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区		RD594～598 陥し穴	71
RA243 竪穴建物跡	53	第30図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区	
第10図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区		RD599～604 陥し穴	72
RA244 竪穴建物跡	54	第31図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区 RD605 土坑、	
第11図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区		RG105・106 溝跡、Ⅱ区 RD606 土坑、	
RA245 竪穴建物跡	55	RG098 溝跡	73
第12図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区		第32図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区ビット(1)	74
RE024 竪穴状遺構	56	第33図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区ビット(2)	75
第13図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区		第34図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区・Ⅱ区ビット	76
RD568・569・571 陥し穴	57	第35図 細谷地遺跡第36次調査Ⅱ区旧河道	76
第14図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区		第36図 細谷地遺跡第35次調査出土土器(1)	79
RD566・567・570・572～575 土坑	58	第37図 細谷地遺跡第35次調査出土土器(2)	80
第15図 細谷地遺跡第35次調査Ⅱ区		第38図 細谷地遺跡第36次調査出土土器	80
RD576～583 土坑	59	第39図 細谷地遺跡第35・36次調査出土	
第16図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区		石製品・土製品・ガラス製品	80
RG098・101・102 溝跡	60	第40図 細谷地遺跡第35次調査出土弥生土器(1)	81
第17図 細谷地遺跡第35次調査Ⅱ区		第41図 細谷地遺跡第35次調査出土弥生土器(2)	82
RG103・104 溝跡	61	第42図 細谷地遺跡第36次調査出土弥生土器	82
第18図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区ビット	61		

# 写真図版目次

第1図版 盛南開発地区航空写真……………85	第15図版 細谷地遺跡第36次調査(4)……………99
第2図版 細谷地遺跡第31~36次調査垂直写真集成…86	第36次調査I区東半部竪穴建物跡・陥し穴群
第3図版 細谷地遺跡第35次調査(1)……………87	RA246 竪穴建物跡全景
第35次調査I区全景	陥し穴群全景
第4図版 細谷地遺跡第35次調査(2)……………88	第16図版 細谷地遺跡第36次調査(5)……………100
第35次調査I区全景	第36次調査II区全景
第35次調査I区北西部竪穴建物跡・竪穴状遺構	第17図版 細谷地遺跡第36次調査(6)……………101
第5図版 細谷地遺跡第35次調査(3)……………89	RA246 竪穴建物跡
第35次調査I区北西部竪穴建物跡・竪穴状遺構	カマド・煙道・煙出し、ガラス小玉出土状況
第35次調査II区全景	炭化材・焼土検出状況、炭化材出土状況
第6図版 細谷地遺跡第35次調査(4)……………90	灰白色粉状バミス(十和田a火山灰)検出状況
RA240 竪穴建物跡、地床跡、壁際周溝土層断面	第18図版 細谷地遺跡第36次調査(7)……………102
土師器片・黒曜石礫・白色粘土出土状況	RE094 竪穴状遺構、床構築土層断面
第7図版 細谷地遺跡第35次調査(5)……………91	RE095 竪穴状遺構、地床跡、炭化材出土状況
RA241 竪穴建物跡、カマド袖・支脚土器	第19図版 細谷地遺跡第36次調査(8)……………103
カマド脇貯蔵穴、カマド・煙道、カマド袖芯材土器	RD584 陥し穴・土層断面、RD585 陥し穴・土層断面
貯蔵穴土層断面、灰白色粉状バミス検出状況	RD586 陥し穴・土層断面、RD587 陥し穴・土層断面
第8図版 細谷地遺跡第35次調査(6)……………92	RD588 陥し穴・土層断面、RD589 陥し穴・土層断面
RA242 竪穴建物跡	第20図版 細谷地遺跡第36次調査(9)……………104
RA243 竪穴建物跡	RD590 陥し穴・土層断面、RD591 陥し穴・土層断面
第9図版 細谷地遺跡第35次調査(7)……………93	RD592 陥し穴・土層断面、RD593 陥し穴・土層断面
RA244 竪穴建物跡	RD594 陥し穴・土層断面、RD595 陥し穴・土層断面
カマドa袖・煙出し、カマドb煙道・煙出し	第21図版 細谷地遺跡第36次調査(10)……………105
RE024 竪穴状遺構	RD596 陥し穴・土層断面、RD597 陥し穴・土層断面
第10図版 細谷地遺跡第35次調査(8)……………94	RD598 陥し穴・土層断面、RD599 陥し穴・土層断面
RA245 竪穴建物跡、カマド付近遺物出土状況	RD600 陥し穴・土層断面、RD601 陥し穴・土層断面
須臾器出土状況、炭化材出土状況	第22図版 細谷地遺跡第36次調査(11)……………106
第11図版 細谷地遺跡第35次調査(9)……………95	RD603 陥し穴・土層断面、RD602・604 陥し穴
RD568 陥し穴・土層断面、RD569 陥し穴・土層断面	RD605 土坑・RD606 土坑
RD571 陥し穴・土層断面、RG098 溝跡・土層断面	RG098 溝跡
第12図版 細谷地遺跡第36次調査(1)……………96	旧河道・土層断面・出土土器
第36次調査I区西半部全景	第23図版 細谷地遺跡出土土器……………107
第13図版 細谷地遺跡第36次調査(2)……………97	第24図版 細谷地遺跡出土遺物……………108
第36次調査I区東半部全景	
第14図版 細谷地遺跡第36次調査(3)……………98	
第36次調査I区東半部全景	

# 第1章 経過

## 第1節 事業の経過

### (1) 盛南開発

**構想具体化の始まり** 東北縦貫自動車道、東北新幹線といった国家プロジェクトが北東北にも進展した昭和40年代、当時広大な農地が広がっていた雫石川の南岸、東北本線仙北町駅の西側は、盛岡市の将来の都市発展方向と目されていた。昭和46年2月発表の「盛岡市市勢発展総合計画」第一次案において、雫石川を渡って太田・本宮地区を南北に縦貫する市内の中心軸線道路が「盛南新市街地を通る線」と表現され、また都市基盤の整備に「軸状都心の形成」を掲げて「盛南新市街地の中心部」が南の拠点とされた。盛南開発構想が具体化した始まりである。総合計画は昭和47年4月に正式決定され、盛南開発予定区域は面積850haでスタートした。

**協議会と地域公園** 盛南開発の予備調査は、昭和52・53年度に当時の地域振興整備公団（以下「地域公園」と呼ぶ）により行われた。しかし、盛南地区の北東に隣接する仙北西地区の土地区画整理事業と幹線道路の都市計画決定に対し住民が反発する事態となったことを受け、盛南開発では住民との対話によって計画づくりを行う手法に転換された。地元の意見を反映させる場として協議会が昭和55年1月に設立され、以後1年半にわたって盛南地区850haの開発手法が議論された。昭和56年9月、事業区域割がまとまり、盛南地区は①「都市開発区域」431ha、②「市街化区域」74ha、③「中央公園」28ha、④「ほ場整備区域」317haの4区分されることとなった。道明地区は「都市開発区域」に含まれ、新市街地エリアとされていた。その後、「都市開発区域」について新たな協議会が発足、地域公園が事業主体となって着手される方針が固まった。

**事業採択までの経緯** 地域公園は、昭和58・59年度に「盛南地区基本計画調査」を行い、区域面積約450ha・総事業費480億円の基本計画案を策定。大蔵省との折衝に進んだが、事業規模の見直しが必要とされたため、地域公園は規模縮小により新規採択に持ち込もうとし、盛岡市・旧都南村との意見対立が膠着した。しかし、新規事業採択をめぐる他都市との競争や、「軸状都心」の要となる盛岡駅西口地区（旧国鉄跡地）開発との同調の必要性などから譲歩せざるをえない状況となり、昭和62年8月、盛南地区の「都市開発区域」450haについては、320haを地域公園が地方都市開発整備事業により、残る130haについては盛岡市と旧都南村が土地区画整理事業等により独自に整備することで決着。「盛南南地区都市開発整備事業」（面積320ha、事業費650億円）が昭和63年度新規採択事業となった。しかし、これにより「都市開発区域」の南東隅に位置していた道明地区は、地域公園の事業区域外となることが決定した。

### (2) 盛岡南新都市開発整備事業（盛岡南新都市土地区画整理事業）

**事業認可** 地域公園の事業採択を受け、岩手県・盛岡市・旧都南村による地域公園への事業申請が平成2年9月に行われた。地域公園による「事業実施基本計画」策定は、「盛岡南新都市整備計画委員会」において協議が進められ、平成3年12月に当時の建設大臣および国土庁長官から認可された。

**事業経過** 「盛岡南新都市開発整備事業」は、北東北の交流拠点都市の実現のため、現都心地区および盛岡駅西口地区に連担する職住近接の新しい市街地の形成を図るものとして現都心地区の南西部、雫石川の南に位置する約313.5haを整備するものとされた。そして平成6年5月、土地区画整理事業の施行が認可とな

り、「盛岡南新都市土地区画整理事業」（面積 3135 ha）は平成 7 年 11 月に着工。期間変更を経て約 19 年間にわたる長期の工事の中、平成 14 年には公募による「ゆいとびあ盛岡」が愛称となり、また国の行政改革により平成 16 年より施行者が独立行政法人都市再生機構（以下「都市機構」と呼ぶ）に移行したものの、平成 25 年 10 月の換地処分公告で事業は完了した。

### （3）道明地区土地区画整理事業

**事業経過** 盛岡南新都市の事業区域から除外されることとなった道明地区であるが、街区や区画道路、都市計画道路などの基本計画は、盛岡南新都市と一体のものであった。道明地区は、都市基盤づくりのひとつである「盛岡南地区都市開発整備事業」の一環として盛岡市による土地区画整理事業が平成 16 年 2 月に認可され、当初施行面積 70.6 ha で開始された。「岩手山の眺望と豊かな水辺のあるまち」をテーマとして、都市計画道路をはじめとする公共施設などを整備することにより、良好な住環境の形成を図ることを目的としている。工事は盛岡南新都市に隣接する箇所から順次着工されていたが、社会情勢の急激な変化を受け、平成 24 年度から事業の抜本的な見直しが行われ、平成 28 年 3 月の事業計画変更により施行面積は 21.7 ha に縮小。除外区域は生活環境の改善と土地利用の促進を図るため、幹線道路の整備、主要生活道路の拡幅、河川改修及び上下水道整備を別事業として実施することとなった。宅地区域は民間開発事業に転換したが、平成 29 年度に道明地区中央部は（仮称）盛岡学校給食センター（新給食センター）が、道明地区東部の JR 東北本線沿いは産業等用地が盛岡市により整備されることが決定した。

#### 【参考文献】

（独）都市再生機構 岩手・秋田都市開発事務所 2014 「盛南に夢馳せて―盛岡南新都市土地区画整理事業 事業誌―」

## 第 2 節 発掘調査の経過

**盛岡南新都市区域の遺跡と調査** 盛南地区の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）のうち、盛岡南新都市の区域内については計 18 遺跡（当初は 17 遺跡）が存在し、総面積が約 60 ha と広大であったことから、盛岡市教育委員会（以下「市教委」と呼ぶ）と（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下「県埋文センター」と呼ぶ）が、平成 4 年度から試掘調査と本調査を担当した（平成 3 年 12 月 11 日付「覚書」「確認書」による）。基本的に、県埋文センターは盛岡市（宅地・区画道路分）と地域公園・都市機構（都市計画道路分）、国土交通省（国道 46 号線盛岡西バイパス）からの委託事業として本調査を実施。市教委は本調査範囲確定及び遺構密度確認のための試掘調査と、建物移転等により県埋文センターが対応できない箇所等の本調査を市教委予算事業（国土交通省交付金等）として、また一部の都市計画道路の本調査を地域公園・都市機構からの委託事業として実施した。

**道明地区の遺跡と調査** 一方、道明地区の当初事業計画では、盛岡南新都市の区域より狭く細谷地遺跡・夕覚遺跡と、中央部に位置する向中野幅遺跡の計 3 遺跡が存在していたことから（挿図 1・2）、計画策定段階より市教委と都市整備部で協議を進め、発掘調査（報告書刊行含む）はすべて都市整備部予算事業（国土交通省交付金等）で行うこととされた。発掘調査は、盛岡南新都市と並行して平成 20 年度の夕覚遺跡から始まり、平成 23 年度からは細谷地遺跡の本調査を開始。夕覚遺跡の事業区域の野外調査は平成 24 年度で

完了、細谷地遺跡の野外調査が継続している。本書で報告の対象としている細谷地遺跡の平成27・28年度の調査成果の概要は、挿表1のとおりである。なお、計画変更により向中野幅遺跡範囲は土地区画整理事業区域より除外となったものの、(仮称)盛岡学校給食センター(新給食センター)建設事業及び産業等用地整備事業に伴い、各事業担当課予算で平成29・30年度に発掘調査が実施されている(別途報告書刊行)。

**道明地区の資料整理と報告書刊行** 土地区画整理事業関連の出土遺物や遺構図面等の資料整理は、野外調査開始当初より、埋蔵文化財センター機能を持つ「盛岡市遺跡の学び館」で計画的に進められた。発掘調査報告書の編集・刊行は、数年度をまとめて分冊として報告する方針としており、本書は道明地区土地区画整理事業関連の2分冊目(盛南地区遺跡群発掘調査報告書の11冊目)の報告書である。

挿表1 盛南地区遺跡群発掘調査一覧表(道明地区、平成27・28年度)

遺跡名	略号	次数	年度	調査方法	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	遺構・遺物	調査施設	調査主体	報告書
細谷地	OHY	35	H27	本調査	向中野字細谷地7-2他	7,842	2015.5.12～ 2015.12.25	縄文時代晩し穴3、古代整穴建物跡6・ 整穴状遺構1、古代以降土坑7・溝跡5、 ピット	土地区画整理 (道明地区)	市教委	本書
		36	H28	本調査	向中野字細谷地7-2他	7,974	2016.5.9～8.4、 2016.10.4～12.8	縄文時代晩し穴21、古代整穴建物跡 1・整穴状遺構1、古代以降土坑2・溝 跡3、ピット	土地区画整理 (道明地区)	市教委	本書

### 第3節 体制

〔事業者〕 盛岡市(都市整備部盛岡南整備課)

〔調査主体〕 盛岡市教育委員会

〔事務局〕 盛岡市教育委員会事務局歴史文化課

〔調査〕 盛岡市遺跡の学び館

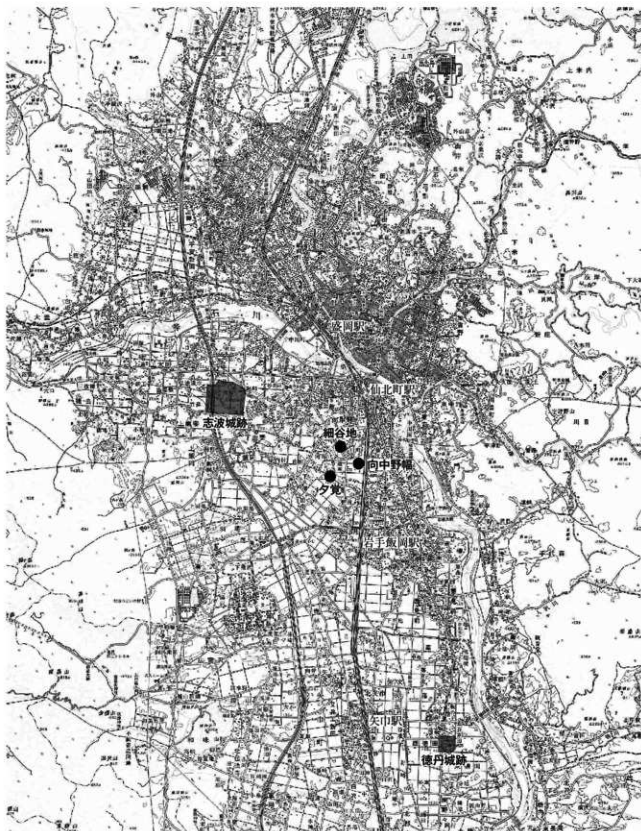
〔助言〕 文化庁、岩手県教育委員会、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〔協力〕 発掘調査、資料整理、報告書編集にあたり、地権者・地元関係者の方々、そして多くの作業員・県内外文化財関係職員の方々より多大なる協力を得た。

〔発掘調査担当者(本書掲載分)〕

細谷地遺跡 第35次調査(平成27年度) 鈴木俊輝・及川葉里

第36次調査(平成28年度) 花井正香・及川葉里



(この地図は、国土院発行の5万分の1地形図を縮小して使用したものである。)

挿図1 遺跡位置図 (1:100,000)



挿図2 道明地区土地区画整理事業全体図 (変更後, 1:600)

盛岡市教育委員会文化財保護関係職員（平成 30 年度）

教育長 千葉 仁一  
 教育部長 豊岡 勝敏  
 教育次長 大倉 慎澄

歴史文化課（文化財・史跡担当）

〔事務局（都南庁舎）〕

歴史文化課（埋蔵文化財担当）

〔遺跡の学び館〕

課長	杉本 浩	館長（兼）	杉本 浩
課長補佐（文化財・史跡担当）	福田 淳	課長補佐（埋蔵文化財担当）	多田 秀明
文化財主査	三浦 陽一	文化財副主幹	菊地 幸裕
文化財主査	神原雄一郎	文化財副主幹	室野 秀文
文化財主査	権頭 祐子	文化財主査	津嶋 知弘
学芸主査	岡 聡	文化財主査	今野 公顕
主任	吉田 智春	文化財主査	花井 正香
主事	泉山 翔太	文化財主査	佐々木亮二
主事	石川あかね	文化財主事	鈴木 俊輝
文化財調査員	千葉 菜耶	学芸調査員	樋下 理沙
文化財調査員	戸澤 博子	学芸調査員	千葉 貴子
文化財調査員	吉田 沙織	文化財調査員	今松 佑太
学芸調査員	菊池 早希	文化財調査員	上柿 南
事務嘱託	齊藤 晃大	文化財調査員	新井 順



## 第2章 遺跡群の位置と環境

### 第1節 地理的環境

**位置と立地** 盛岡市は、岩手県の中央部に位置する。平成4年4月に南に隣接する都南村と、平成18年1月に北に隣接する玉山村と合併し、人口297,631人（平成27年国勢調査）、面積886.47km<sup>2</sup>の県庁所在地である。平成20年4月には、中核市へ移行している。地理的には、北上盆地の北端、岩手県から宮城県にかけて南流する北上川に、中津川・雫石川・薬川といった支流が入り込む合流点にある。「盛南地区遺跡群」は、北上川の西岸とその支流である雫石川の南岸に広がる沖積段丘上に立地する。

**地形と遺跡分布** 雫石川は奥羽山脈から東流し、烏泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦付近（市内上太田）で急激に流路を狭められ、その狭窄部を抜け北上盆地に入り、北上川と合流する。雫石川の北岸には岩手山を供給源とする火山砕石流堆積物と火山灰層がの台地が発達していることにより、狭窄部以東の南岸に流路転換が顕著に見られ、沖積段丘（砂礫段丘）が発達している。沖積段丘は、水成砂礫層を基底とし、その上に水成シルト層、そして表土が覆っている。基本層はおおむねこの3層に分類されるが、砂礫層の上面高をはじめ、それぞれの層相・層厚は地点によって大きく異なる。また、このシルト層は旧河道ばかりでなく、微高地などにも堆積している。このことは、この低位沖積段丘は、雫石川が周辺の山地から供給される砂礫やシルトによって堆積され、さらに河道の定まらない雫石川の下刻や堆積を繰り返されたことによるものと言える。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており、連続する大きなものは4条、そのほかにも網目状に細かな旧河道も確認されており、複雑な河道変遷を示す。それらに画された微高地に、古代を中心とした遺跡が分布している。

**遺跡群と所在地** この微高地上に立地する盛南地区遺跡群は、「盛岡南新都市開発整備事業（盛岡南新都市土地区画整理事業）」区域（面積313.5ha、平成25年事業完了）に所在した計17遺跡（大宮北遺跡・小幡遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡・稲荷遺跡・本宮熊堂A遺跡・本宮熊堂B遺跡・野古A遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・台太郎遺跡・向中野館遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・焼野遺跡・夕覚遺跡・南仙北遺跡）と、南東に隣接する「道明地区土地区画整理事業」の当初区域（面積70.6ha、平成15年事業開始、継続中）に所在する計3遺跡（うち2遺跡は盛岡南新都市から連続、細谷地遺跡・夕覚遺跡・向中野館遺跡、挿図1）の総称である。道明地区土地区画整理事業については、細谷地遺跡が盛岡市向中野字細谷地（盛岡南新都市では向中野5丁目・7丁目）、夕覚遺跡が盛岡市飯岡新田5地割（盛岡南新都市では北飯岡3丁目・4丁目）、向中野館遺跡が盛岡市向中野字幅・畑返に所在するが（挿図2）、この所在地名は事業完了後の住居表示整備により、今後変更になると見込まれる。

### 第2節 歴史的環境

**遺跡群の時代** 本遺跡群の立地する沖積段丘上では、縄文時代～古墳時代にかけての遺構遺物の発見は少なく、遺跡のほとんどは7世紀中葉以降の古代集落で、一部に中近世の居館・集落・墓域などがみられる。

**先史** 縄文時代の遺構遺物は、本宮熊堂A遺跡や台太郎遺跡で縄文晩期を中心とする堅穴建物や遺物包含

層が検出されている。また、詳細な時期は不明であるが、飯岡才川遺跡や細谷地遺跡、矢盛遺跡などでは縄文時代の陥し穴がまともて確認されている。弥生時代の遺構遺物は、わずかに弥生前期頃の土器埋設遺構が台太郎遺跡にあるほか、弥生後期の土器片や北海道系の統縄文土器片が台太郎遺跡、細谷地遺跡で散発的に出土している。

**古代** 7世紀前葉以前の古墳文化の痕跡は不明であるが、7世紀中葉の遺構遺物は台太郎遺跡などで確認されており、これ以降、当該地域に集落が継続的に営まれる。奈良時代、8世紀中葉以降堅穴建物を主体とした集落が増加する。この時期の集落は、大型堅穴建物を中心としてその周囲に中～小型の堅穴建物が数棟ずつまとまりをもって分布する傾向があり、血縁の一族が共同体集落を構成したと考えられる。この時期は、「蝦夷（エミシ）」と呼ばれていた人々の集団と北進する律令政府とが激しく争ったことが文献に見られる。やがて当該地周辺の志波エミシは律令政府側に付き、胆沢エミシのアテルイは征夷大將軍の坂上田村麻呂に降伏。平安時代初頭の延暦21年（802）には北上盆地南部に胆沢城が、翌延暦22年（803）には本遺跡群の西方に「志波城」（下太田方八丁はか）が造営される。

志波城は、東北地方のエミシ統治のために都の律令政府が造営した「古代城柵」である。『日本紀略』によると、坂上田村麻呂が「造志波城使」となり志波城は造営され、その規模は陸奥国最大級のものであったことが発掘調査により明らかとなっている。しかし北を流れる現在の雫石川（当時としては北上川の本流的流れ）の度重なる洪水の被害を受け、およそ10年で文室綿麻呂の建議により徳丹城（矢中町）に移転したことが、『日本後紀』に見られる。その後、徳丹城は9世紀中葉までにはその機能を停止したようであり、本地域を含む北上盆地全体が、鎮守府となった胆沢城による一城統治の体制に移行したと考えられている。

律令政府の直接統治から在地エミシ系勢力を介した間接統治へと変化したであろう9世紀中葉から、本地域では堅穴建物を主体とした集落が増加していく。堅穴建物の規模の大小差は縮小するようになり、重複するものやカマドを作り替えるものが多く見られるようになる。また、向中野館遺跡で発見された低湿地の水辺祭祀遺物や、飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡の円形周溝墓（末期古墳）群など、本地域内に集落以外の機能のエリアが見られるようになる。また、9世紀後葉から10世紀中葉にかけては、各地区に拠点集落が形成されるようになり、カマドを何度も作り替える大型堅穴建物が増えるようになる。飯岡才川遺跡では、微高地の南斜面に沿うように総柱の掘立柱建物が東西に並立し、高床倉庫群が存在したと考えられる。また大宮北遺跡や、志波城跡の北東に隣接する林崎遺跡で、官衙的な大型掘立柱建物を計画的に配置した集落も発見されており、これらは新興在地有力者の拠点と考えられる。

**古代末～中世** 11～12世紀にかけての様相ははっきりしないが、平安時代末となる12世紀末～13世紀初頭頃のものと考えられるかわらけが、盛岡南新都市の西隣にある大宮遺跡の大溝から多量に出土している。鎌倉時代の13世紀後半には、台太郎遺跡で不整五角形に堀を巡らす居館が営まれ、地域を支配した在地領主が存在が想定される。さらに同遺跡では、土坑墓群や宗教施設と考えられる遺構も確認されており、出土遺物から15世紀頃まで存続したようである。また向中野館遺跡や矢盛遺跡でも、堀跡と掘立柱建物群が検出されており、出土遺物等から戦国時代の16世紀代を中心とする居館（環濠集落）と考えられている。

**近世** 江戸時代になると雫石川はほぼ現在の流路の位置となり、東の北上川沿いには、盛岡藩の城下町に続く奥州道中（街道）や仙北組町が開かれ、本地域は水田地帯に農家が点在する農村風景となる。各遺跡からは曲屋などの掘立柱建物や井戸、南仙北遺跡では道路跡などの遺構が発見されており、この姿は盛南開発事業が施工される直前、昭和40年代までの本地域の様子と大きく違いが無いものと考えられる。

## 第3章 調査成果

### 第1節 細谷地遺跡の立地と概要

**遺跡の位置と立地** 細谷地遺跡は、延暦22年(803)に造営された古代城柵である志波城跡の南東約2.5kmに位置し、北に向中野館遺跡が隣接、北西に飯岡才川遺跡、南西に矢盛遺跡、南東に南仙北遺跡が隣接している。なお、志波城跡や周囲の遺跡と同様に低位沖積段丘上にあり、その南端縁辺部にあたり、遺跡の東側は北上川旧河道に面している。遺跡範囲は東西約600m、南北約280mをはかる。遺跡の西部・中央部が盛岡南新都市開発整備事業区域(都市再生機構施工)、南東部が都市再生整備計画事業区域(盛岡市施工、道明地区土地区画整理事業)となっている(第1図)。

**遺跡の概要** 盛岡南新都市開発整備事業に伴い実施した発掘調査成果が報告済みであり、これまで県埋文センターと市教委の発掘調査により、向中野館遺跡から連続して旧河道に面する細谷地遺跡の中央北縁から南東部にかけて帯状に長く、8世紀前半～10世紀の古代集落が確認されている。両遺跡を合わせて289棟の竪穴建物跡が精査されており、盛南地区で台太郎遺跡(700棟以上)に次ぐ大規模集落である(盛岡市遺跡の学び館2017)。向中野館遺跡の中央を東西に横断する旧河道は、9世紀前半から始まる水場祭祀遺構となっており、木簡などの木製品が多く出土している。この旧河道の北西に隣接する飯岡才川遺跡東集落には、9世紀後半の大型竪穴建物と計画的配置の総柱掘立柱建物が集中しており、多数の須恵器が出土している。

### 第2節 調査内容

#### (1) 第35次調査(平成27年度)

今次調査区は、遺跡の南東部に位置し、道明地区土地区画整理事業に伴う本調査として実施した(第1図)。調査区は、平成25・26年度実施の第33・34次調査区域(盛岡市ほか2018)の東隣のⅠ区、南隣のⅡ区に分かれており、調査面積は7,842㎡。重機により表土を全面除去し、遺構検出を行った(第2図)。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、Ⅰ区が縄文時代の陥し穴3基(RD568・569・571)、古代の竪穴建物跡6棟(RA240～245)・竪穴状遺構1基(RE024)、古代以降の土坑7基(RD566・567・570・572～575)・溝跡3条(RG098・101・102)、ピット、Ⅱ区が古代以降の土坑8基(RD576～583)、溝跡2条(RG103・104)、ピットである(第3～5図)。Ⅰ・Ⅱ区の遺構総数は、縄文時代の陥し穴3基(RD568・569・571)、古代の竪穴建物跡6棟(RA240～245)・竪穴状遺構1基(RE024)、古代以降の土坑15基(RD566・567・570・572～583)・溝跡5条(RG098・101～104)、ピットとなる。

#### ・竪穴建物跡

**RA240** (第6図)

**位置** Ⅰ区北西部 **重複関係** なし **平面形** 隅丸長方形(カマド・煙道なし)

**規模** 北東-南西 5.1 m, 北西-南東 3.95 m, 深さ 0.1 m **長軸線方向** N32.0°E  
**埋土** A1・2層, B1層, C1層, D1層, E1層, F1層, G1・2層, L層 (第5表)  
**床面** 中央に地床が, 壁際4辺に周溝あり, 床構築土あり **柱穴** 主柱穴6口 (p1~6, 第1表)  
**出土遺物** (第37図, 第15表) 土師器甕 (012)・坏破片, 須恵器坏破片, あかやき土器坏破片, 黒曜石, 軽石, 炭化材  
**時期** 7世紀代

#### RA241 (第7図)

**位置** I区北西部 **重複関係** なし **平面形** 隅丸長方形  
**規模** 北西-南東 5.0 m, 北東-南西 4.2~4.6 m, 深さ 0.2~0.3 m  
**カマド方向** S36.0°E, 南東カマド, 長い煙道 (1.3 m, 底面が一段上がって煙出しがピット状に深くなる)  
**カマド** 両袖残存, 焚口の焼土面あり  
**埋土** A1層, B1層, C1~3層, D1層, E1・2層, F1・2層, G1層, H1層, J1~9層, L層, K1~6層 (第5・6表), A1・B1層に灰白色の粉状バミス (十和田a火山灰) が混じる。  
**床面** 床構築土あり, 壁際3辺に周溝あり, 貯蔵穴3基 (p6~8) あり  
**柱穴** 主柱穴4口 (p1~4, 第1表), ピット1口 (p5)  
**出土遺物** (第36図, 第15表) 土師器ロクロ内黒坏 (001~004)・甕 (006), 須恵器坏 (005), あかやき土器坏・高台付坏・甕破片, 墨書土器 (002「(不明)」), 焼成粘土塊, 炭化材  
**時期** 9世紀中葉~後葉

#### RA242 (第8図)

**位置** I区北西部 **重複関係** なし **平面形** 隅丸長方形 (カマド・煙道なし)  
**規模** 北西-南東 3.55 m, 北東-南西 3.0 m, 深さ 0.34 m **長軸線方向** W41.5°N  
**埋土** A1~3層, B1層, C1・2層, D1層, E1・2層 (第6表)  
**床面** 中央に地床が, 焼土2箇所, 北部に炭化材残存, 床構築土あり **柱穴** ピット1口 (p1)  
**出土遺物** 土師器坏・甕破片, あかやき土器甕破片  
**時期** 9世紀代か

#### RA243 (第9図)

**位置** I区北西部 **重複関係** なし **平面形** 隅丸方形 (出入口状の張り出しあり, カマド・煙道なし)  
**規模** 北東-南西 1.9 m, 北西-南東 2.0 m, 深さ 0.32 m, 張り出し幅 0.48 m・長さ 0.3 m  
**長軸線方向** E24.0°N **埋土** A1~3層, B1層, C1層, L1・2層 (第6表)  
**床面** 張り出し付近に硬化面あり, 床構築土あり **柱穴** なし  
**出土遺物** 土師器坏・甕破片, あかやき土器坏破片 **時期** 9世紀代か

#### RA244 (第10図)

**位置** I区北西部 **重複関係** RE024 (古) **平面形** 隅丸長方形  
**規模** 北東-南西 2.4 m, 北西-南東 2.55~2.85 m, 深さ 0.35 m

**カマド方向** カマド a (新) : E26.5°N, 北東カマド, 長い煙道 (トンネル状, 0.92 m, 底面が床面より一段上がり煙出しがビット状に深くなる)

カマド b (古) : N29.5°W, 北西カマド, 長い煙道 (トンネル状, 0.98 m, 底面が床面より水平にのび煙出しがビット状に深くなる)

**カマド** カマド a (新) : 両袖残存, 焚口の焼土面あり **床面** 床構築土あり **柱穴** なし

**埋土** A1・2層, B1層, C1~7層, D1・2層, E1層, L層, J1~6層, K1~3層, J'1~7層 (第7表)

**出土遺物** (第37図, 第15表) あかやき土器坏 (013, 墨書「×」)・甕破片, 土師器ロクロ内黒坏・甕破片, 須恵器坏破片

**時期** 9世紀後葉

#### RA245 (第11図)

**位置** I区中央 **重複関係** なし **平面形** 隅丸長方形

**規模** 東西4.1 m, 南北4.6~5.2 m, 深さ0.25~0.3 m

**カマド方向** E11.0°N, 東カマド, 長い煙道 (1.7 m, 底面が一段上がり煙出しがビット状に深くなる)

**カマド** 焚口の焼土面あり **柱穴** なし

**埋土** A1・2層, B1~3層, C1・2層, D1・2層, J1~4層 (第7表)

**床面** 北部に地床坪, 東部・西部に焼土5箇所, カマド右脇に貯蔵穴 (p1), 中央に炭化材, 床構築土あり

**出土遺物** (第36・39図, 第15・16表) 土師器ロクロ内黒坏 (007・008)・甕破片, 須恵器甕・壺破片, あかやき土器坏 (009・010)・甕 (011)・高台付坏破片, 銅製品破片, 焼成粘土塊, 砥石 (016), 炭化材, 炭化種子

**時期** 9世紀後葉

#### ・竪穴状遺構

#### RE024 (第12図)

**位置** I区北西部 **重複関係** RA244 (新) **平面形** 隅丸不整長方形

**規模** 北西-南東2.95 m, 北東-南西1.9~2.4 m, 深さ1.4~2.4 m **長軸線方向** W41.0°N

**床面** 中央に焼土 **埋土** A1・2層, B1・2層, C1層, D1層, E1層 (第8表)

**出土遺物** 土師器甕破片 **時期** 9世紀代

#### ・陥し穴

#### RD568 (第13図)

**位置** I区北西部 **重複関係** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ3.85 m, 幅0.58 m, 深さ0.98 m

**埋土** A1~3層, B1層, C1層, D1層, E1層 (第8表) **出土遺物** なし **時期** 縄文時代

#### RD569 (第13図)

**位置** I区北東部 **重複関係** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ3.62 m, 幅0.28 m, 深さ0.6 m

**埋土** A1~3層, B1~3層, C1層 (第8表) **出土遺物** なし **時期** 縄文時代

**RD571** (第13図)

位置 I区中央部 重複関係 なし 平面形 溝状

規模 長さ2.56 m, 幅0.52~0.7 m, 深さ0.57 m

埋土 A1層, B1層, C1層, D1・2層, E1層(第8表) 出土遺物 なし 時期 縄文時代

・土坑

**RD566** (第14図)

位置 I区北西部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形

規模 長軸0.86 m, 短軸約0.5 m, 深さ0.18 m 埋土 A1・2層, B1・2層(第8表)

出土遺物 須恵器坏破片 時期 古代以降

**RD567** (第14図)

位置 I区北西部 重複関係 なし 平面形 不整円形 規模 径1.34~1.44 m, 深さ0.5 m

埋土 A1層, B1・2層, C1層(第8表) 出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD570** (第14図)

位置 I区中央部 重複関係 なし 平面形 溝状 規模 長さ約1.7 m, 幅0.7 m, 深さ0.44 m

埋土 A1層, B1~3層, C1層(第8表) 出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD572** (第14図)

位置 I区南西部 重複関係 なし 平面形 不整長円形

規模 長軸0.82 m, 短軸0.35 m, 深さ0.24 m 埋土 A1層, B1層(第8表)

出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD573** (第14図)

位置 I区南西部 重複関係 なし 平面形 不整長円形

規模 長軸0.96 m, 短軸0.5 m, 深さ0.2~0.5 m 埋土 A1層, B1・2層, C1・2層(第9表)

出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD574** (第14図)

位置 I区南部 重複関係 なし 平面形 不整長方形

規模 長辺1.04 m, 短辺0.8 m, 深さ0.14 m 埋土 A1層, B1層(第9表)

出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD575** (第14図)

位置 I区南部 重複関係 なし 平面形 溝状

規模 長さ2.35 m, 幅0.6 m, 深さ0.22 m 埋土 A1・2層, B1層(第9表)

出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD576** (第15図)

位置 II区北部 重複関係 なし 平面形 不整円形 規模 径0.5~0.6 m, 深さ0.1 m  
出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD577** (第15図)

位置 II区北部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形  
規模 長軸0.96 m, 短軸0.66 m, 深さ0.15 m 埋土 A1・2層(第9表)  
出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD578** (第15図)

位置 II区北部 重複関係 なし 平面形 不整円形 規模 径0.54~0.58 m, 深さ0.1 m  
出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD579** (第15図)

位置 II区北部 重複関係 なし 平面形 不整長円形  
規模 長軸0.86 m, 短軸0.48 m, 深さ0.2 m 埋土 A1・2層, B1層(第9表)  
出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD580** (第15図)

位置 II区北部 重複関係 なし 平面形 不整方形 規模 一辺0.64 m, 深さ0.22 m  
埋土 A1層, B1・2層(第9表) 出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD581** (第15図)

位置 II区南部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形  
規模 長軸1.1 m, 短軸0.84 m, 深さ0.2 m 埋土 A1・2層, B層(第9表)  
出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD582** (第15図)

位置 II区南部 重複関係 なし 平面形 不整長円形  
規模 長軸1.02 m, 短軸0.54 m, 深さ0.32 m 埋土 A1層, B1層(第9表)  
出土遺物 なし 時期 古代以降

**RD583** (第15図)

位置 II区南部 重複関係 なし 平面形 不整楕円形  
規模 長軸0.96 m, 短軸0.55 m, 深さ0.22 m 埋土 A1~3層(第9表)  
出土遺物 なし 時期 古代以降

・溝跡

**RG098** (第16図)

位置 I区北西部 重複関係 なし

規模等 幅0.38～0.46 m, 延長17.2 m以上(調査区外), 深さ0.15～0.22 m, 北北東から南南西に走る。

埋土 A1・2層, B1層(第9表) 出土遺物 土師器甕・あかやき土器坏破片, 焼成粘土塊

時期 古代以降

**RG101** (第16図)

位置 I区北東部 重複関係 なし

規模等 幅0.32～0.54 m, 延長13.2 m, 深さ0.1～0.16 m, 東北東から南南西に走る。

埋土 A1～3層, B1～3層(第9表) 出土遺物 あかやき土器坏・甕破片 時期 古代以降

**RG102** (第16図)

位置 I区南西部 重複関係 なし

規模等 幅2.2～2.8 m, 延長1.2 m以上, 深さ0.12 m, 北北西から南南東に走る。

出土遺物 なし 時期 古代以降

**RG103** (第17図)

位置 II区北部 重複関係 なし

規模等 幅0.3～0.48 m, 延長2.0 m以上, 深さ0.1 m, 西北西から東南東に走る。

埋土 A1層, B1層 出土遺物 なし 時期 古代以降

**RG104** (第17図)

位置 II区南部 重複関係 なし

規模等 幅0.24～0.36 m, 延長2.2 m以上(調査区外), 深さ0.08 m, ほほ南北に走る。

埋土 A1層, B1層 出土遺物 なし 時期 古代以降

・ビット

I区内に21口, II区内に5口, 計26口の古代以降のビットを検出した(第3～5・18・19図)。ビットの規模は第2表のとおりである。

・旧河道

I区東辺部が旧河道となっており, サブトレンチを入れて確認を行ったが(第4・5・20図), 遺物等の出土はみられなかった。

・縄文石器

遺構埋土及び遺構外検出面等より縄文時代の石器剥片や原石が出土しており, 黒曜石やメノウの石材がみられる。



#### ・弥生土器

遺構埋土及び遺構外検出面等より弥生土器が多数出土している（第40・41図、第17表）。交互刺突文及び沈線文・附加条縄文などが特徴的にみられることから、弥生時代後期の天王山式期・赤穴式期の年代が考えられる。

#### ・中近世陶器

遺構外検出面等より陶器片が出土しており、大堀相馬系灰釉茶碗、灰釉湯飲碗、鉄釉壺など18～19世紀の年代が考えられる。また、12～13世紀の須恵器系大甕底部が表土より採集された。

### (2) 第36次調査（平成28年度）

今次調査区は、遺跡の南東部に位置し、道明地区土地区画整理事業に伴う本調査として実施した（第1図）。調査区は、平成27年度実施の第35次調査Ⅰ区北隣のⅠ区、第35次調査Ⅰ区南隣～平成25・26年度実施の第33・34次調査区域（盛岡市ほか2018）の南隣のⅡ区に分かれており、調査面積は7,974㎡。重機により表土を全面除去し、遺構検出を行った（第2図）。

#### a. 遺構と遺物

検出された遺構は、Ⅰ区が縄文時代の陥し穴21基（RD584～604）、古代の堅穴建物跡1棟（RA246）・堅穴状遺構1基（RE025）、古代以降の土坑1基（RD605）・溝跡2条（RG105・106）、ピット、沢状低地。Ⅱ区が古代の堅穴状遺構1基（RE026）、土坑1基（RD606）、溝跡1条（RG098）、ピットである（第21～23図）。Ⅰ・Ⅱ区の遺構総数は、縄文時代の陥し穴21基（RD584～604）、古代の堅穴建物跡1棟（RA246）・堅穴状遺構2基（RE025・026）、古代以降の土坑2基（RD605・606）・溝跡3条（RG098・105・106）、ピットとなる。

#### ・堅穴建物跡

##### RA246（第24・25図）

**位置** Ⅰ区南東部 **重複関係** なし **平面形** 隅丸方形（出入口状の張り出しあり）

**規模** 北西-南東4.9m、北東-南西4.7m、深さ0.32m、張り出し幅1.8m・長さ0.5m

**カマド方向** W36.0°N、北西カマド、長い煙道（トンネル状、1.5m、底面が床面より一段上がり煙出しがピット状に深くなる）

**カマド** 両袖残存、焚口の焼土面あり

**埋土** A1層、B1～3層、C1層、D1層、E1層、F1層、G1層、L層、J1～11層、K1・2層（第10表）、B1層に灰白色の粉状バミス（十和田a火山灰）が多く混じる。

**床面** 壁際4辺に周溝あり、硬化面・構築土あり、多くの炭化材あり

**柱穴** 主柱穴4口（p1～4、第3表）、ピット8口（p5～12）

**出土遺物**（第38・39図、第15表） 土師器非ロクロ内黒坏（014）・鉢（015）・甕・小型壺破片、あかやき土器甕破片、鉄釘、礫石器、ガラス小玉（018）

**時期** 7世紀代

・竪穴状遺構

RE025 (第26図)

位置 I区北西端 重複関係 なし 平面形 隅丸方形か(床構築土のみ)

規模 東西1.7m以上, 南北1.75m以上(調査区外) カマド 不明

埋土 L1~3層(第10表) 柱穴 なし 出土遺物 なし 時期 9世紀代か

RE026 (第26図)

位置 II区南西部 重複関係 なし 平面形 不整隅丸方形(カマド・煙道なし)

規模 北西-南東3.8m, 北東-南西3.6m, 深さ0.35m 長軸線方向 N31.5°W

埋土 A1~3層, B1層, C1層, D1・2層, L層(第10表)

床面 中央に地床炉, 硬化面・構築土あり, 炭化材あり 柱穴 ビット7口(p1~7)

出土遺物 土師器甕破片, 須恵器甕破片 時期 9世紀代

・陥し穴

RD584 (第27図)

位置 I区西端部 重複関係 なし 平面形 溝状

規模 長さ1.8m以上(調査区外), 幅0.4m, 深さ0.21m 埋土 A1層, B1層, C1層(第11表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

RD585 (第27図)

位置 I区中央部 重複関係 なし 平面形 溝状 規模 長さ4.14m, 幅0.44m, 深さ0.94m

埋土 A1・2層, B1層, C1層, D1層, E1層, F1層, G1層(第11表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

RD586 (第27図)

位置 I区中央部 重複関係 なし 平面形 溝状 規模 長さ3.2m, 幅0.61m, 深さ0.98m

埋土 A1・2層, B1層, C1層, D1・2層, E1層(第11表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

RD587 (第27図)

位置 I区中央部 重複関係 なし 平面形 溝状 規模 長さ3.66m, 幅0.43m, 深さ0.91m

埋土 A1・2層, B1層, C1層, D1・2層, E1層(第11表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

RD588 (第27図)

位置 I区中央部 重複関係 なし 平面形 溝状 規模 長さ3.11m, 幅0.44m, 深さ0.91m

埋土 A1・2層, B1層, C1・2層, D1層, E1層(第11表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

**RD589** (第28図)

**位置** I区中央部 **重複関係** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ3.96m, 幅0.56m, 深さ1.03m  
**埋土** A1層, B1・2層, C1層, D1層, E1層, F1層(第11表)  
**出土遺物** なし **時期** 縄文時代

**RD590** (第28図)

**位置** I区中央部 **重複関係** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ3.22m, 幅0.52m, 深さ0.71m  
**埋土** A1~3層, B1・2層, C1層, D1層(第11表) **出土遺物** なし **時期** 縄文時代

**RD591** (第28図)

**位置** I区中央部 **重複関係** なし **平面形** 溝状  
**規模** 長さ1.4m以上(調査区外), 幅0.41m, 深さ0.76m  
**埋土** A1・2層, B1層, C1・2層, D1層, E1・2層(第11表)  
**出土遺物** なし **時期** 縄文時代

**RD592** (第28図)

**位置** I区中央部 **重複関係** なし **平面形** 溝状 **長さ** 2.98m, 幅0.54m, 深さ0.79m  
**埋土** A1・2層, B1・2層, C1層, D1層, E1・2層, F1層, G1層(第12表)  
**出土遺物** なし **時期** 縄文時代

**RD593** (第28図)

**位置** I区中央部 **重複** なし **平面形** 溝状  
**規模** 長さ4.47m, 幅0.31~0.55m, 深さ0.63m  
**埋土** A1~3層, B1層, C1層, D1層, E1層, F1層(第12表)  
**出土遺物** なし **時期** 縄文時代

**RD594** (第29図)

**位置** I区中央部 **重複関係** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ3.6m, 幅0.45m, 深さ1.03m  
**埋土** A1層, B1・2層, C1・2層, D1・2層, E1層(第12表)  
**出土遺物** なし **時期** 縄文時代

**RD595** (第29図)

**位置** I区中央部 **重複** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ3.82m, 幅0.4~0.5m, 深さ1.12m  
**埋土** A1・2層, B1層, C1層, D1層, E1層, F1・2層, G1層(第12表)  
**出土遺物** なし **時期** 縄文時代

**RD596** (第29図)

**位置** I区中央部 **重複** なし **平面形** 溝状 **規模** 長さ4.24m, 幅0.44~0.59m, 深さ1.1m

埋土 A1・2層, B1・2層, C1層, D1層, E1層, F1層, G1層 (第12表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

**RD597** (第29図)

位置 I区中央部 重複関係 なし 平面形 溝状 規模 長さ3.6m, 幅0.55m, 深さ1.21m

埋土 A1・3層, B1層, C1層, D1・2層, E1・2層, F1層 (第12表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

**RD598** (第29図)

位置 I区中央部 重複関係 なし 平面形 溝状 規模 長さ3.72m, 幅0.65m, 深さ1.08m

埋土 A1・2層, B1・2層, C1層, D1・2層, E1層, F1層 (第13表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

**RD599** (第30図)

位置 I区中央部 重複 なし 平面形 溝状 規模 長さ3.64m, 幅0.46~0.64m, 深さ1.21m

埋土 A1・2層, B1・2層, C1層, D1・2層, E1層, F1層, G1層, H1層, I1層, J1層 (第13表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

**RD600** (第30図)

位置 I区中央部 重複 なし 平面形 溝状 規模 長さ3.85m, 幅0.44~0.57m, 深さ0.98m

埋土 A1・2層, B1・2層, C1層, D1層, E1層 (第13表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

**RD601** (第30図)

位置 I区中央部 重複 なし 平面形 溝状 規模 長さ4.22m, 幅0.56~0.8m, 深さ1.1m

埋土 A1層, B1・2層, C1層, D1層, E1層, F1層 (第13表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

**RD602** (第30図)

位置 I区中央部 重複 RD603 平面形 溝状 規模 長さ1.74m, 幅0.45m, 深さ0.72m

出土遺物 なし 時期 縄文時代

**RD603** (第30図)

位置 I区中央部 重複 RD602 平面形 溝状 規模 長さ2.65m, 幅0.59m, 深さ0.94m

出土遺物 なし 時期 縄文時代

**RD604** (第30図)

位置 I区中央部 重複関係 なし 平面形 溝状 規模 長さ3.27m, 幅0.78m, 深さ1.27m

埋土 A1・2層, B1・2層, C1層, D1層, E1・2層, F1層, G1層 (第13表)

出土遺物 なし 時期 縄文時代

#### ・土坑

RD605 (第31図)

位置 I区北部中央 重複関係 なし 平面形 円形 規模 径0.74 m, 深さ0.44 m

埋土 A1層, B1層, C1層, D1層 (第13表) 出土遺物 なし 時期 古代以降

RD606 (第31図)

位置 II区南西部 重複関係 なし 平面形 不整隅丸長方形

規模 長辺0.9 m, 短辺0.65 m, 深さ0.48 m

埋土 A1~3層, B1層, C1・2層, D1層, E1層 (第14表)

出土遺物 土師器甕破片 時期 古代以降

#### ・溝跡

RG098 (第31図)

位置 II区南西部 重複関係 なし

規模等 幅0.35~0.46 m, 延長8.55 m以上(調査区外), 深さ0.12~0.2 m, 北北東から南南西に走る。

埋土 A1層, B1層, C1層 (第14表) 出土遺物 土師器甕破片 時期 古代以降

RG105 (第31図)

位置 I区西部 重複関係 なし

規模等 幅0.45~0.52 m, 延長21.5 m, 深さ0.08~0.22 m, 西北西から東南東へ途切れながら走る。

埋土 A1層, B1層, C1層, D1層 (第14表) 出土遺物 なし 時期 古代以降

RG106 (第31図)

位置 I区中央南西部 重複関係 なし

規模等 幅0.28~0.34 m, 延長2.67 m, 深さ0.06~0.12 m, 北東から南西へやや湾曲しながら走る。

埋土 A1層 (第14表) 出土遺物 なし 時期 古代以降

#### ・ピット

I区内に51口, II区内に8口, 計59口の古代以降のピットを検出した(第21~23・32~34図)。ピットの規模は第4表のとおりである。

#### ・旧河道

II区北東部が第35次調査I区から続く旧河道になっており, サプトレンチを入れて確認を行ったところ(第21・35図), 土師器環・甕破片, 須恵器環破片, あかやき土器甕破片が出土した。

・土製品

遺構外検出面・攪乱より土玉（第39図017、第16表）、フイゴ羽口破片が出土した。

・縄文土器・石器

I区遺構外検出面より深鉢形土器体部破片、I区表土・攪乱より石核（玉髄）・剥片（頁岩）、II区旧河道より剥片（頁岩）が出土した。

・弥生土器

遺構埋土・旧河道及び攪乱内より弥生土器が多数出土している（第42図、第17表）。交互刺突文及び沈線文・附加条縄文などが特徴的にみられることから、弥生時代後期の天王山式期・赤穴式期の年代が考えられる。

## 第4章 総括

### 1. 調査のまとめ

盛岡市教育委員会で行った平成27・28年度の細谷地遺跡発掘調査により、第3章に記載した内容の成果を得ることができた。

以下、調査内容のまとめを行い、総括とする。主体となる古代の竪穴建物跡・竪穴状遺構の一覧は挿表2のとおりである。なお、古代土器群の年代観は、津嶋2013・2015に従った。

### 細谷地遺跡第35・36次調査

平成27・28年度に行った第35・36次調査は、平成25・26年度の第33・34次調査区の東及び南に隣接する一体的なエリアであり、2ヶ年で行った調査区全体で検出された遺構総数は、縄文時代の陥し穴24基(RD568・569・571・584～604)、古代の竪穴建物跡7棟(RA240～246)・竪穴状遺構3基(RE024～026)、古代以降の土坑17基(RD566・567・570・572～583・605・606)・溝跡7条(RG098・101～106)などである。

〔古代〕 古代の遺構としては、竪穴建物跡7棟と竪穴状遺構3基が検出されている。このうち竪穴建物跡6棟と竪穴状遺構2基が第35次調査Ⅰ区北部から第36次調査Ⅱ区に集中し、第36次調査Ⅰ区東端に竪穴建物跡1棟、第36次調査Ⅰ区北西端に竪穴状遺構1基がそれぞれ単独で検出された。重複があるのは北部のRA244とRE024のみ、カマドの作り替えはRA244のみに認められる。RA240・242とRE024～026にはカマド・煙道がないが、床面中央に焼土面があり、地床炉と考えられる。年代別に見ると、7世紀が北部の第35次調査Ⅰ区RA240と、南の第36次調査Ⅰ区RA246、9世紀中葉～後葉が北部の第36次調査Ⅰ区RA241、9世紀後葉が北部の第36次調査Ⅰ区RA244・245であり、その他は出土土器が少なく9世紀代と推定されるに留まる。

挿表2 古代竪穴建物跡・竪穴状遺構一覧表

遺跡名	次敷区	遺構名	カマド方向 長軸線方向	煙道等	カマド袖	一辺長 (m)	貯蔵穴	床硬化面	主柱穴	周溝	灰白色火山灰 (十和田a)	時期
細谷地	35	RA240	N32.0°E 北東	地床炉あり、カマドなし	—	3.95～5.1	なし	なし	6口	周溝あり	なし	7世紀
		RA241	S36.0°E 南東	長い煙道	両袖残存	4.2～5.0	3基	なし	4口	周溝あり	埋土層	9世紀中葉～後葉
		RA242	W41.5°N 北西	地床炉あり、カマドなし	—	3.0～3.55	なし	なし	なし	なし	なし	9世紀代
		RA243	E24.0°N 北東	張り出しあり、カマドなし	—	1.9～2.0	なし	硬化面あり	なし	なし	なし	9世紀代
		RA244a	E26.5°N 北東	長い煙道(トンネル状)	両袖残存	2.4～2.85	なし	なし	なし	なし	なし	9世紀後葉
		RA244b	N29.5°W 北西	長い煙道(トンネル状)	なし	—	なし	なし	なし	なし	なし	9世紀後葉
		RA245	E11.0°N 東	長い煙道、地床炉あり	なし	4.1～5.2	1基	なし	なし	なし	なし	9世紀後葉
		RE024	W41.0°N 北西	地床炉あり、カマドなし	—	1.9～2.95	なし	なし	なし	なし	なし	9世紀代
		次敷区	遺構名	カマド方向 長軸線方向	煙道等	カマド袖	一辺長 (m)	貯蔵穴	床硬化面	主柱穴	周溝	灰白色火山灰 (十和田a)
36	RA246	W36.0°N 北西	長い煙道(トンネル状)、張り出しあり	両袖残存	4.7～4.9	なし	硬化面あり	4口	周溝あり	埋土層	7世紀	
	RE026	N31.5°W 北西	地床炉あり、カマドなし	—	3.6～3.8	なし	硬化面あり	なし	なし	なし	9世紀代	

7世紀の年代が考えられる堅穴建物 RA240 (第6図)は、一辺 3.95~5.1 mの隅丸長方形でカマド・煙道はなく、床面中央に地床炉を持つ。壁際4辺に周溝がめぐり、そこに主柱穴が6本配置されている。盛南地区の古代の堅穴建物としては特異な構造であり、中型の工房の可能性が考えられる。一方、同年代と考えられる RA246 (第24図)は、RA240から約 130 m南に離れて位置し、一辺 4.7~4.9 mの隅丸方形でカマドと煙道・煙出しが残存する中型住居であり、カマドの反対辺に出入口状の張り出しを持つ。北西カマドで煙道が長く列り貫きのトンネル状、底面が床面より一段上がり煙出しがピット状に深くなっている。壁際4辺に周溝があり、床の硬化面が広く張り出し部まで広がっている。柱痕跡のある柱穴4口を主柱穴と考えたが配置が偏っている。埋土上層のB1層に灰白色粉状パミス(十和田 a 火山灰, 915 年降下)が多く混じっている。

出土土器について図化できたものは RA240 が1点(第37図 012)、RA246 が2点のみである(第38図 014・015)。012は RA240の主柱穴から出土した土師器小型甕であり、口縁部がやや内湾している。RA246埋土下層のD層から出土した 014は土師器の非口内黒小型甕である。口縁部下に小さく段を持つ形状が台太部遺跡や野古 A 遺跡で出土している関東系土師器に類似しているように見えるが(盛岡市遺跡の学び館 2017)、内黒の内面調整が横方向のミガキである点が異なっている。床面から出土した 015は、口縁部が内湾する土師器鉢で内黒処理がされている。

RA240・246は炭化材の放射性炭素(<sup>14</sup>C)の年代測定による暦年代推定と樹種同定を行った(附章参照)。RA240 L層(床構築土)出土炭化材(資料 No.1)の暦年代範囲(2σ)は、771~898 calAD (90.4%)であり、出土土器からの年代観(7世紀代)と比較すると、150年以上新しい結果であった。一方、RA246の埋土最下層(F層)出土の炭化材8点(資料 No.5~12)の暦年代範囲(2σ)は、最も古い資料 No.7が643~688 calAD (95.4%)、最も新しい資料 No.8が664~723 calAD (63.4%)であり、出土土器からの年代観(7世紀代)と比較すると、暦年代範囲と土器年代観後半が重複する結果であり、土器年代が7世紀後半に限定できる可能性が高い。樹種は、資料 No.10のみクリであり、その他はコナラ節(日本ではコナラ、ミズナラ、カシワ、ナラガシワの4種)またはコナラ亜属であった。ともに里山林を構成する主要樹種で入手しやすく、硬い材質であり、出土状況とともに堅穴建物の建築部材(垂木など)であったと推定される。

また特徴的な遺物として、RA246のB2層より径7 mmの紺色透明のガラス小玉(第39図 018)が出土している。実体顕微鏡観察および蛍光X線分析法による材質分析によると(附章参照)、本ガラス小玉の製法は軟化したガラスを引き伸ばしたガラス管を分割して小玉を得る「引き伸ばし法」と判断されている。また、基礎ガラスの材質はナトリウム(Na<sub>2</sub>O)を14.3%含有するソーダガラスであり、化学組成の特徴から植物灰タイプのソーダガラス(Group S III)に相当し、その細分は引き伸ばし法で製作された紺色ガラス小玉であることから Group S III Bとなる。着色に関する成分は、コバルトイオンが主たる着色要因であるほか、マンガン(MnO)の含有量が少なく銅(CuO)および鉛(PbO)をわずかに含んでおり、Group S III Bのガラス小玉に一般的な特徴を示している。Group S III Bの具体的生産地は特定されていないが、化学組成の特徴から西アジア~中央アジアと考えられており、日本列島では古墳時代中期後半に出現し、後期後半頃まで流入が続いたと考えられている。出土土器の年代観(7世紀代、古墳時代後期後半)、出土炭化材の放射性炭素(<sup>14</sup>C)の年代測定による暦年代推定(7世紀後半~8世紀前半、古墳時代末~奈良時代初頭)と年代的に矛盾せず、遠くアジア大陸の西方で生産された紺色に輝くガラス小玉が、アジア東端の東北地方北部にまで届いていたことが明らかとなった。盛岡市内では、中津川地区の薬師社脇遺跡の土坑墓2基(古墳時代中期後半、南小泉式後半)より出土した38点のガラス小玉(紺色透明、濃青色透明、青色透明)の自然科学的調査が行われており(田村 2017)、製法では「引き伸ばし法」と「包み巻き法」が、蛍光X線分析で



はコバルト着色のカリガラス小玉、濃青色のガラス小玉、ナトロンガラス小玉、コバルト着色の植物灰タイプのソーダガラス製小玉があることが報告されている。

9世紀中葉～後葉の年代が考えられる堅穴建物 RA241 (第7図) は、一辺 4.2～5.0 m の隅丸長方形で、カマド両袖と煙道が残存する中型住居である。南東カマドで煙道が長く、底面が床面より一段上がり煙出しがピット状に深くなる。カマドが付く辺を除く壁際 3 辺に周溝があり、貯蔵穴が 3 基ある。支柱穴は 4 口。埋土上層の A1 層・B1 層に灰白色粉状バミス (十和田 a 火山灰) が混じる。

出土土器で図化できたものは 6 点 (第 36 図) で、底径の比較的大きいロクロ土器内黒環 (001～004) と須恵器環 (005) がある一方、作りがやや複雑な土器器壺 (006) がカマド支脚に使用されていることから、9世紀中葉～後葉の年代が想定される。ロクロ土器内黒環には、口縁の一部をきれいに大きく打ち欠いたもの (001) や、墨書土器 (002) がみられる。

RA241 も炭化材の放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) の年代測定による暦年代推定と樹種同定を行った (附章参照)。カマド中央床面出土炭化材 (資料 No.2) の暦年代範囲 (2 $\sigma$ ) は 671～778 calAD (93.2%)、貯蔵穴内出土炭化材 (No.3) の暦年代範囲 (2 $\sigma$ ) は 765～885 calAD (93.2%) であった。出土土器からの年代観 (9世紀中葉～後葉) と比較すると、資料 No.2 は約 100～200 年古く、資料 No.3 は暦年代範囲 (1 $\sigma$ ) 838～866 calAD (24.0%) が一致する。資料 No.2 の結果は古木効果と考え、資料 No.3 の結果を採用すれば、土器の年代が 9世紀中葉に限定できる可能性が高い。樹種は、2 点ともコナラ節であった。

9世紀後葉の年代が考えられる堅穴建物 2 棟のうち、RA244 (第 10 図) はカマドの作り替えがある一辺 2.4～2.85 m の隅丸長方形の小型住居である。新期のカマド a は北東カマドで煙道が長く斜り貫きのトンネル状、底面が床面より一段上がり煙出しがピット状に深い。古期のカマド b は北西カマドで煙道が長く斜り貫きのトンネル状、底面は床面より水平にのび煙出しがピット状に深くなっている。RA245 (第 11 図) は、一辺 4.1～5.2 m の隅丸長方形の中型住居。東カマドで、煙道は長い溝状、底面が床面より一段上がり煙出しがピット状に深い。北辺中央付近に地床ががあるほか、床面の一部に焼土と炭化材が広がる。

出土土器で図化できたものは計 6 点 (第 36・37 図)。ロクロ土器内黒環 (007・008) とあかやき土器環 (009・010・013)・壺 (011) が組成することから 9世紀後葉と考えられる。RA244 から墨書土器 (013「×」) が出土している。

RA245 も炭化材の放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) の年代測定による暦年代推定と樹種同定を行った (附章参照)。埋土下層 (C 層) 出土炭化材 (資料 No.4) の暦年代範囲 (2 $\sigma$ ) は 774～902 calAD (78.7%) であった。出土土器からの年代観 (9世紀後葉) と比較すると、暦年代範囲 (1 $\sigma$ ) 862～896 calAD (29.0%) が一致しており、妥当な結果と言える。樹種はトチノキであり、保存性に乏しいが柔らかく加工しやすい材質から、木製品の一部または燃料材であった可能性が考えられる。

また、RA245 から出土している砥石 (第 39 図 016) は、小型で形状が<sup>175</sup>撥形であり、志波城跡から特徴的に出土している「有孔砥石」(川田 2013) に類似している。

図化できる土器がなかった RA242・243、RE026 はいずれもカマド・煙道がなく、地床が出入口口の張り出しがあり、ロクロ土器環や須恵器・あかやき土器の破片が埋土より出土していることから、9世紀代の工房や倉庫であった可能性が考えられる。

RE026 は炭化材の放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) の年代測定による暦年代推定と樹種同定を行った (附章参照)。壁際の埋土下層 (D 層) 出土炭化材 (資料 No.13) の暦年代範囲 (2 $\sigma$ ) は 536～632 calAD (95.4%) であった。

細谷地遺跡の道明地区で行われた第 29・32～36 次調査で確認された古代の堅穴を年代別に色分けして模

式図としたのが挿図3である。7世紀の堅穴は少数で、東端の旧河道近くに遠く離れて分布している。8世紀～9世紀前葉には堅穴が増加して、北部～中部にまばらに分布している。9世紀中葉～10世紀には堅穴がさらに増加し、北部、中央部、北東部の3箇所に分布が広がっていることがわかる。

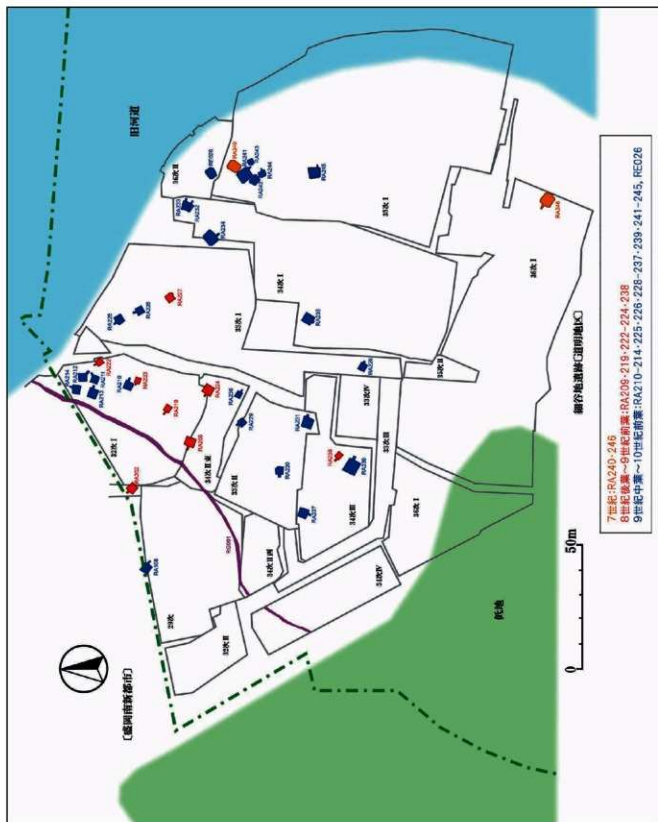
**〔先史〕** 先史時代の遺構・遺物としては、隣接する第33・34次調査区から続く縄文時代の陥し穴が多数検出され、また弥生土器も比較的多く出土している。

縄文時代の陥し穴は、第35次調査Ⅰ区北半部から3基、第36次調査Ⅰ区中央部から21基が検出されているが、これらは第35次調査Ⅰ区北西部のRD568を北端として、その南西に位置する第34次調査Ⅰ区に南北に並ぶ7基、その南に位置する第36次調査Ⅰ区中央に北東から南西に並ぶ21基まで、全長約135m・幅約20mにわたる大規模な陥し穴群となっている。この陥し穴群は、南端の第36次調査Ⅰ区内では沢状低地に挟まれており、当該地が獣道を狙った狩猟場であったと考えられる。出土土器がないため陥し穴群の詳細な年代は不明であるが、道明地区で唯一特徴的な縄文土器が出土した第32次調査RD521土坑（盛岡市ほか2018）が、縄文時代晩期後葉の年代であることを考慮すると、陥し穴群もそれに近い年代が想定される。

弥生土器は、第35次調査Ⅰ区の古代遺構埋土及び遺構外検出面、第36次調査Ⅰ区東端古代遺構埋土及びⅡ区旧河道・擾乱内から甕・壺の破片が出土している（第40～42図）。交互刺突文及び沈線文・附加条縄文が特徴的に見られることから、弥生時代後期の天王山式・赤穴式期の年代が考えられる。細谷地遺跡では、北西に隣接する第33・34次調査区でも赤穴式期の甕の破片が多く出土している（盛岡市ほか2018）。盛南地区遺跡群の中での類別としては、細谷地遺跡の北方に所在する台太郎遺跡の第25・27次、第67次調査区（都市再生機構ほか2010・2015）で、同年代の土器群が多く出土している。

## 〔引用・参考文献〕

- 川田壽文 2013 「紙礫考3—古代の砥石—」『白門考古論叢Ⅲ』中央大学考古学研究会創設45周年記念論文集
- 田村朋美 2017 「附章 薬師社遺跡出土ガラス小玉の分析調査」『盛岡市遺跡の学び館 平成27年度 館報』盛岡市遺跡の学び館
- 津嶋知弘 2013 「古代『新波（志波）』郡北部の土器群変遷（その1）—半石川南岸所在遺跡の盛岡市教育委員会発掘調査資料を中心に—」盛岡市遺跡の学び館学芸レポートVol.2（盛岡市ホームページ）
- 津嶋知弘 2015 「古代『新波（志波）』郡北部の土器群変遷（その2）—半石川南岸所在遺跡の盛岡市教育委員会発掘調査資料②—」盛岡市遺跡の学び館学芸レポートVol.4（盛岡市ホームページ）
- （独）都市再生機構・盛岡市・盛岡市教育委員会 2010 「盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅲ—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成5～12年度発掘調査③— 台太郎遺跡」
- （独）都市再生機構・盛岡市・盛岡市教育委員会 2015 「盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅳ—盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成19～21年度発掘調査— 大宮北遺跡・小幡遺跡・宮沢遺跡・本宮熊堂B遺跡・台太郎遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・細谷地遺跡・矢登遺跡・夕覚遺跡」
- 盛岡市・盛岡市教育委員会 2018 「盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅹ—道明地区土地区画整理事業関連遺跡平成20～26年度発掘調査— 細谷地遺跡・夕覚遺跡」
- 盛岡市遺跡の学び館 2017 「『志波城前夜』の蝦夷（エミシ）社会—9世紀初頭以前の盛南地区—」第15回企画展図録



挿図3 箱谷地遺跡南東部(道明地区)竪穴建物等分布模式図



表



第1表 細谷地遺跡第35次調査竪穴建物跡主柱穴規模等一覧表

遺構	柱穴	径 (m)	深さ (m)	平面形	柱痕跡
RA240 竪穴住居跡	p 1	0.32	0.38	不整円形	×
	p 2	0.22	0.22	不整円形	不明
	p 3	0.20	0.22	不整円形	不明
	p 4	0.16~0.28	0.22	不整長円形	不明
	p 5	0.16~0.28	0.30	不整長円形	不明
	p 6	0.20~0.26	0.28	不整長円形	不明
RA241 竪穴住居跡	p 1	0.26	0.27	不整円形	あり
	p 2	0.32	0.48	不整円形	あり
	p 3	0.24	0.12	不整円形	×
	p 4	0.46	0.48	不整円形	あり

第2表 細谷地遺跡第35次調査ビット計測表

No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)
1	0.33	0.15	11	0.28	0.28	21	0.26~0.30	0.18
2	0.46	0.15	12	0.45~0.55	0.23	22	0.20	0.12
3	0.32~0.36	0.17	13	0.25	0.16	23	0.18	0.10
4	0.28	0.30	14	0.20	0.14	24	0.30	0.21
5	0.31	0.30	15	0.20	0.11	25	0.22	0.14
6	0.34	0.30	16	0.20	0.14	26	0.25	0.20
7	0.30	0.12	17	0.18~0.22	0.22			
8	0.34	0.25	18	0.21	0.15			
9	0.40	0.22	19	0.20	0.07			
10	0.26~0.34	0.40	20	0.29	0.12			

第3表 細谷地遺跡第36次調査竪穴建物跡主柱穴規模等一覧表

遺構	柱穴	径 (m)	深さ (m)	平面形	柱痕跡
RA246 竪穴住居跡	p 1	0.25	0.15	不整形	あり
	p 2	0.25	0.17	不整形	あり
	p 3	0.21	0.16	不整形	あり
	p 4	0.19	0.11	不整形	あり

第4表 細谷地遺跡第36次調査ビット計測表

No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)
1	0.20~0.27	0.15	21	0.36	0.14	41	0.22	0.28
2	0.27	0.12	22	0.42	0.21	42	0.22	0.08
3	0.28	0.17	23	0.46~0.64	0.16	43	0.40~0.48	0.18
4	0.42	0.12	24	0.28	0.15	44	0.21	0.25
5	0.26	0.12	25	0.20	0.05	45	0.28	0.13
6	0.27	0.08	26	0.30~0.38	0.10	46	0.25	0.13
7	0.36	0.12	27	0.38	0.14	47	0.31	0.12
8	0.23~0.38	0.15	28	0.21	0.24	48	0.40~0.50	0.16
9	0.25	0.06	29	0.24~0.34	0.11	49	0.28~0.33	0.15
10	0.40~0.55	0.10	30	0.30~0.38	0.14	50	0.27	0.17
11	0.20	0.32	31	0.45~0.58	0.10	51	0.45~0.50	0.30
12	0.26	0.26	32	0.20	0.23	52	0.33	0.13
13	0.34~0.53	0.16	33	0.35	0.14	53	0.25	0.30
14	0.33	0.12	34	0.25	0.06	54	0.36~0.50	0.22
15	0.44	0.15	35	0.20~0.30	0.08	55	0.45	0.22
16	0.43	0.18	36	0.30~0.40	0.12	56	0.27	0.24
17	0.41~0.50	0.11	37	0.30~0.37	0.16	57	0.30	0.25
18	0.36	0.22	38	0.43	0.11	58	0.30	0.14
19	0.34~0.47	0.10	39	0.30	0.10	59	0.20	0.12
20	0.25~0.36	0.14	40	0.28	0.28			



第5表 細谷地遺跡第35次調査遺構土層観察表(1)

遺構名	層名	主要土				含有土		観察	状態	その他	
		土色 (JIS)	土性 (備考)	土色 (JIS)	土性 (備考)	状態	%				
RA240 掘穴(雑物層)	A1	10YR1/7 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	小塊～大塊	10-15	中	中		
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～大粒	1-2				
	A2	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	小塊	3-5	中	中	炭化物や中々多く混じる	
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～中粒	3-5				
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	20-25	中	中		
	C1	7.5YR3/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小塊～塊	30-35	中	中		
	D1	10YR1/7 1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	小塊～小塊	10-15				
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	2-3				
	E1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	20-25	中	中		
	F1	10YR1/7 1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	極小粒	10-15	中	中	中～硬	
	G1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	高濃度土
	G2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	10-15	中	中	高濃度土	
	L	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～大塊	40-50	中～硬	硬	土層数異なる	
	RA241 掘穴(雑物層)	A1	10YR1/7 1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 灰白色	SCL シルト質凝結土	小塊～塊	10-15	中	中	灰白色粉状ハミス層混入
—					—	—	—	—	—	—	
B1		10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 灰白色	粉状ハミス	極小塊～塊	20-25	中	中		
C1		10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	1-2				
				10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	3-5	中	中		
C2		10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	—	1-5				
				10YR1/7 1 黒色	SCL シルト質凝結土	—	3-2				
C3		10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	5YR4/6 赤褐色	塊土	小粒	微量				
				10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	20-25	中	中		
D1		10YR1/7 1 黒色	SCL シルト質凝結土	5YR4/6 赤褐色	塊土	小粒	微量				
				10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	小粒	10-15	中	中	あかやき土混入	
E1		10YR2/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	1-2				
				5YR3/6 赤褐色	塊土	中粒	少量				
E2		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	3-5	中～硬	硬		
F1		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	25-30	中～硬	中～硬		
F2		10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～小粒	1-2				
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	10-15	中	中		
G1		10YR1/7 1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	15-20	中	中		
G2		10YR1/7 1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	1-2	中	中	炭化物多量混入	
H1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	極小～小粒	35-40	中～硬	硬	高濃度土		
J1-9	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
L	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊	15-20	中～硬	硬	炭凝土		
K1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～中粒	10-15	中	中	カマド縁凝結土		
			5YR4/6 赤褐色	塊土	小粒～中粒	少量				炭化物少量混入	
K2	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	極小粒～小粒	2-3	中	中	カマド縁凝結土		
			5YR4/6 赤褐色	塊土	小粒	少量					
K3	5YR4/6 赤褐色	SCL シルト質凝結土	7.5YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	極小粒～大塊	25-30	中～硬	中～硬	カマド縁凝結土		
			10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	小粒～塊	7-10					
K4	7.5YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	7.5YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	極小粒	7-10	中～硬	中～硬	カマド縁凝結土		
			10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	極小粒	2-3					
K5	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	5YR3/6 赤褐色	塊土	極小粒～中粒	少量					
			10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	極小粒～塊	1-2					
K6	10YR1/7 1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	極小粒～塊	1-2					
			10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	極小粒～塊	1-2					
K8	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	5-7	中	中	カマド縁凝結土		
			10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	7-10	中	中			
p6-A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	7-10	中	中			
			5YR3/6 赤褐色	塊土	小粒	少量					
p6-B1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	7-10	中	中			
			7.5YR4/6 褐色	塊土	小粒～中粒	5-7					
p6-C1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～極小粒	5-7	中	中			
			5YR4/6 赤褐色	塊土	極小粒	微量					
p6-C2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7 1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒	7-10	中	中	炭化物微量混入		
			5YR4/6 赤褐色	塊土	極小粒	微量					
p6-C3	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	3-5	中	中	炭化物少量混入		
			5YR4/6 赤褐色	塊土	極小粒	少量					
p6-D1	10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	2-3	中	中			
			5YR3/6 赤褐色	塊土	極小粒～大塊	少量					
			5YR4/6 赤褐色	塊土	極小粒～小粒	少量					

第6表 細谷地遺跡第35次調査遺構土層観察表(2)

遺構名	層名	主要土		含有土		強度	%	層数	状態	その他	
		土色 (JIS)	土性 (備考)	土色 (JIS)	土性 (備考)						
RA241 第六層被褥土 p7 (附観穴)	p7-A1	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	25-30	1	中	中	
				10YR4/4褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	1				
				5YR4/3赤褐色	焼土	粒	多量				
	p7-A2	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4褐色	SCL シルト質凝結土	粒～極小粒	2-3	中	中	中	
				10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	粒～極小粒	1-2				
				5YR4/3赤褐色	焼土	粒	多量				
	p7-A3	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4褐色	SCL シルト質凝結土	粒～大塊	50	中	中	中	炭化物粒少量混入
				5YR4/3赤褐色	焼土	粒	少量				
				10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～大塊	7-10				
	p7-A4	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	2-3	中	中	中	炭化物粒多量混入
				10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	2-3				
				5YR4/3赤褐色	焼土	粒	多量				
7.5YR4/6褐色				焼土	粒	少量					
10YR2/2黒褐色				SCL シルト質凝結土	小粒～大塊	7-10					
p7-B1	10YR3/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/3赤い壤褐色	SCL シルト質凝結土	粒～大塊	7-10	中	中	中		
			10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	3-5					
			10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	3-5					
p7-B2	10YR3/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	15-20	中	中	中		
			10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	1-2					
			10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	2-3					
RA242 第六層被褥土 p8 (附観穴)	p8-A1	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	2-3	中	中	中	
				10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒	1-2				
				10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～小塊	7-10				
	p8-A2	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～小塊	2-3	中	中	中	
				10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	10-15				
				10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒～小塊	15-20				
	p8-B1	10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	15-20	中	中	中	
				10YR4/4褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～小塊	1-2				
				10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	1-2				
	p8-C1	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊	10-15	中	中	中	炭化物粒少量混入
				10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	3-5				
				10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	2-3				
p8-C2	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	7.5YR3/4暗褐色	焼土	小粒	35-40	中	中	中	炭化物粒多量混入	
			10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	粒～層	10-15					
			10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒	2-3					
p8-D1	10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	20-25	中	中	中	炭化物粒少量混入	
			7.5YR4/6褐色	焼土	中粒	少量					
			10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～大塊	20-25					
p8-E1	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	7.5YR4/6褐色	焼土	中粒	少量	中	中	中		
			10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	粒～大塊	20-25					
			7.5YR4/6褐色	焼土	小粒～中粒	少量					
p8-L2	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	粒～大塊	10-15	中	中	中		
			10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒	1					
			10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	1					
RA243 第六層被褥土	A1	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	1	中	中	中	
				10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒	1				
				10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	1				
	A2	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒	1	中	中	中	
				10YR3/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	2-3				
				10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒	1				
	A3	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	2-3	中	中	中	
				10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒	2-3				
				10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	2-3				
	B1	10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	2-3	中	中	中	
				10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	1-2				
				10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒	10-15				
	C1	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒～小塊	10-15	中	中	中	
				10YR4/4褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～小塊	4-10				
				10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～小塊	15-20				
	D1	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒	1-2	中	中	中	
				10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	2-3				
				10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	小粒～小塊	10-15				
	E1	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～小粒	10-15	中	中	中	
				7.5YR4/6褐色	焼土	小粒	微量				
				10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～塊	7-10				
	E2	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～塊	7-10	中	中	中	
				10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	—	7-10				
				10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	—	1				
A2	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4褐色	SCL シルト質凝結土	—	10-15	中	中	中		
			10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	—	2					
			10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	—	7-10					
A3	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	—	7-10	中	中	中		
			10YR4/6褐色	SCL シルト質凝結土	—	2					
			10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	—	1-2					
B1	10YR3/4暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	—	1-2	中	中	中	炭素付に炭化物多量に混入	
			10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7					
			10YR4/4褐色	SCL シルト質凝結土	—	1					
C1	10YR1/7/1黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	—	20-25	中	中	中	炭素凝土	
			10YR4/4褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7					
			10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7					
L1	10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4褐色	SCL シルト質凝結土	—	20-25	中	中	中	炭素凝土	
			10YR4/4褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7					
			10YR2/2黒褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7					

第7表 細谷地遺跡第35次調査遺構土層観察表(3)

遺構名	層名	主要土		合併土		状態	%	観察	取戻	その他
		土色 (JIS)	土性 (備考)	土色 (JIS)	土性 (備考)					
RA246 第六建物跡	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	3-5	中～硬	中～密	
	A2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7	中～硬	中～密	
	B1	10YR1/7 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/1 褐色	SCL シルト質凝結土	—	1	中	中	
	C1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	7-10	中	中	
	C2	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	2-3	中	中	
	C3	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	7-10	中	中	
	C4	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	2-3	中	中	
	C5	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	10-15	中	中	
	C6	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	10-20	中	中	
	C7	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7	中	中	
	D1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	1	中	中	
	D2	10YR1/7 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	1	中	中	
	E1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	10-15	中	中	
	L	—	—	—	—	—	—	—	—	—
遺構 a	J1	10YR3/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	—	3-5	中～硬	中～密	
	J2	10YR3/4 暗褐色	SL シルト質凝結土	10YR1/7 黒色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	10-15	中	中	
				7.5YR2/3 暗褐色	SL シルト質凝結土	小粒～中粒	2-3	中	中	
	J3	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	3-5	中	中	
	J4	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	5-7	中	中	
	J5	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	15-20	中	中～密	
	J6	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	—	7-10	中	中	粘土粒混じる
	K1	10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	2-3	中	密	カマド基礎跡土
					SCL シルト質凝結土	小粒	7-10	中	密	カマド基礎跡土
	K2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	2-3	中	密	カマド基礎跡土
	遺構 b	J1	10YR1/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～塊	20-30	中	中
5YR3/6 赤褐色					塊土	小粒	塊			
J2		10YR1/7 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～小塊	20-25	中	中	
					5YR4/6 赤褐色	塊土	中粒	少量		
J3		7.5YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	30-33	中	中	
					SCL シルト質凝結土	粒～小塊	5-7			
					塊土	小粒～大粒	多量			
J4		10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	7-10	中	中	
J5-7		—	—	—	—	—	—	—	—	
RA246 第六建物跡		A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～極小粒	1	中	中～密
	A2	10YR1/7 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～極小粒	5-7	中	中～密	
	B1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	15-20	中	中	炭化物粒混入している
				10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～極小粒	2-3	中	中	
	B2	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	30-40	中	中	炭化物粒混入している
					SCL シルト質凝結土	粒～中粒	3-5			
					塊土	小粒	少量			
	B3	10YR1/7 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	10-15	中	中	炭化物粒混入している
					SCL シルト質凝結土	粒	1			
					塊土	小粒	少量			
	C1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～中粒	25-30	中	中	炭化物粒少量混入している
					SCL シルト質凝結土	粒～小塊	2-3			
	C2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～中粒	5-7	中	中	炭化物粒子多く混入している
					SCL シルト質凝結土	粒～小塊	5-7			
					塊土	極小粒～大粒	少量			
	D1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	極小粒～小塊	2-3	中	中	炭化物多量混入している 粘土粒多量混入している
	D2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	極小粒～小塊	1	中	中	層p5 20mm混入している 粘土粒～塊混入している
	J1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～極小粒	3-5	中	中	
J2	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	20-25	中	中		
J3	10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～小塊	5-7	中	中～密	炭化物少量混入している 混入している	
				塊土	極小粒～大粒	多量				
J4	7.5YR2/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	7.5YR3/2 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	7-10	中	中～密		

第8表 細谷地遺跡第35次調査遺構土層観察表(4)

遺構名	層名	主要土		資材土				観察	状況	その他	
		土色 (JIS)	土質 (層号)	土色 (JIS)	土質 (層号)	状態	%				
											土色 (JIS)
RE024 第六次遺構	A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～細小粒	1	中	中		
	A2	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～細小粒	2-3	中	中		
	B1	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR0/1 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊	10-15	中	中	炭化物粒少量混入	
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊	2-3				
	B2	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR0/1 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊	20-25	中	中	炭化物粒少量混入	
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊	3-5				
	C1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～中塊	15-20	中	中	炭化物粒少量混入	
				5YR4/4 に 2.0 赤褐色	粘土	小塊	微量				
	D1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	1-2	中	中		
	E1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	10-15	中	中	粒～中	
	L1	5YR4/6 赤褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	塊小粒	10-15	中	中		
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	塊小粒	7-10				
遺構名	層名	主要土		資材土				観察	状況	その他	
		土色 (JIS)	土質 (層号)	土色 (JIS)	土質 (層号)	状態	%				
											土色 (JIS)
	RD568 輪シ穴	A1	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	1-3	中	中	
		A2	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	5-10	中	中	
		A3	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～中塊	15-20	中	中	
		B1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	10-15	中	中	
		C1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	15-20	中	中	
		D1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～中塊	5-10	中	中	
		E1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～中塊	3-5	中	中	
					10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	小塊	1-3			
		RD569 輪シ穴	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	3-5	中	中
A2			10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	20-25	中	中	中～密
A3			10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	15-20	中	中	中～密
B1			10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	1-2	中	中	中～密
B2	10YR4/6 褐色		SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	20-25	中	中	中～密	
B3	10YR4/6 褐色		SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	7-10	中	中	中～密	
C1	10YR2/2 黒褐色		SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	5-7	中	中	中～中	
A1	10YR1/7.1 黒色		SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～細小粒	1	中	中	中～密	
RD571 輪シ穴	B1		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	10-15	中	中	中～密
	C1	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	3-4	中	中		
	D1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～中塊	25-30	中	中		
	D2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	10-15	中	中		
	E1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	2-3	中	中		
	遺構名	層名	主要土		資材土				観察	状況	その他
			土色 (JIS)	土質 (層号)	土色 (JIS)	土質 (層号)	状態	%			
RD566 土坑	A1	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR6/5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	1-3	中	中		
	A2	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR6/5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～細小粒	1-3	中	中		
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	5-10	中	中		
	B2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	15-20	中	中		
RD567 土坑	A1	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～中塊	1-3	中	中		
	B1	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～中塊	15-20	中	中		
	C1	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	20-25	中	中		
	B2	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～中塊	15-20	中	中		
RD570 土坑	A1	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～細小粒	1	中	中		
				10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊	15-20	中	中		
				10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	2-3				
	B1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	1-2				
				10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	10-15				
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	1-2				
				10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	15-20	中	中		
				10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	1-2				
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	10-15				
	B2	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	10-15	中	中		
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	10-15				
				10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	5-7				
C1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	15-20	中	中			
			10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	7-10					
RD572 土坑	A1	10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR6/5 黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	1-3	中	中		
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	15-20	中	中		
				10YR1/7.1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	10-15	中	中		

第9表 細谷地遺跡第35次調査遺構土層観察表(5)

遺構名	層名	主要土		合葬土		状態	%	観察	測定	その他
		土色 (JIS)	土性 (番号)	土色 (JIS)	土性 (番号)					
RD573 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	3-5	中	中	
				10YR4/8 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～小粒	5-10	中	中	
		10YR1/1 黒色	SCL シルト質凝結土	小粒	1-3					
	B2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	10-15	中	中	
				10YR1/1 黒色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	20-25			
	C1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	10-15	中	中	
C2	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	5-7	中	中		
RD574 土坑	A1	10YR1/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	5-10	中	中	
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	15-20	中	中	
RD575 土坑	A1	10YR1/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒	1	中	中	
	A2	10YR1/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	5-10	中	中	
	B1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/1 黒色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	45-50	中	中	
RD576 土坑	—									
RD577 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～極小粒	2-3	中～硬	密	
	A2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	20-25	中～硬	密	
RD578 土坑	—									
RD579 土坑	A1	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/3 緑褐色	SCL シルト質凝結土	粒～極小粒	1	中	中	
	A2	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/3 緑褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	5-7	中	中	
	B1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～極小粒	10-20	中	中	
RD580 土坑	A1	10YR3/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	30-40	中～硬	中～密	
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	中粒	1			
				7.5YR5/9 暗褐色	塊土	小粒～中粒	微量			
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～大粒	1-2	中～硬	中～密	
B2	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～大粒	30-40	中～硬	中～密		
RD581 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	2-3	中～硬	中～密	
	A2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～小粒	20-25	中～硬	中～密	
	B1	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～小粒	10-15	中	中～密	
RD582 土坑	A1	10YR1/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒	1	中	中～密	
	B1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	極小粒～小粒	1	中	中～密	
RD583 土坑	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粒	1-3	中	中	
	A2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	5-10	中	中	
	A3	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	15-15	中	中	
遺構名	層名	主要土		合葬土		状態	%	観察	測定	その他
		土色 (JIS)	土性 (番号)	土色 (JIS)	土性 (番号)					
RG098 溝	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～中粒	7-10	中	中	
				10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～大粒	10-15	中
		B1	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～極大粒	10-15	中	中
RG101 溝	b-a	10YR1/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR3/3 緑褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	5-10	中	中	
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	1-3			
RG102 溝	b-b	10YR1/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	3-5	中	中	
				10YR1/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	35-40	中
		B2	10YR5/6 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR1/1 黒色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	5-10	中	中
RG103 溝	c-c	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	小粒～中粒	40-45	中	中	
				10YR4/6 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	5-10	中
RG104 溝	—			10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小粒	1-3			
RG105 溝	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/3 緑褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	1-2	中	中～密	
				10YR3/3 緑褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	15-20	中
RG104 溝	B1	10YR1/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR3/3 緑褐色	SCL シルト質凝結土	粒～極小粒	1	中	中～密	
				10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/3 に少し黄褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小粒	25-30	中

第10表 細谷地遺跡第36次調査遺構土層観察表(1)

遺構名	層名	主要土		含有土				観察	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (備考)	土色 (JIS)	土性 (備考)	状態	%			
RA246 竪穴柱遺構	A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR2/2 黒色	SCL シルト質凝結土	粒	7	中～硬	密	焼土粒・炭化物粒混じる
	B1	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	10	中～硬	密	灰白色焼土ハミ混じる
	B2	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	15	硬	密	焼土粒・炭化物粒混じる。ガラス小玉出土
	B3	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SL シルト質凝結土	粒～粒	3	中	密	焼土粒・炭化物粒混じる
	C1	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～塊	10	中	中	
	D1	10YR1/7/1 灰色	SCL シルト質凝結土	10YR3/3 黒褐色	SCL シルト質凝結土	塊	7	中～硬	中～密	炭化物粒混じる
	E1	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	塊	15	中	中	
	F1	7.5YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	7.5YR3/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	塊	10	中	中	粗粒ある焼土層 炭化物粒・炭化材・ 焼土多量混じる
	G1	10YR4/3 に近い黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒～小塊	15	中	中	焼土質土
	L	10YR6/6 明黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR2/1 黒色	SL シルト質凝結土	小塊	2			
				10YR5/4 明黄褐色	SL シルト質凝結土	塊	20	硬	密	赤褐色土 炭化物粒・焼土量混じる
				10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	3			
	J1	10YR3/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SL シルト質凝結土	粒	3	中	密	炭化物粒混じる
	J2	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	7	中	中	
	J3	10YR2/1 黒色	SL シルト質凝結土	10YR3/3 に近い黄褐色	SL シルト質凝結土	粒～小塊	10	中～硬	中～密	
	J4	10YR4/3 に近い黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	7	中	中	焼土1?cm 少量混じる
	J5	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/3 に近い黄褐色	SL シルト質凝結土	粒～小塊	15	中	中～密	
				10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	塊	5			
	J6	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	10	中	粒～中	
	J7	10YR6/4 に近い黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR3/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	2	中	中	焼土天昇部凝結土
J8	10YR6/4 に近い黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	7	中	粒～中		
J9	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR3/3 に近い黄褐色	SL シルト質凝結土	塊	20	中～硬	密	カマド天井部凝結土	
			10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒	6				
J10	5YR3/3 暗赤褐色	SCL シルト質凝結土	7.5YR4/3 褐色	SL シルト質凝結土	粒～小塊	10	中	中	焼土粒・炭化物粒混じる	
J11	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	7.5YR5/4 に近い黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	7	中	粒～中	焼土粒・炭化物粒混じる	
K1	10YR6/6 明黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR3/3 に近い黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	15	硬	密	カマド基礎土 焼土3cm 厚量混じる	
			10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	3				
K2	10YR6/6 明黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒	10	硬	密		
遺構名	層名	主要土		含有土				観察	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (備考)	土色 (JIS)	土性 (備考)	状態	%			
RE205 竪穴柱遺構	L1	10YR3/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	塊	40	中～硬	密	赤褐色土のみ
	L2	10YR6/3 に近い黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SL 凝結土	粒～塊	10	中	中	
				10YR4/4 褐色	SL シルト質凝結土	粒～小塊	7	中	粒～中	
L3	10YR4/4 褐色	SL シルト質凝結土	10YR6/6 明黄褐色	SL シルト質凝結土	粒～小塊	15	中～硬	密		
RE206 竪穴柱遺構	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～粒	3	中	密	炭化物粒混じる
	A2	10YR3/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	7	中	密	
	A3	10YR3/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒	5	中	中	
	B1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	塊	15	中～硬	密	炭化物粒・焼土粒混じる
				10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒～小塊	3			
	C1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	10YR4/3 に近い黄褐色	SL シルト質凝結土	粒～粒	5	中	中	炭化物粒・焼土粒混じる
	D1	10YR4/4 褐色	SL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒～塊	15	中	中	炭化物粒混じる
				10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒	7			
	D2	10YR4/4 褐色	SL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	塊	20	中	中	炭化物粒混じる
				10YR2/1 黒色	SCL シルト質凝結土	粒～塊	10			
L	10YR6/6 明黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR6/4 に近い黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	15	中～硬	密	赤褐色土	
			10YR3/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒～小塊	3				

第11表 細谷地遺跡第36次調査遺構土層観察表(2)

遺構名	層名	主要土		合併土		状態	%	観察	測定	その他
		土色 (JIS)	土性 (備考)	土色 (JIS)	土性 (備考)					
FD584 層七穴	A1	10YR2/7 黄褐色	SC シルト質硬土	10YR5/6 黄褐色	SL 砂硬土	粒~小塊	7	中	中	上部割字
	B1	10YR2/7 黄褐色	SC シルト質硬土	10YR4/6 褐色	SL 砂硬土	粒~小塊	10	中	中	
	C1	10YR4/3 に近い黄褐色	SL 砂硬土	10YR5/6 黄褐色	SL 砂硬土	粒	5	中	中	
FD585 層七穴	A1	10YR1/7/1 黄褐色	SCL シルト質硬凝土							中
	A2	10YR1/7/1 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR4/4 褐色	SCL シルト質硬凝土	小塊	15	中	中	
	B1	10YR4/6 褐色	SC シルト質硬土	10YR1/7/1 黄褐色	SC シルト質硬土	大塊	30	中	中	
	C1	10YR2/7 黄褐色	SC シルト質硬土	10YR5/3 に近い黄褐色	SC シルト質硬土	中塊	10	中	中	
				10YR1/7/1 黄褐色	SC シルト質硬土	小塊	10			
	D1	10YR2/7 黄褐色	SC シルト質硬土	10YR5/3 に近い黄褐色	SC シルト質硬土	小塊	20	中	中	
	E1	10YR5/3 に近い黄褐色	SC シルト質硬土	10YR5/6 黄褐色	SC シルト質硬土	粒	15	中	中	
	F1	10YR1/7/1 黄褐色	SL 砂硬土	10YR5/3 に近い黄褐色	SL 砂硬土	小塊	20	中	中	
	G1	10YR1/7/1 黄褐色	SL 砂硬土	10YR5/6 黄褐色	SL 砂硬土	粒	25	中	中	流水
FD586 層七穴	A1	10YR1/7/1 黄褐色	SCL シルト質硬凝土							中
	A2	10YR1/7/1 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR4/6 褐色	SCL シルト質硬凝土	粒	3	中	中	
	B1	10YR2/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR4/6 褐色	SL シルト質硬土	中塊	15	中	中	
	B2	10YR4/6 褐色	SC シルト質硬土	10YR5/6 黄褐色	SC シルト質硬土	小塊	10	中	中	
				10YR2/7 黄褐色	SC シルト質硬土	小塊	7			
	D1	10YR4/3 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	小塊	20	中	中	
	D2	10YR4/3 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR2/7 黄褐色	SL シルト質硬土	中塊	30	中	中	
			10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	粒	10				
	E1	10YR5/3 に近い黄褐色	SL 砂硬土	10YR5/6 黄褐色	SL 砂硬土	粒	10	中	中	
FD587 層七穴	A1	10YR2/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR1/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	粒	5	中	中	
	A2	10YR2/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR2/3 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	粒~小塊	10	中	中	
	B1	10YR2/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR5/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	塊	20	中~硬	中	
	C1	10YR5/6 黄褐色	SL 砂硬土	10YR2/3 黄褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	3	中	中	
	D1	10YR2/3 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR4/6 褐色	SL 砂硬土	塊	15	軟~中		
	D2	10YR2/3 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR4/6 褐色	SL 砂硬土	粒	5	軟~中	粒~中	
	E1	10YR2/7 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR4/3 に近い黄褐色	SL 砂硬土	小塊	7	中	中	流水
FD588 層七穴	A1	10YR2/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	粒~小塊	2	中	中	
	A2	10YR2/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR4/4 褐色	SL シルト質硬土	小塊	3	中	中	
	B1	10YR2/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR2/3 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	小塊	15	中	中	
	C1	10YR5/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR2/3 黄褐色	SL シルト質硬土	塊	10	中	中	
	C2	10YR5/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR4/6 褐色	SL シルト質硬土	小塊	5	中	中	
	D1	10YR3/2 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR4/4 褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	10	軟~中	中	
				10YR5/6 黄褐色	SL 砂硬土	小塊	7	中	中	
FD589 層七穴	A1	10YR5/6 黄褐色	SL 砂硬土	10YR2/2 黄褐色	SL シルト質硬土	粒	7	中	中	少し流水
	E1	10YR2/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	粒~小塊	10	中~硬	中	
	B1	10YR2/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR5/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	塊	10	中	中	
	B2	10YR2/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR5/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	塊	25	中	中	
	C1	10YR6/6 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR1/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	塊	15	中	中	
	D1	10YR6/3 に近い黄褐色	SL 砂硬土	10YR6/6 黄褐色	SL 砂硬土	粒~小塊	7	中	中	
	E1	10YR6/6 黄褐色	SL 砂硬土	10YR2/2 黄褐色	SL シルト質硬土	粒	10	軟~中	中	
	F1	10YR5/4 に近い黄褐色	SL 砂硬土	10YR2/3 黄褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	1	軟~中	中	流水
FD590 層七穴	A1	10YR3/2 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR2/3 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	粒~小塊	2	中~硬	中	
	A2	10YR3/2 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR5/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	5	中	中	
	A3	10YR3/2 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR1/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	小塊	10	中	中	
	B1	10YR5/3 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR4/6 褐色	SL シルト質硬土	小塊	20	中	中	
				10YR2/1 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	塊	10			
	B2	10YR5/3 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR4/6 褐色	SL シルト質硬土	塊	25	中	中	
				10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	粒	7			
	C1	10YR6/6 黄褐色	SL 砂硬土	10YR5/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	粒~塊	5	中	中	
	D1	10YR2/7 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR5/6 黄褐色	SL 砂硬土	塊	10	中	中	
FD591 層七穴	A1	10YR2/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR3/2 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	塊	10	中~硬	中	
	A2	10YR2/7 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	2	中	中	
	B1	10YR4/3 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	小塊	10	中	中	
	C1	10YR3/2 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR6/6 黄褐色	SL シルト質硬土	塊	7	中	中	
	C2	10YR3/2 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	10YR6/6 黄褐色	SL シルト質硬土	小塊	15	中	中	
	D1	10YR4/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR2/2 黄褐色	SCL シルト質硬凝土	粒~小塊	5	軟~中	中	
	E1	10YR2/2 黄褐色	SC シルト質硬土	10YR4/4 褐色	SL シルト質硬土	小塊	15	中	中	
E2	10YR2/2 黄褐色	SC シルト質硬土	10YR6/6 黄褐色	SL シルト質硬土	粒	3	軟~中			

第12表 細谷地遺跡第36次調査遺構土層観察表(3)

遺構名	層名	主要土		含有土		状態	%	観察	程度	その他	
		土色(AS)	土性(番号)	土色(AS)	土性(番号)						
RD593 層七次	A1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒	2	緑	密		
	A2	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	塊	15	緑	密		
	B1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	小塊	15	中一緑	密		
				10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	塊	10				
	B2	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	塊	20	中一緑	密		
				10YR4/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	5				
	D1	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒~小塊	5	中	中		
	C1	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/3 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	小塊	7	中一緑	密		
	E1	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	小塊	10	中	中		
	E2	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒	3	中	中		
	F1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬土	10YR6/3 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	7	緑~中	中		
	G1	10YR6/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR4/4 褐色	SL シルト質硬土	小塊	5	緑~中	中		
	RD593 層七次	A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR6/4 褐色	SL シルト質硬土	粒	5	緑	密	
A2		10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	15	緑	密		
A3		10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/3 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	粒	7	緑	密		
B1		10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒~小塊	5	中	中		
C1		10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR1/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	塊	3	中	中		
D1		10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒	2	中	中		
E1		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	7	緑~中	中		
F1		10YR5/6 黄褐色	SL 砂礫土	10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質硬土	粒	3	中	中		
A1		10YR1/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR6/6 黄褐色	SL シルト質硬土	粒~粒	3	緑	密		
B1		10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	粒	10	緑	密		
C2		10YR3/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	小塊	20	中	中		
D1	10YR4/3 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	塊	15	中	密			
D2	10YR5/3 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR1/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	粒	5	中	密			
C1	10YR6/4 に近い黄褐色	SL 砂礫土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒	3	中一緑	密			
D2	10YR6/4 に近い黄褐色	SL 砂礫土	10YR4/4 褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	5	中	中一密			
E1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬土	10YR4/4 褐色	SL 砂礫土	粒	15	中	中			
RD595 層七次	A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	塊	15	緑	密		
	A2	10YR2/2 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	粒	5	緑	密		
	B1	10YR5/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	塊	20	緑	密		
	C1	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒~小塊	10	中	密		
	D1	10YR6/3 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	10YR4/4 褐色	SL シルト質硬土	小塊	20	中一緑	密		
	E1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR6/6 黄褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	7	中	密		
	F1	10YR6/4 に近い黄褐色	SL 砂礫土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒	7	中	密		
	G2	10YR6/4 に近い黄褐色	SL 砂礫土	10YR4/4 褐色	SL 砂礫土	小塊	2	中	密		
	F1	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質硬土	10YR4/3 に近い黄褐色	SL 砂礫土	粒	10	緑~中	中		
	RD596 層七次	A1	10YR3/1 黒褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR6/6 黄褐色	SL シルト質硬土	小塊	5	緑	密	
		A2	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR6/6 黄褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	15	緑	密	
B1		10YR3/1 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	塊	15	中	密		
				10YR5/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	7				
B2		10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒~小塊	7	中	密		
				10YR6/6 黄褐色	SL シルト質硬土	塊	20				
C1		10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	塊	15	中一緑	中一密		
D1		10YR5/4 に近い黄褐色	SL 砂礫土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒	3	中	中一密		
E1		10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒~塊	10	中	中		
F1		10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質硬土	10YR6/3 に近い黄褐色	SL 砂礫土	粒	5	中	中	透水	
G1		10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR4/4 褐色	SL シルト質硬土	粒	7	中	中	透水	
RD597 層七次	A1	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR3/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒	2	緑	密		
	A2	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/4 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	粒~小塊	10	中	中一密		
	A3	10YR2/1 黒色	SCL シルト質硬粘土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	小塊	7	中一緑	密		
	B1	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質硬土	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	塊	15	中	中		
	C1	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR6/6 黄褐色	SL シルト質硬土	粒	7	中一緑	中		
	D1	10YR5/6 黄褐色	SL 砂礫土	10YR4/4 褐色	SL シルト質硬土	塊	10	中	中		
	E2	10YR5/6 黄褐色	SL 砂礫土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒~小塊	15	中	密		
	D1	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR5/3 に近い黄褐色	SL シルト質硬土	粒	5	中	中		
	E2	10YR2/2 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	10YR6/6 黄褐色	SL シルト質硬土	小塊	15	中	中		
	F1	10YR5/4 に近い黄褐色	SL 砂礫土	10YR2/3 暗褐色	SCL シルト質硬粘土	粒	3	中	密		



第13表 細谷地遺跡第36次調査遺構土層観察表(4)

遺構名	層名	主要土				含有土		状態	%	観察	測定	その他		
		土色 (JIS)		土性 (階号)		土色 (JIS)							土性 (階号)	
		土色 (JIS)	土性 (階号)	土色 (JIS)	土性 (階号)	土色 (JIS)	土性 (階号)						土色 (JIS)	土性 (階号)
RD598 陥し穴	A1	10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR0/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	2	硬	密					
	A2	10YR0/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR0/4 褐色	SCL シルト質凝結土	粒~小塊	5	硬	密					
	B1	10YR5/4 に3L-黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒~塊	15	中~硬	中					
	B2	10YR5/3 に3L-黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR0/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	5	中	中~硬					
	C1	10YR4/6 褐色	SL シルト質凝結土	10YR0/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	粒~塊	20	中	密					
	D1	10YR5/6 黄褐色	SL 砂凝土	10YR4/4 褐色	SL シルト質凝結土	粒	7	中	密					
	E1	10YR5/6 黄褐色	SL 砂凝土	10YR0/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	5	中	密					
	D2	10YR0/2 黒褐色	SIC シルト質凝結土	10YR5/4 に3L-黄褐色	SL シルト質凝結土	粒	10	中	中					
	F1	10YR4/2 黄褐色	SL 砂凝土	10YR6/5 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒~小塊	20	軟	中		漏水			
	RD599 陥し穴	A1	10YR0/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	5	硬	密				
A2		10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR0/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	中塊	15	硬	密					
				10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒	3							
B1		10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR4/2 黄褐色	SL シルト質凝結土	中塊	25	中	中					
				10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒	5							
B2		10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	40	中	中					
C1		10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR4/2 黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	20	中	中					
D1		10YR1/3/1 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SL シルト質凝結土	小塊	30	中	中					
D2		10YR1/3/1 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SL シルト質凝結土	中塊	45	中	中					
E1		10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒	3	中	中					
F1		10YR3/1 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SL シルト質凝結土	粒	1	中	中					
G1		10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒	1	中	中					
H1		10YR0/1 黒褐色	SL シルト質凝結土	10YR4/6 褐色	SL シルト質凝結土	粒	1	中	中					
J1		10YR6/8 明黄褐色	SIC シルト質凝結土	10YR4/3 黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	25	軟	中					
K1	10YR6/1 褐色	SL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	3	軟	中						
RD600 陥し穴	A1	10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR0/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	3	硬	密					
	A2	10YR0/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/4 に3L-黄褐色	SL シルト質凝結土	粒~小塊	5	中~硬	密					
	B1	10YR4/2 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR6/5 黄褐色	SL シルト質凝結土	塊	15	中	密					
				10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒~小塊	10							
	B2	10YR5/3 に3L-黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR6/5 黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	7	中	中~硬					
				10YR0/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒	3							
	C1	10YR4/4 褐色	SL 砂凝土	10YR0/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒	5	中	密					
	D1	10YR1/3/1 黄褐色	SIC シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒~小塊	3	軟	中					
	E1	10YR5/3 に3L-黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR0/3 暗褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	10	軟~中	中					
	A1	10YR0/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR0/4 暗褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	7	中	密					
	B1	10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/4 に3L-黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	5	中~硬	密					
B2	10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒~塊	10	中	密						
C1	10YR3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR6/5 黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	7	中	中~硬						
D1	10YR6/4 に3L-黄褐色	SL 砂凝土	10YR0/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	粒~小塊	5	中	中						
E1	10YR3/1 黄褐色	SIC シルト質凝結土	10YR4/3 に3L-黄褐色	SL シルト質凝結土	粒	10	軟~中	中						
F1	10YR4/2 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR4/4 褐色	SL シルト質凝結土	粒~小塊	20	軟	中						
RD602 陥し穴														
RD603 陥し穴														
RD604 陥し穴	A1	10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR0/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	10	硬	密					
	A2	10YR0/1 黒褐色	SCL シルト質凝結土	10YR0/2 黒褐色	SCL シルト質凝結土	中塊	20	硬	密					
				10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒	3							
	B1	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR4/2 黄褐色	SL シルト質凝結土	中塊	25	中	中					
				10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	5							
	B2	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR4/2 黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	10	中	中					
	C1	10YR5/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR4/2 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒	8	中	中					
	D1	10YR6/6 黄褐色	SL シルト質凝結土	10YR3/1 黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	15	中	密					
	E1	10YR6/1 褐色	SIC シルト質凝結土	10YR6/5 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒	25	軟	中					
				10YR3/1 黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	13							
	E2	10YR6/1 褐色	SIC シルト質凝結土	10YR6/5 黄褐色	SL シルト質凝結土	粒	15	軟	中					
			10YR3/1 黄褐色	SL シルト質凝結土	小塊	13								
F1	10YR0/1 黒褐色	SL シルト質凝結土	10YR4/1 褐色	SIC シルト質凝結土	粒	5	軟	中						
G1	10YR0/1 黒褐色	SL シルト質凝結土	10YR4/1 褐色	SIC シルト質凝結土	中塊	35	軟	中						
遺構名	層名	主要土		含有土		状態	%	観察	測定	その他				
		土色 (JIS)		土性 (階号)							土色 (JIS)		土性 (階号)	
		土色 (JIS)	土性 (階号)	土色 (JIS)	土性 (階号)						土色 (JIS)	土性 (階号)	土色 (JIS)	土性 (階号)
RD605 土坑	A1	10YR3/2 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SIC シルト質凝結土	粒	10	中	中	人為堆積				
		B1	10YR4/4 褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SIC シルト質凝結土	粒~小塊	15	中	中	人為堆積			
			10YR3/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR3/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	小塊	10						
			10YR3/1 黄褐色	SCL シルト質凝結土	10YR5/6 黄褐色	SIC シルト質凝結土	粒~小塊	5	中	中				
			D1	10YR4/6 褐色	SL 砂凝土	10YR3/1 黄褐色	SL 砂凝土	粒~小塊	30	中	中			

第 14 表 細谷地遺跡第 36 次調査遺構土層観察表 (5)

遺構名	層名	主要土		含有土				層数	状況	その他
		土色 (JIS)	土性 (番号)	土色 (JIS)	土性 (番号)	状態	%			
R008 土坑	A1	10YR6-6 明黄褐色	SIL シルト質硬土	10YR3-3 暗褐色	SICL シルト質硬土	粒	5	中	密	炭化物粒混じる。人為堆積
	A2	10YR6-6 明黄褐色	SIL シルト質硬土	10YR3-3 暗褐色	SICL シルト質硬土	塊	15	中～硬	密	炭化物粒混じる。人為堆積
	A3	10YR5-6 黄褐色	SIL シルト質硬土	10YR3-4 暗褐色	SICL シルト質硬土	粒～塊	25	中～硬	密	炭化物粒混じる。人為堆積
	B1	10YR3-2 黒褐色	SICL シルト質硬土	10YR6/4 に近い黄褐色	SIL シルト質硬土	粒	7	中	密	炭化物粒混じる。人為堆積
	C1	10YR3-1 黒褐色	SICL シルト質硬土	10YR3-4 暗褐色	SICL シルト質硬土	粒～小塊	10	中～硬	密	炭化物粒混じる。人為堆積
	C2	10YR3-1 黒褐色	SICL シルト質硬土	10YR3-4 暗褐色	SICL シルト質硬土	塊	5	中	密	炭化物粒混じる。人為堆積
	D1	10YR6-5 明黄褐色	SIL シルト質硬土	10YR4/3 に近い黄褐色	SIL シルト質硬土	粒	3	中	中	
E1	10YR2-2 黒褐色	SICL シルト質硬土	10YR6-3 に近い黄褐色	SIL シルト質硬土	粒～小塊	10	中～硬	密	炭化物粒混じる。人為堆積	
遺構名	層名	主要土		含有土				層数	状況	その他
		土色 (JIS)	土性 (番号)	土色 (JIS)	土性 (番号)	状態	%			
R009 溝	A1	10YR2-7 黒色	SICL シルト質硬土	10YR3-3 暗褐色	SICL シルト質硬土	粒	5	中	中	
	B1	10YR3-2 黒褐色	SICL シルト質硬土	10YR6-6 明黄褐色	SIL シルト質硬土	粒～小塊	10	中～硬	密	
	C1	10YR3-2 暗褐色	SICL シルト質硬土	10YR6/4 に近い黄褐色	SIL シルト質硬土	粒	20	中	中～密	
R0105 溝	A1	10YR2-1 黒色	SICL シルト質硬土	10YR3-3 暗褐色	SICL シルト質硬土	粒	3	中	密	一部クワイ化。炭化物混入
	B1	10YR2-2 黒褐色	SICL シルト質硬土	10YR3-3 暗褐色	SICL シルト質硬土	小塊	10	中	中～密	
				10YR5-6 黄褐色	SIL シルト質硬土	塊	20			
	C1	10YR6/4 に近い黄褐色	SIL シルト質硬土	10YR2-2 黒褐色	SICL シルト質硬土	粒～小塊	7	中	中	
D1	10YR5-3 暗褐色	SICL シルト質硬土	10YR4-4 褐色	SIL シルト質硬土	粒	10	中	中		
R0106 溝	A1	10YR2-2 黒褐色	SICL シルト質硬土	10YR5-6 黄褐色	SICL シルト質硬土	粒～小塊	7	中	中	

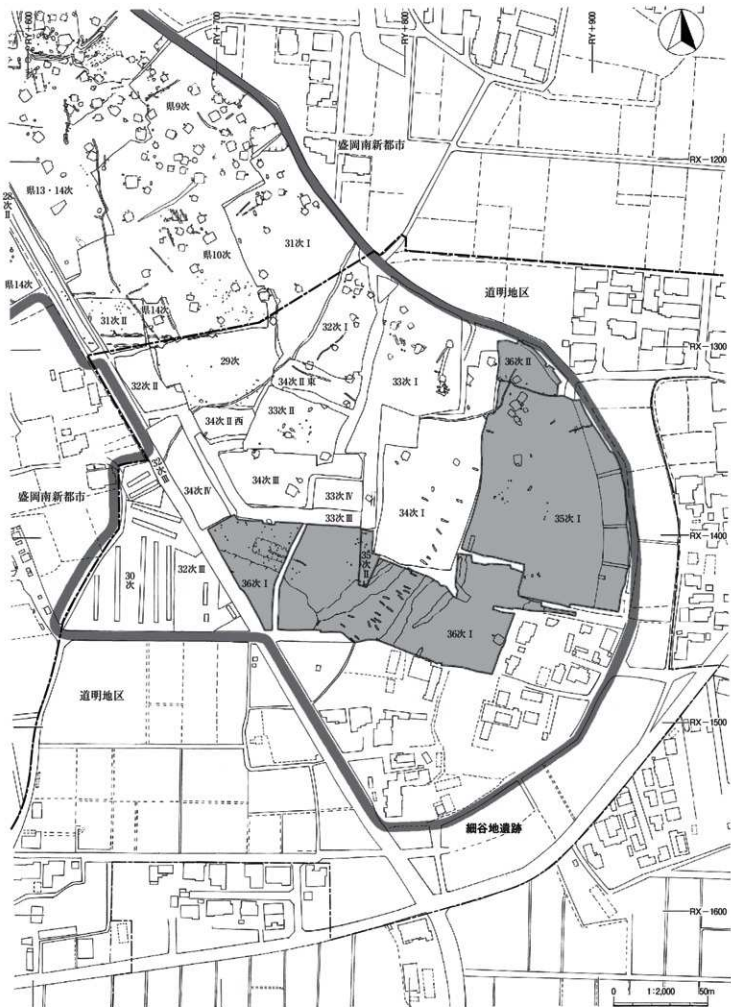


第 17 表 細谷地遺跡第 35・36 次調査出土弥生土器観察表

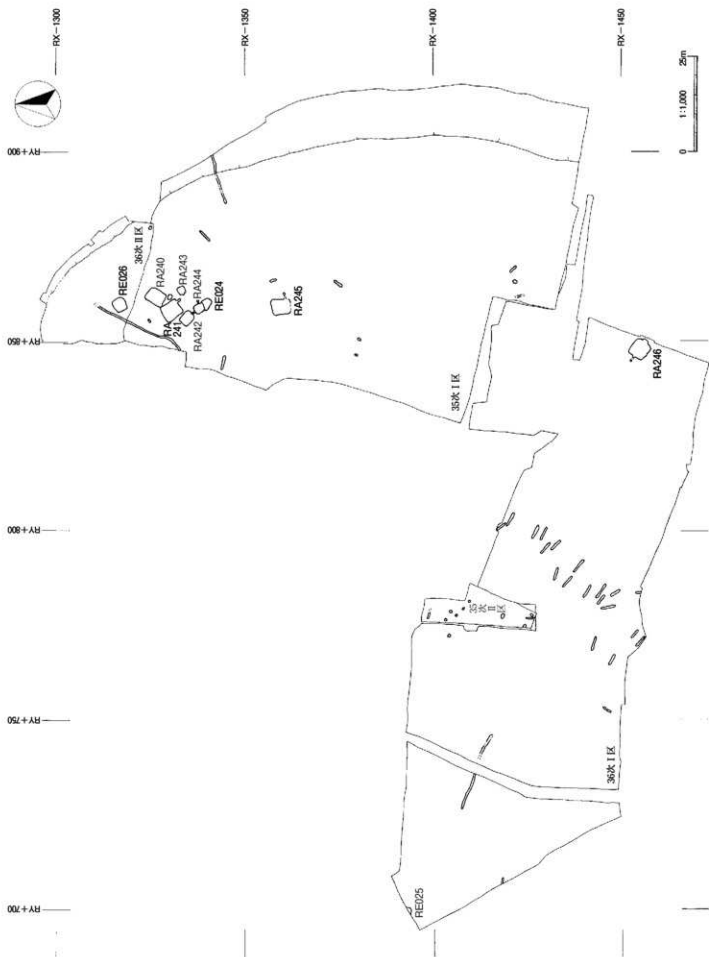
探跡番号	寄託施設	遺跡名	発掘区画	遺構名	台帳 No.	区分	経緯	平面位置	層位	特徴	
										出土	特徴
39 101	-	細谷池	OHY	35	遺構外	87	弥生土器	遺	-	焼出品	口縁部：浅沢口縁+刺突文、附加条線文+縁状沈線文、時期：弥生前期
39 102	-	細谷池	OHY	35	遺構外	88	弥生土器	遺	-	焼出品	口縁部：浅沢口縁、平行沈線文+縁状沈線文、時期：弥生前期
39 103	-	細谷池	OHY	35	遺構外	100	弥生土器	遺	-	焼出品	口縁部：交互刺突文沈線文+附加条線文、時期：弥生前期
39 104	-	細谷池	OHY	35	PG098	79	弥生土器	遺	-	埋土	口縁部：交互刺突文平行沈線文、時期：弥生前期
39 105	-	細谷池	OHY	35	遺構外	115	弥生土器	遺	-	焼出品	口縁部：二重口縁、附加条線文等+刺突文、時期：弥生前期
39 106	-	細谷池	OHY	35	RA241	27	弥生土器	遺	-	C2	口縁部：附加条線文+刺突文、時期：弥生前期
39 107	-	細谷池	OHY	35	RA241	29	弥生土器	遺	-	埋土	口縁部：附加条線文、時期：弥生前期
39 108	-	細谷池	OHY	35	RA242	47	弥生土器	遺	-	目	鉢部：縁状沈線文+附加条線文、時期：弥生前期
39 109	-	細谷池	OHY	35	RA241	39	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：交互刺突文沈線文、時期：弥生前期
39 110	-	細谷池	OHY	35	RA241	16-18-13	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：刺突文沈線文+区別沈線文、附加条線文、時期：弥生前期
39 111	-	細谷池	OHY	35	RA241	36	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：縁状沈線文、時期：弥生前期
39 112	-	細谷池	OHY	35	遺構外	113	弥生土器	遺	-	焼出品	鉢部：附加条線文+刺突文、時期：弥生前期
39 114	-	細谷池	OHY	35	遺構外	91	弥生土器	遺	-	焼出品	鉢部：引状附加条線文、時期：弥生前期
39 115	-	細谷池	OHY	35	埋土内	124	弥生土器	遺	-	-	鉢部：引状附加条線文、時期：弥生前期
39 116	-	細谷池	OHY	35	遺構外	102-3	弥生土器	遺	-	焼出品	鉢部：引状附加条線文、時期：弥生前期
39 117	-	細谷池	OHY	35	遺構外	102-2	弥生土器	遺	-	焼出品	鉢部：引状附加条線文、時期：弥生前期
39 118	-	細谷池	OHY	35	RA241	24	弥生土器	遺	-	C1	鉢部：引状附加条線文、時期：弥生前期
39 119	-	細谷池	OHY	35	遺構外	96	弥生土器	遺	-	焼出品	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
39 120	-	細谷池	OHY	35	RA243	58	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
39 121	-	細谷池	OHY	35	RA241	15	弥生土器	遺	-	表面	口縁部付託、附加条線文、時期：弥生前期
39 122	-	細谷池	OHY	35	遺構外	98	弥生土器	遺	-	焼出品	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
39 123	-	細谷池	OHY	35	RA240	5	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
39 124	-	細谷池	OHY	35	RA240	13	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
39 125	-	細谷池	OHY	35	RA241	30	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
39 126	-	細谷池	OHY	35	RA241	38	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 127	-	細谷池	OHY	35	RA242	41	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 128	-	細谷池	OHY	35	RA243	59-2	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 129	-	細谷池	OHY	35	RA243	59-1	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 130	-	細谷池	OHY	35	RA243	57-2	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 131	-	細谷池	OHY	35	RA240	57-1	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 132	-	細谷池	OHY	35	RA244	69	弥生土器	遺	-	A2	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 133	-	細谷池	OHY	35	PG096	76-1	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 134	-	細谷池	OHY	35	PG098	76-2	弥生土器	遺	-	埋土	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 135	-	細谷池	OHY	35	遺構外	111	弥生土器	遺	-	焼出品	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 136	-	細谷池	OHY	35	遺構外	102-1	弥生土器	遺	-	焼出品	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 137	-	細谷池	OHY	35	遺構外	106	弥生土器	遺	-	焼出品	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 138	-	細谷池	OHY	35	遺構外	89	弥生土器	遺	-	焼出品	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
40 139	-	細谷池	OHY	35	遺構外	90	弥生土器	遺	-	焼出品	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
探跡番号	寄託施設	遺跡名	発掘区画	遺構名	台帳 No.	区分	経緯	平面位置	層位	出土	特徴
41 151	-	細谷池	OHY	36	PG098	1	弥生土器	遺	-	目	口縁部：交互刺突文2段、時期：弥生前期
41 152	-	細谷池	OHY	36	沼河遺	11	弥生土器	遺	-	目 b	口縁部：浅沢口縁、平行沈線文+交互刺突文、時期：弥生前期
41 153	-	細谷池	OHY	36	沼河遺	28	弥生土器	遺	-	目 b	鉢部：交互刺突文沈線文+区別沈線文、時期：弥生前期
41 154	-	細谷池	OHY	36	沼河遺	22	弥生土器	遺	-	目 b	鉢部：縁状沈線文+附加条線文、時期：弥生前期
41 155	-	細谷池	OHY	36	沼河遺	25	弥生土器	遺	-	目 b	鉢部：縁状沈線文+附加条線文、時期：弥生前期
41 156	-	細谷池	OHY	36	沼河遺	30-31	弥生土器	遺	-	目 b	胴部：交互刺突文風流線文+縁状沈線文、附加条線文、時期：弥生前期
41 157	-	細谷池	OHY	36	埋土内	1	弥生土器	遺	-	-	鉢部：刺突文等+附加条線文、時期：弥生前期
41 158	-	細谷池	OHY	36	沼河遺	6	弥生土器	遺	-	目 b	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
41 159	-	細谷池	OHY	36	沼河遺	4	弥生土器	遺	-	目 b	口縁部：二重口縁、附加条線文等+刺突文、時期：弥生前期
41 160	-	細谷池	OHY	36	沼河遺	5	弥生土器	遺	-	目 b	口縁部：附加条線文、時期：弥生前期
41 161	-	細谷池	OHY	36	沼河遺	16	弥生土器	遺	-	目 b	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
41 162	-	細谷池	OHY	36	沼河遺	3	弥生土器	遺	-	目 b	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
41 163	-	細谷池	OHY	36	RA246	1	弥生土器	遺	-	目 c	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
41 164	-	細谷池	OHY	36	沼河遺	7	弥生土器	遺	-	目 b	鉢部：附加条線文、時期：弥生前期
41 165	-	細谷池	OHY	36	沼河遺	12	弥生土器	遺	-	目 b	胴部：刺突文、時期：弥生前期

# 遺 構 図 版



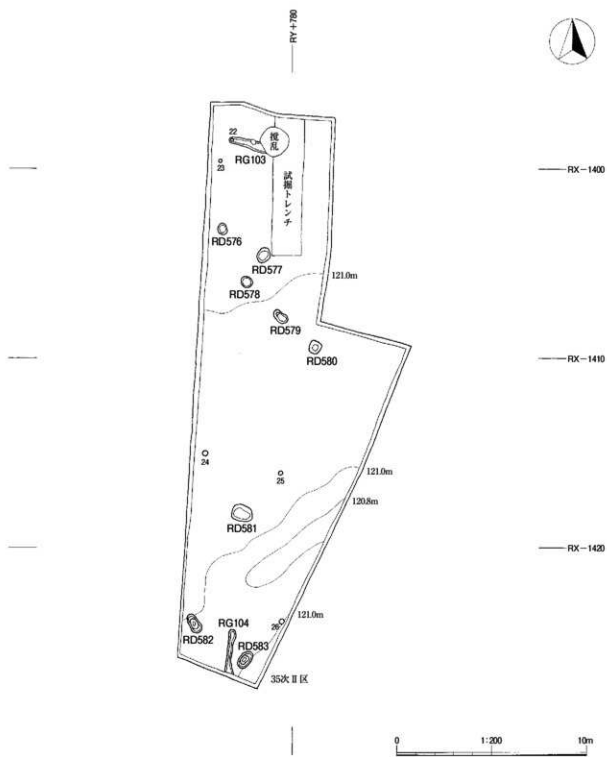


第1図 細谷地遺跡南東部（道明地区）全体図

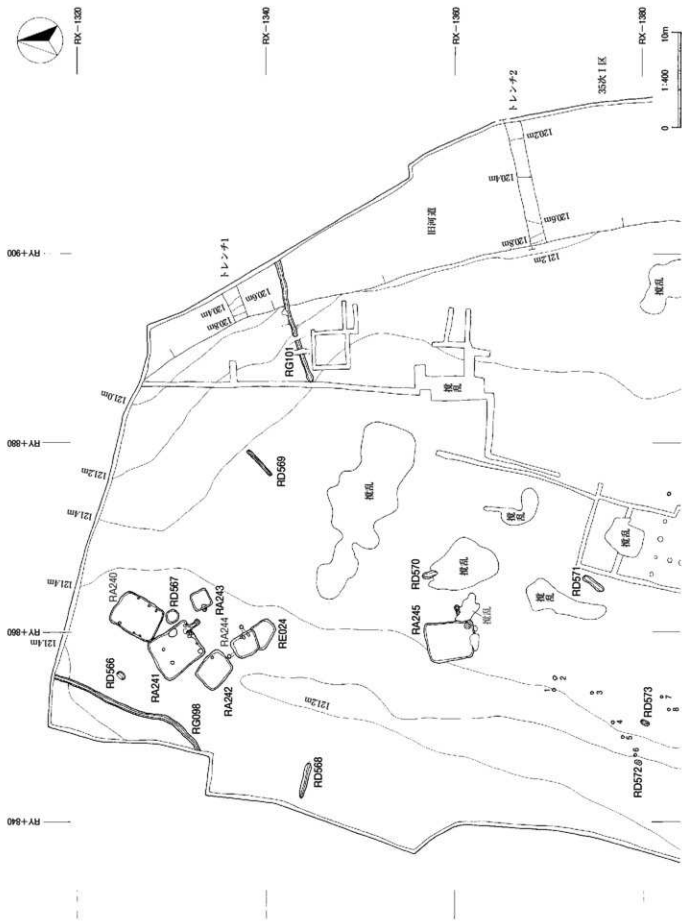


第 2 図 細谷遺跡第 35・36 次調査区全体図

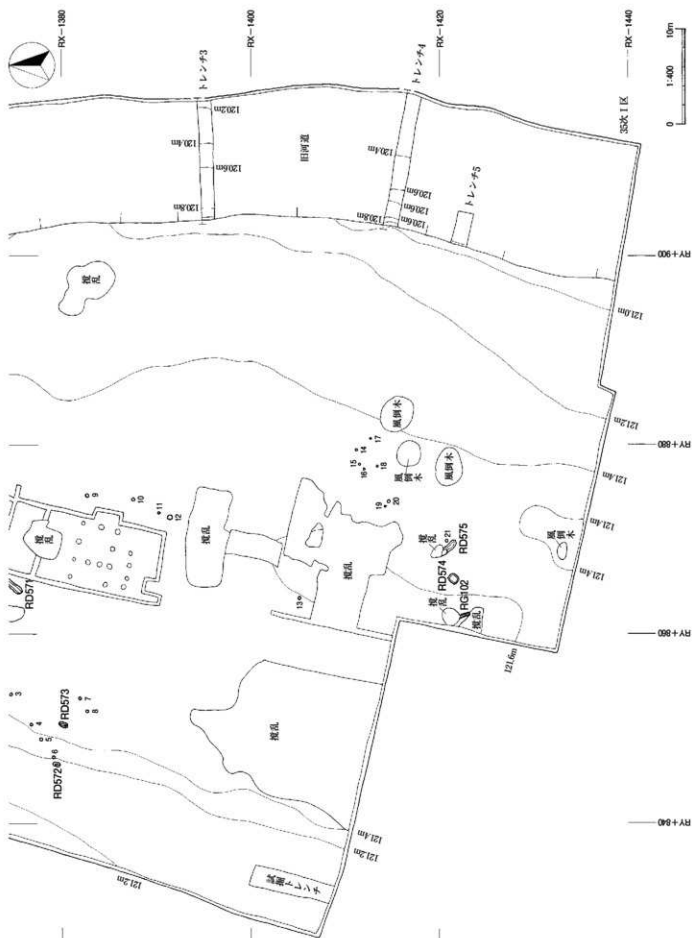




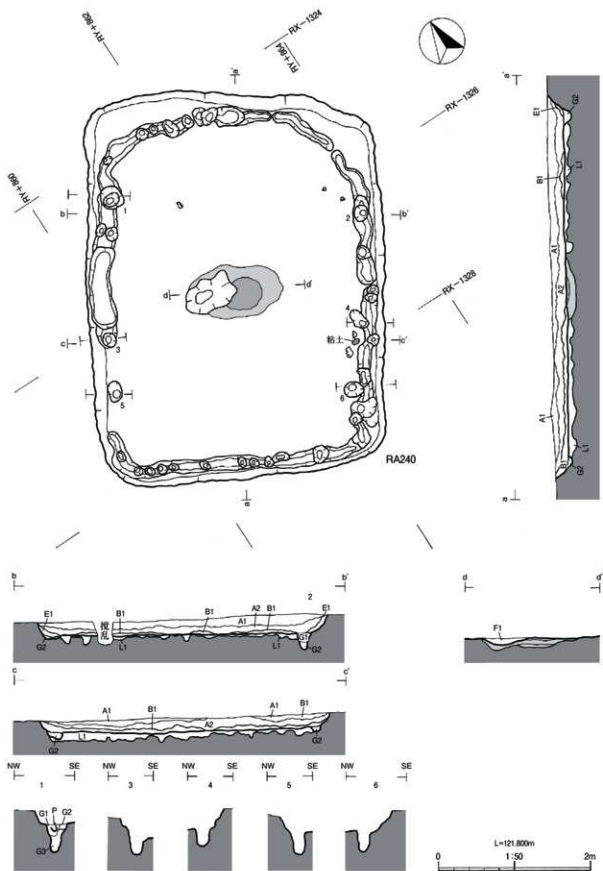
第3図 細谷地遺跡第35次調査Ⅱ区全体図



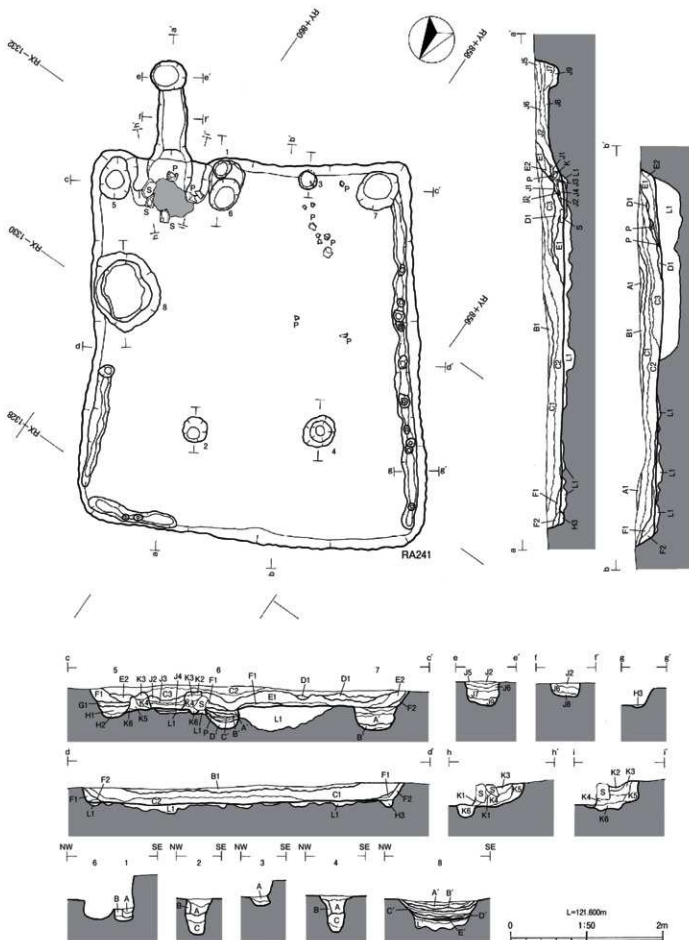
第4図 細谷地遺跡第35次調査I区北半部全体図



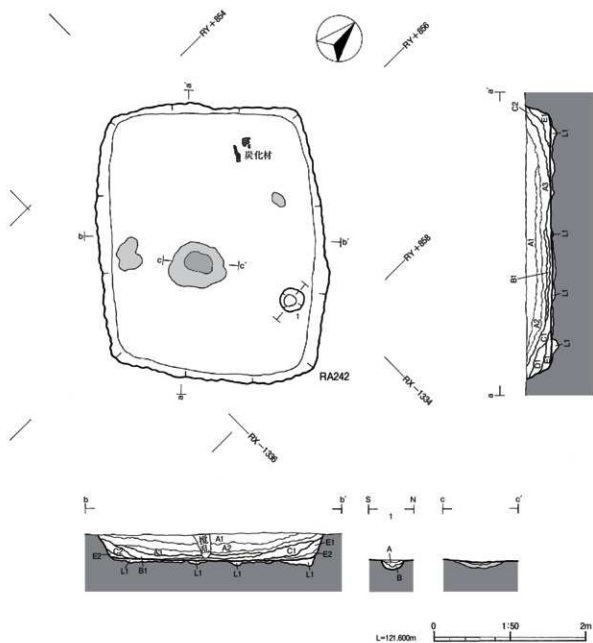
第5図 細谷地遺跡第35次調査I区南半部全体図



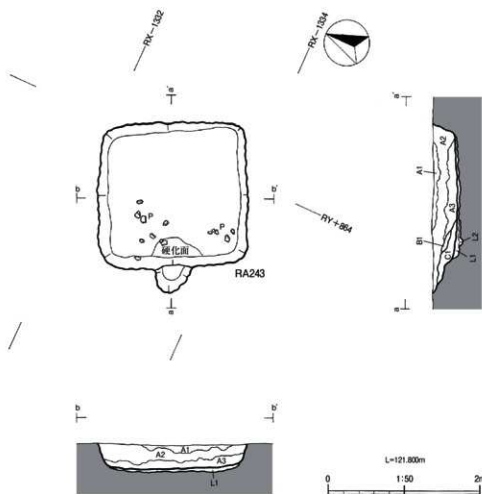
第6図 稲谷地遺跡第35次調査I区RA240 竪穴建物跡



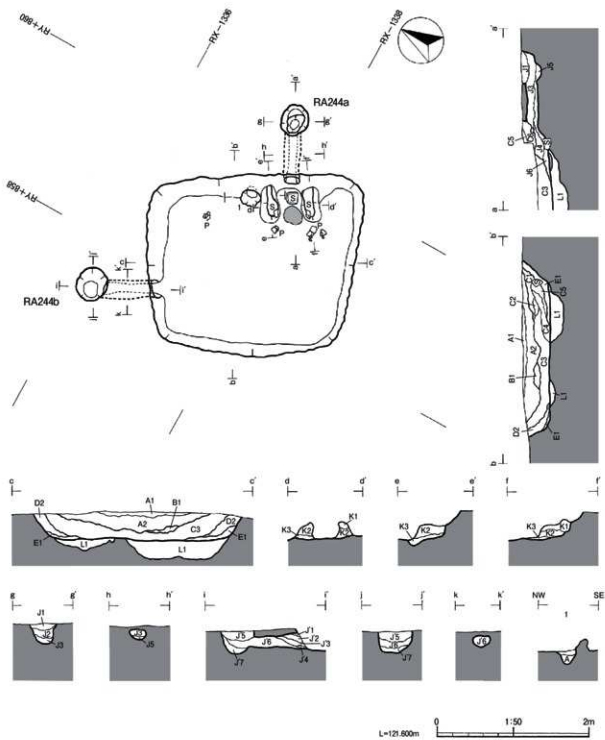
第7図 細谷地遺跡第35次調査I区RA241 竪穴建物跡



第8図 細谷地道跡第35次調査I区RA242 竪穴建物跡

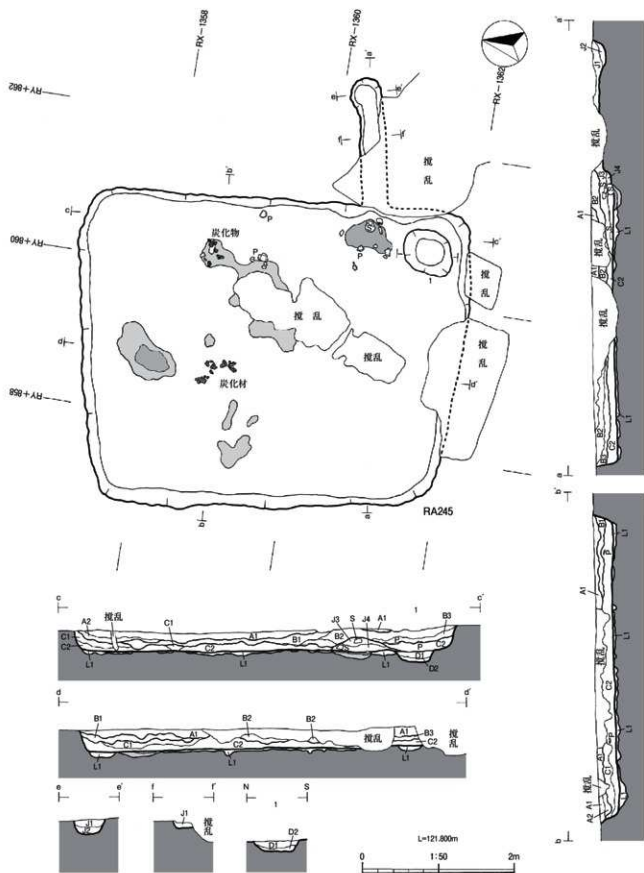


第9図 細谷地遺跡第35次調査I区RA243 竪穴建物跡

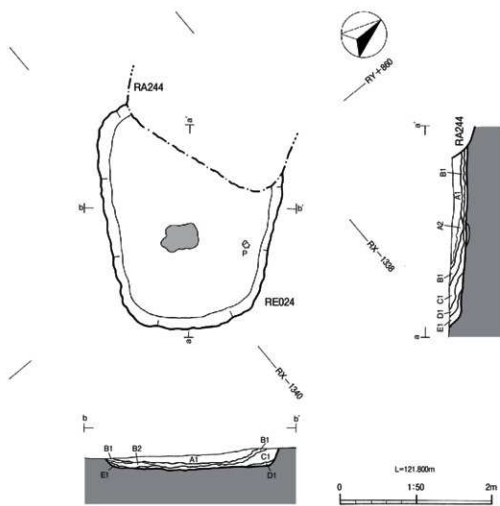


第10図 細谷地遺跡第35次調査I区RA244 竪穴建物跡

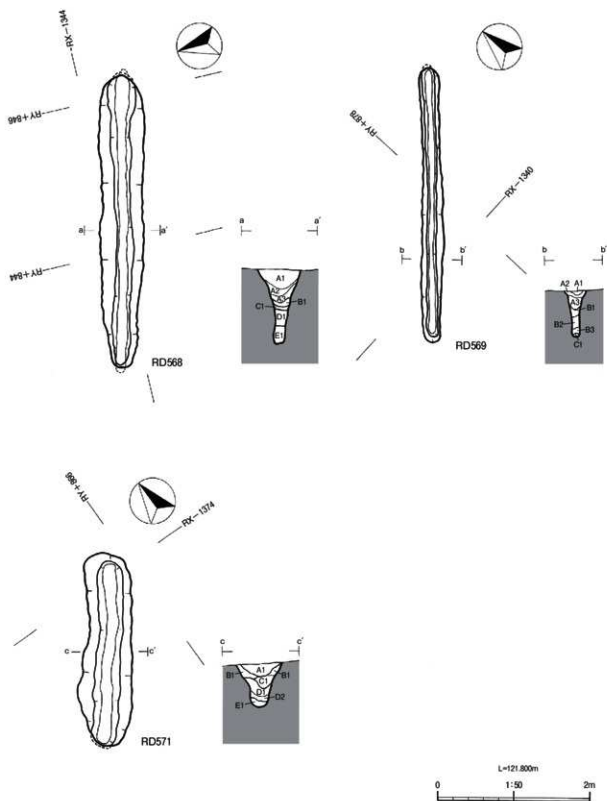




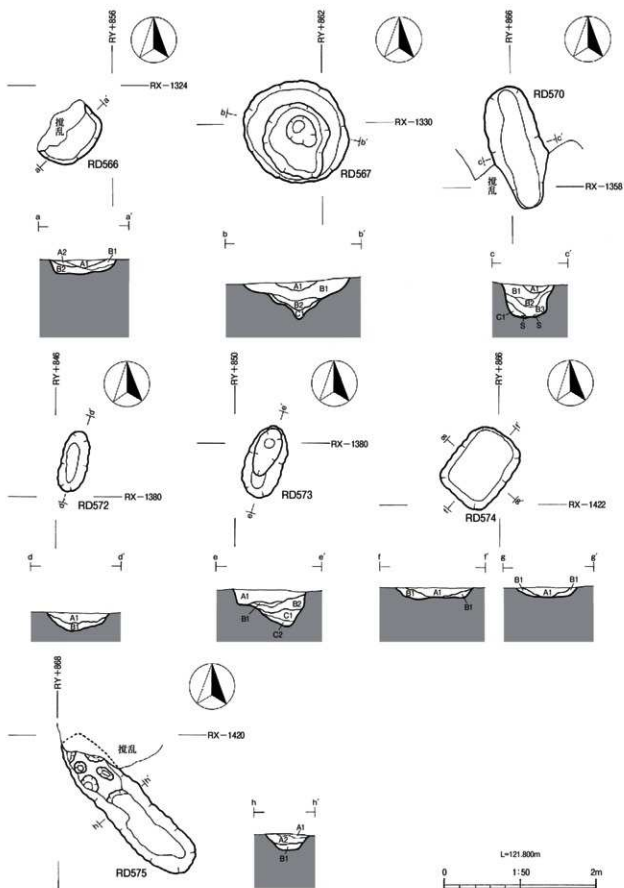
第11图 細谷地遺跡第35次調査I区RA245竖穴建物跡



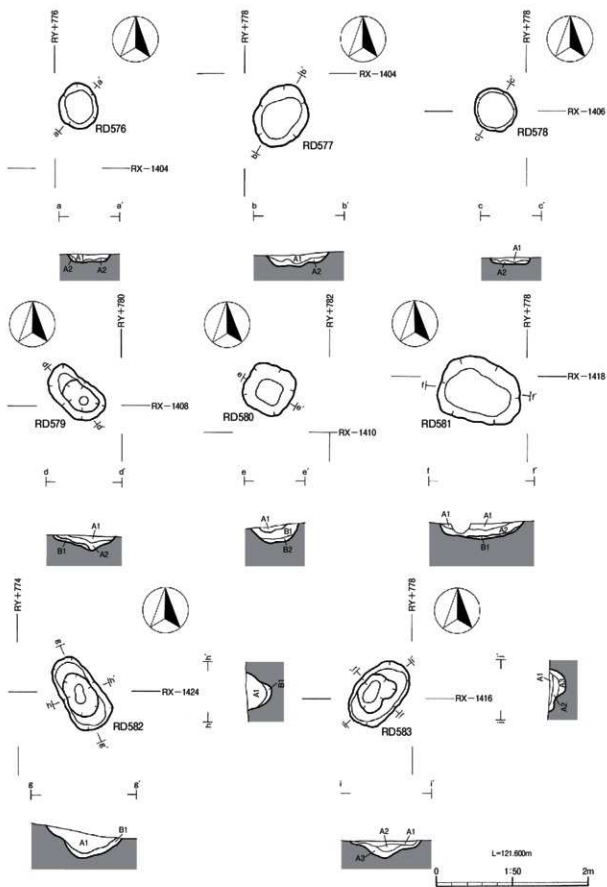
第 12 図 細谷地遺跡第 35 次調査 I 区 RE024 竖穴状遺構



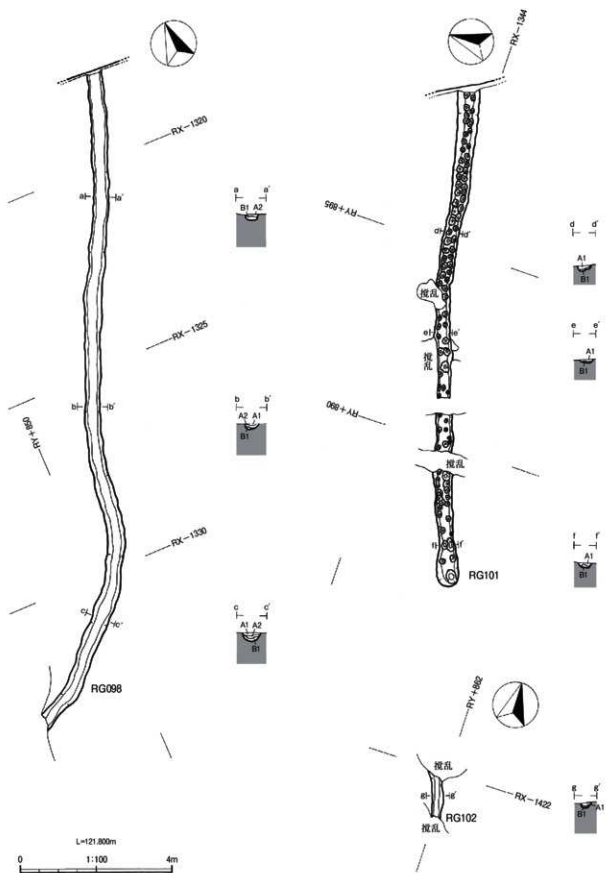
第 13 図 細谷地遺跡第 35 次調査 I 区 RD568・569・571 陥し穴



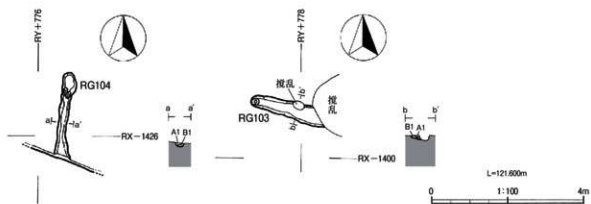
第14図 細谷地遺跡第35次調査I区 RD566・567・570・572~575土坑



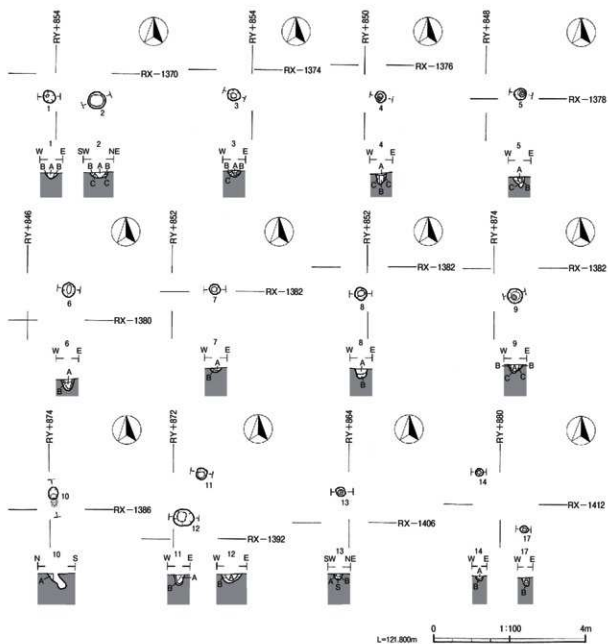
第 15 図 細谷地遺跡第 35 次調査Ⅱ区 RD576~583 土坑



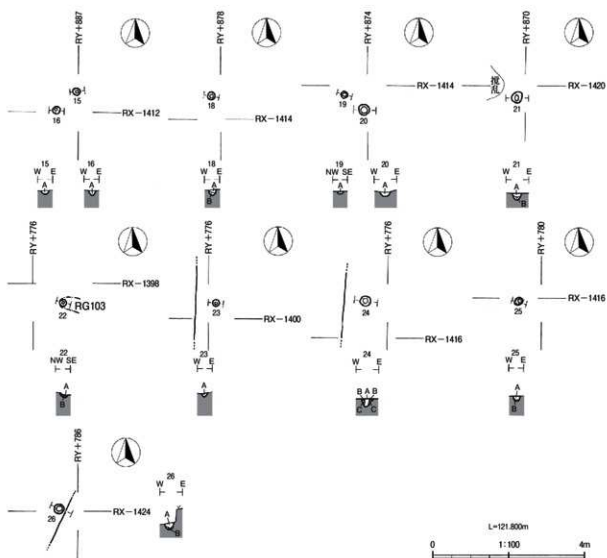
第 16 図 細谷地遺跡第 35 次調査 I 区 RG098・101・102 満跡



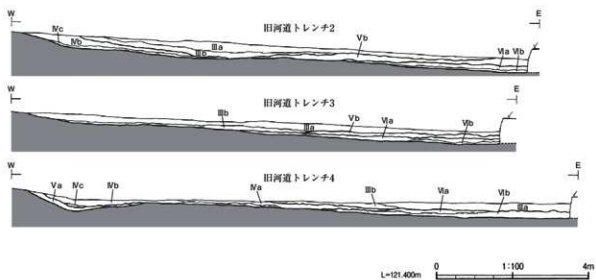
第 17 図 細谷地遺跡第 35 次調査 II 区 RG103・104 清跡



第 18 図 細谷地遺跡第 35 次調査 I 区ビット

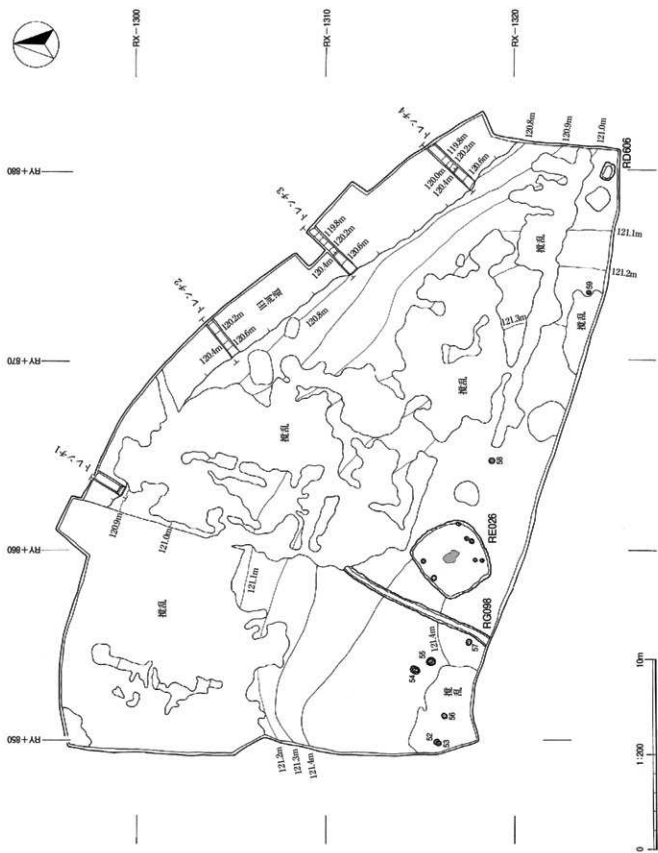


第19図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ・Ⅱ区ビット

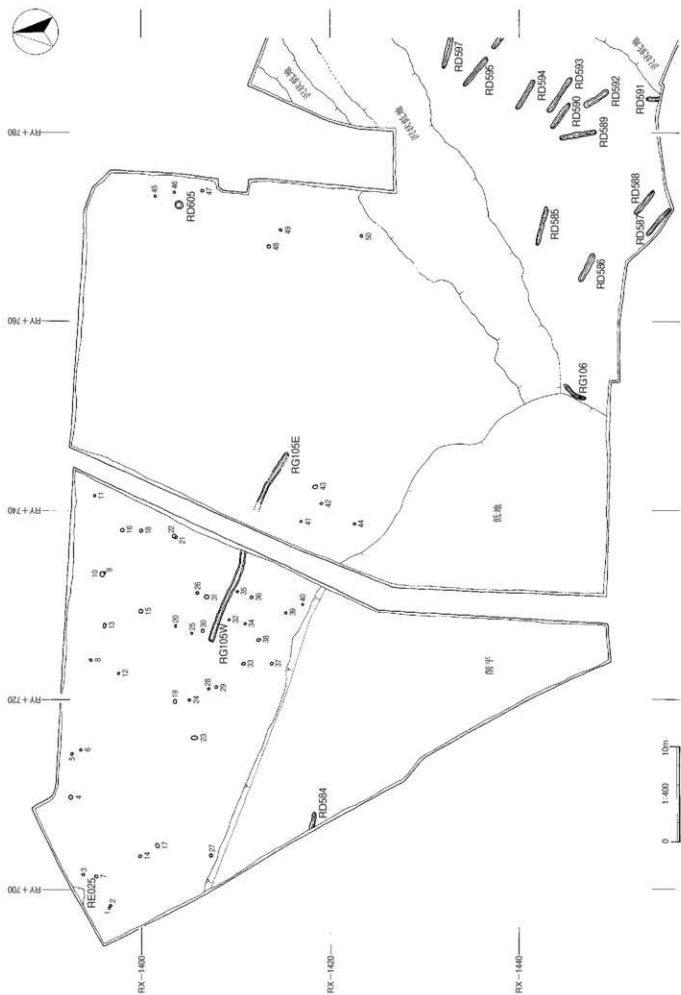


第20図 細谷地遺跡第35次調査Ⅰ区旧河道

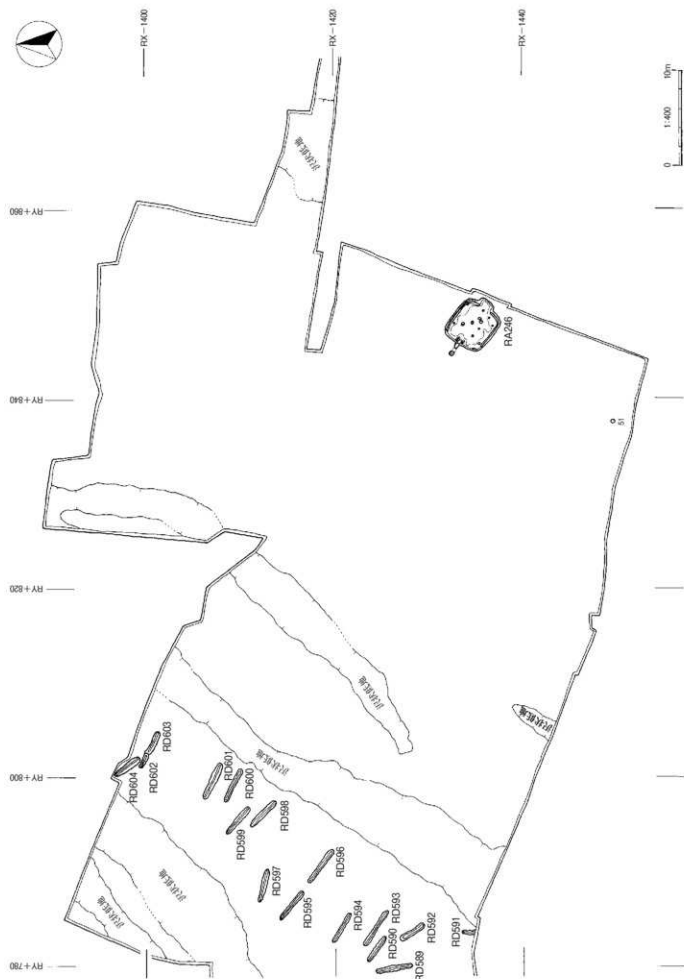




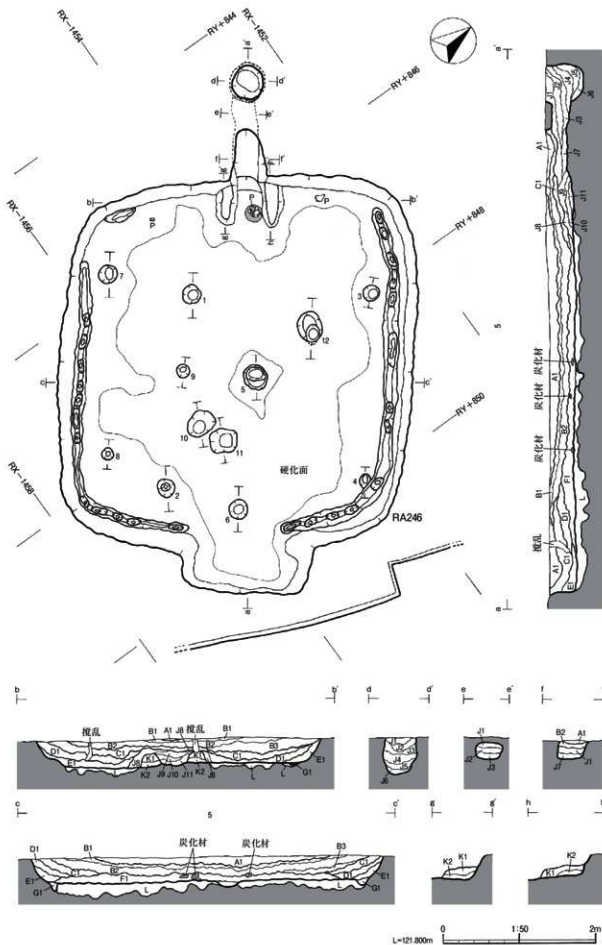
第21図 細谷地遺跡第36次調査Ⅱ区全体図



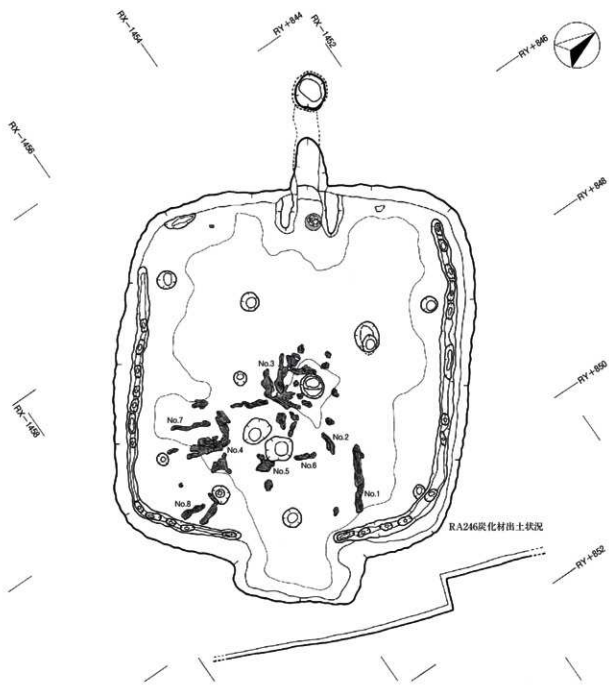
第 22 図 細谷地遺跡第 36 次調査 I 区西半部全体図



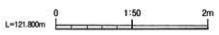
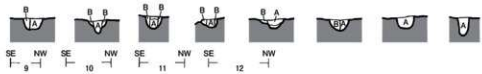
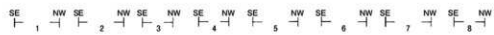
第 23 図 細谷地遺跡第 36 次調査 I 区東半部全体図



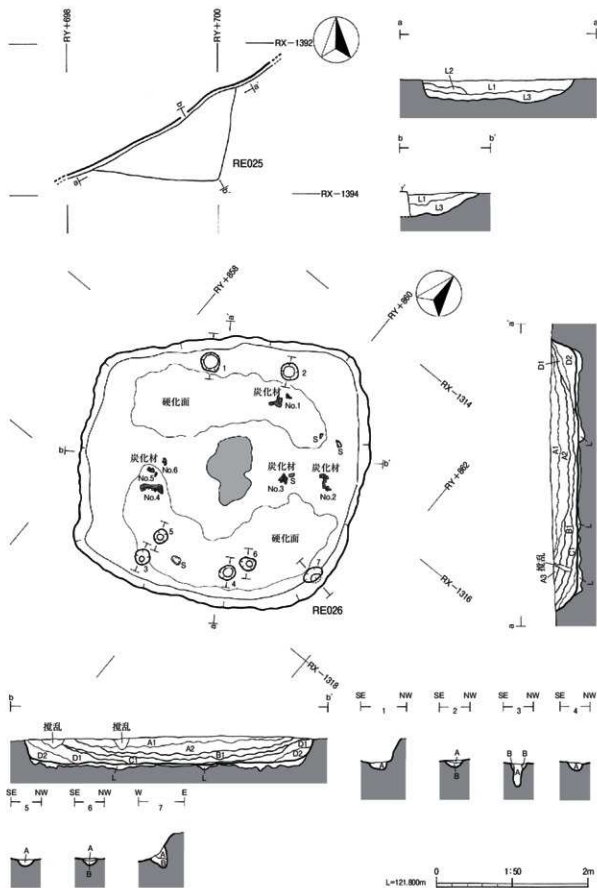
第 24 図 細谷地遺跡第 36 次調査 I 区 RA246 竖穴建物跡 (1)



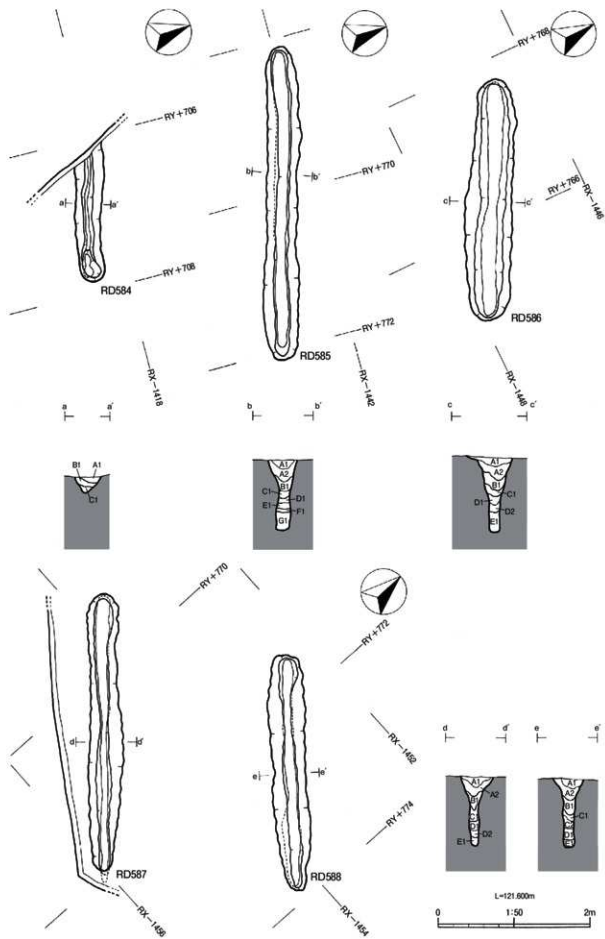
RA246炭化材出土状況



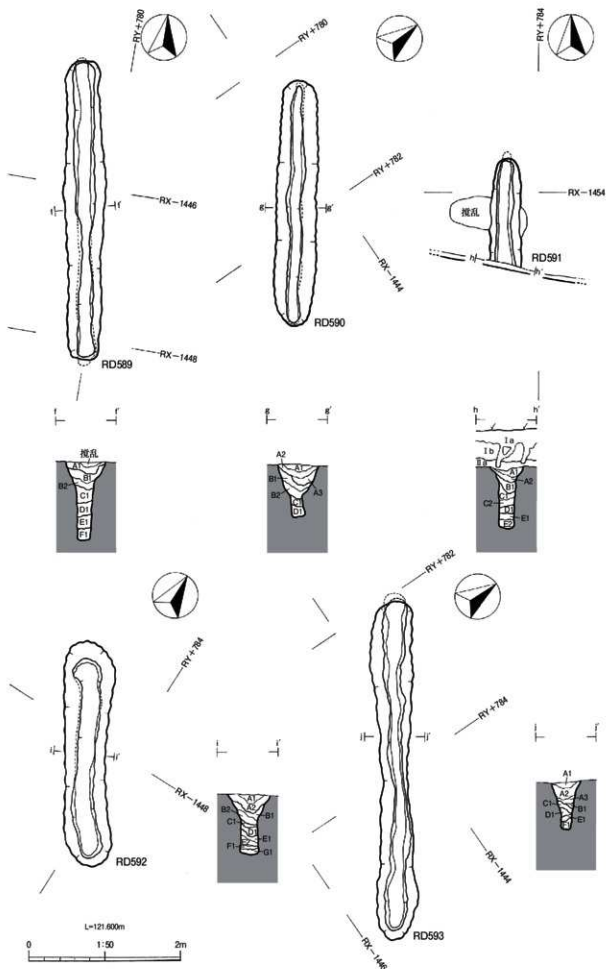
第 25 図 細谷地遺跡第 36 次調査 I 区 RA246 竪穴建物跡 (2)



第 26 図 細谷地遺跡第 36 次調査 I 区 RE025 竅穴状遺構, II 区 RE026 竅穴状遺構

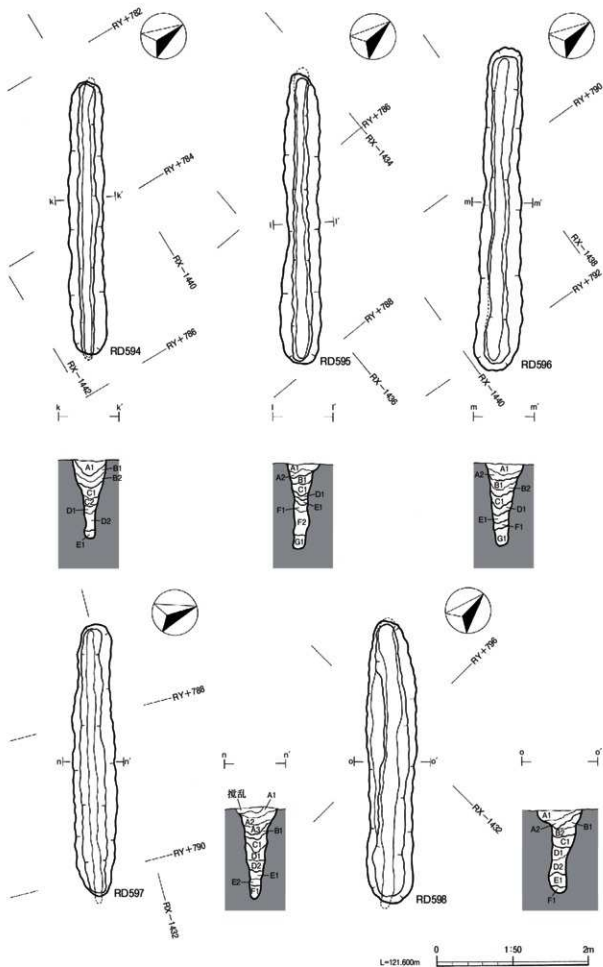


第27図 稲谷地遺跡第36次調査I区 RD584~588 陥し穴

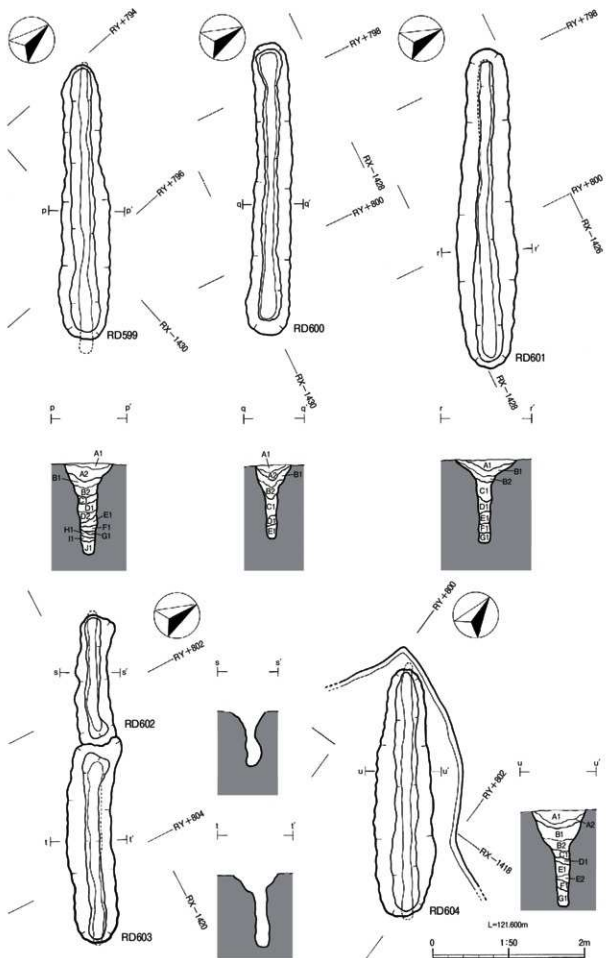


第28図 稲谷地遺跡第36次調査I区 RD589~593 陥し穴

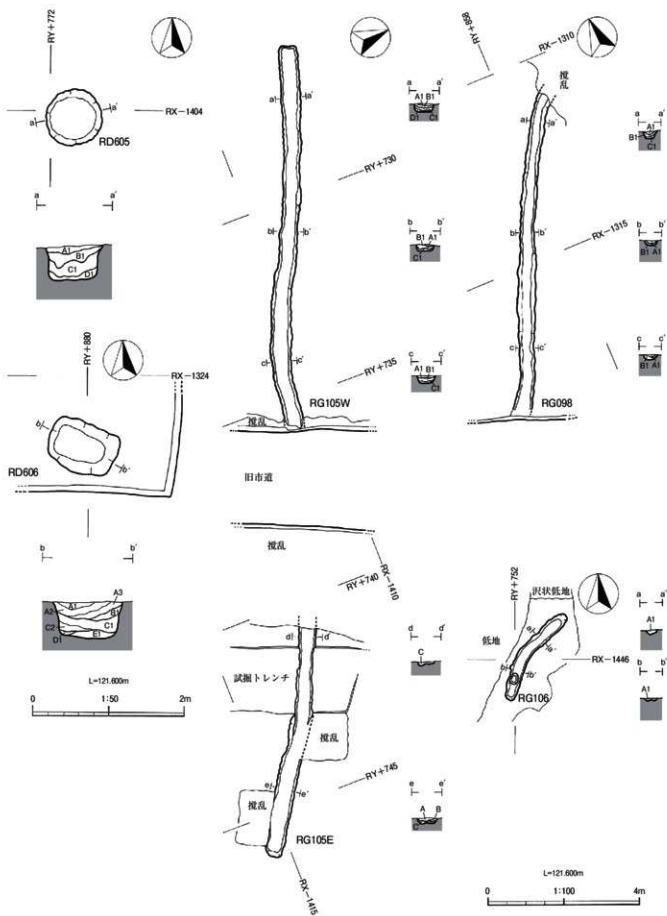




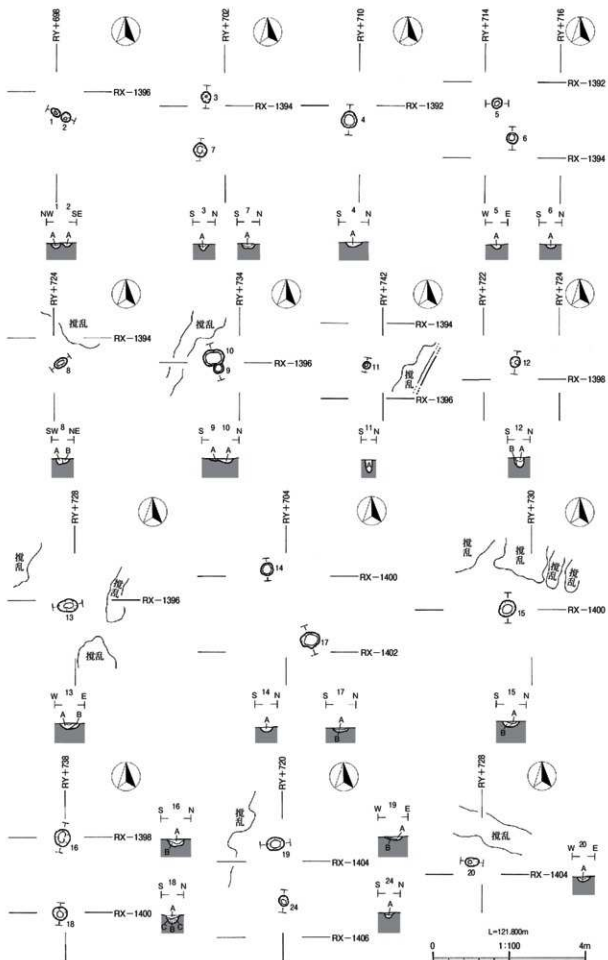
第29図 細谷地遺跡第36次調査I区 RD594~598 陥し穴



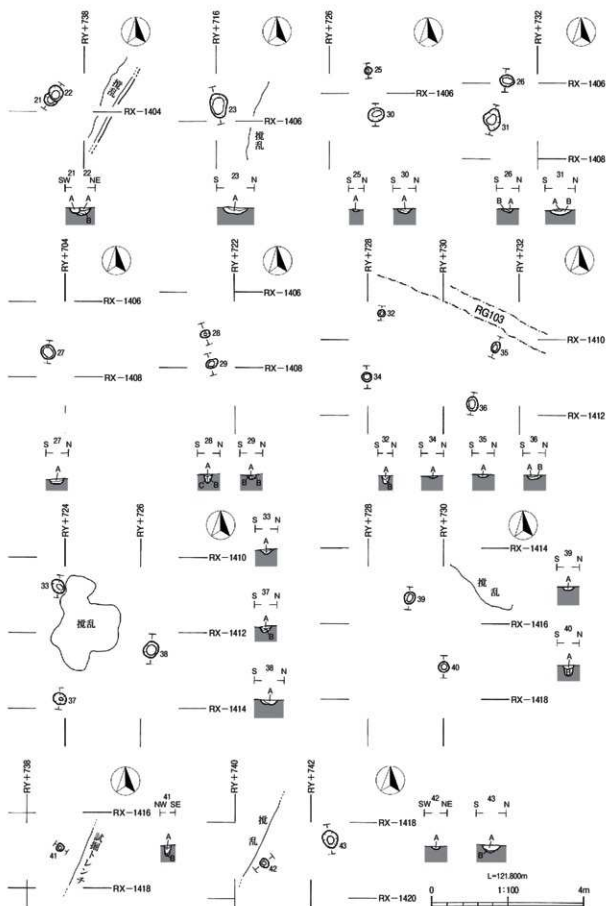
第30図 細谷地遺跡第36次調査I区 RD599~604 陥し穴



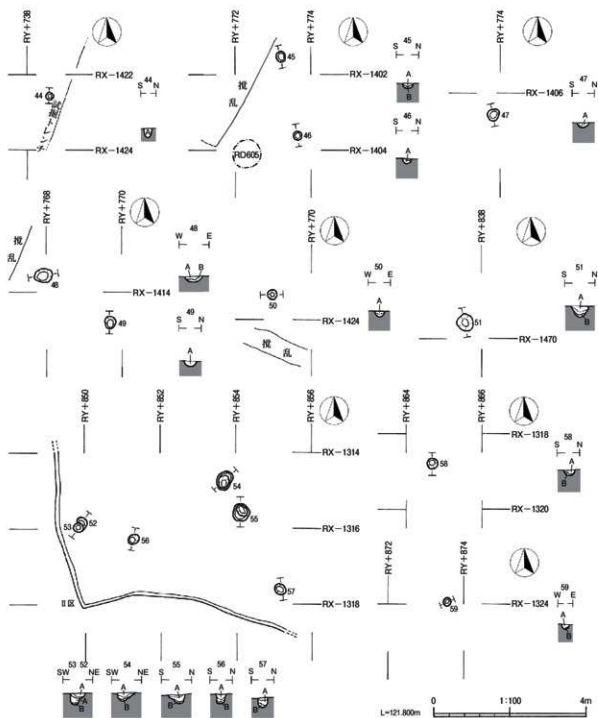
第 31 図 細谷地遺跡第 36 次調査 I 区 RD605 土坑, RG105・106 溝跡, II 区 RD606 土坑, RG098 溝跡



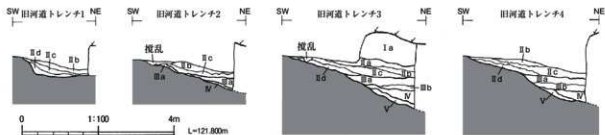
第32図 細谷地遺跡第36次調査I区ビット(1)



第 33 図 細谷地遺跡第 36 次調査 I 区ビット (2)



第34図 細谷地遺跡第36次調査Ⅰ区・Ⅱ区ピット

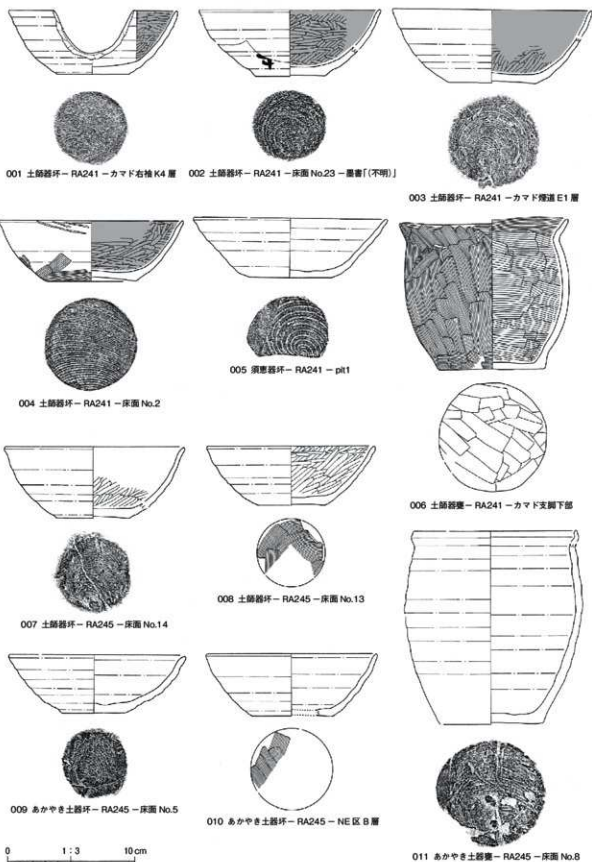


第35図 細谷地遺跡第36次調査Ⅱ区旧河道

# 遺物 図 版





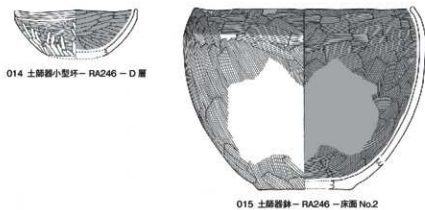


第 36 図 細谷地遺跡第 35 次調査出土土器 (1)



0 1:3 10cm

第37図 細谷地遺跡第35次調査出土土器(2)



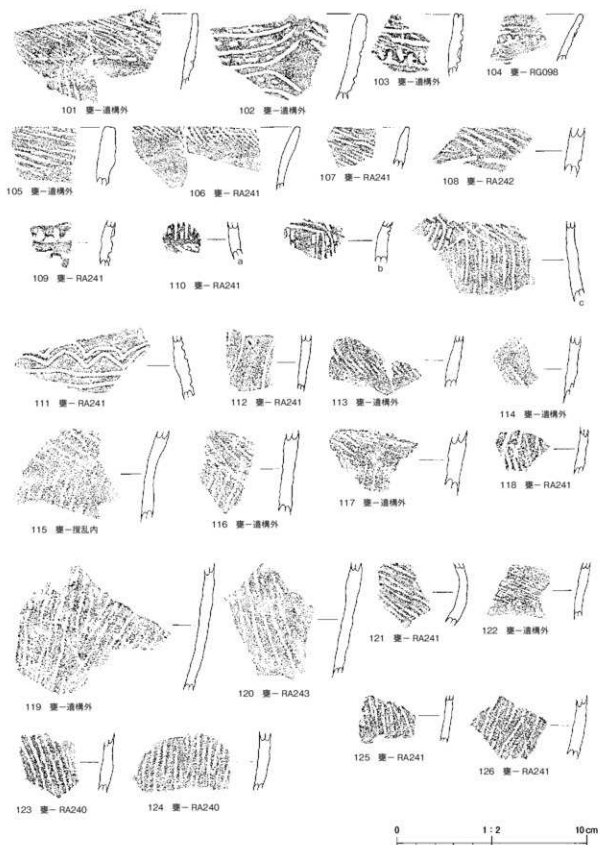
0 1:3 10cm

第38図 細谷地遺跡第36次調査出土土器

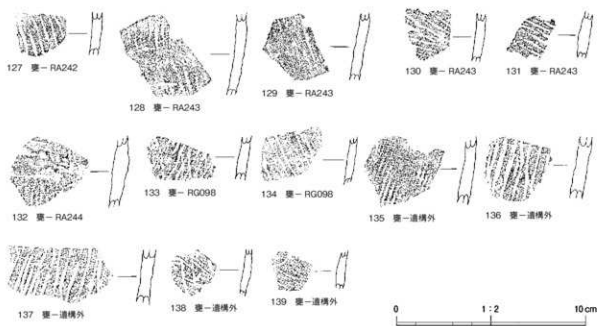


0 1:2 10cm

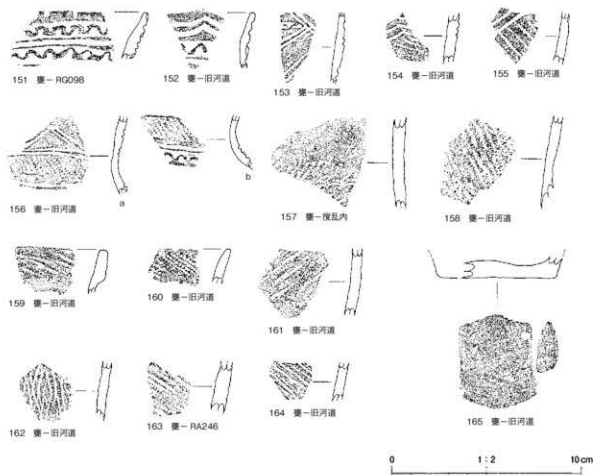
第39図 細谷地遺跡第35・36次調査出土土製品・土製品・ガラス製品



第 40 図 細谷地遺跡第 35 次調査出土弥生土器 (1)



第41圖 細谷地遺跡第35次調査出土弥生土器(2)



第42圖 細谷地遺跡第36次調査出土弥生土器

# 写 真 图 版





盛岡南大都市土地区画整理事業区域(黄色)・道明地区土地区画整理事業変更前区域(右下白線)(平成24年(2012)撮影)



道明地区土地区画整理事業変更後区域(赤線)

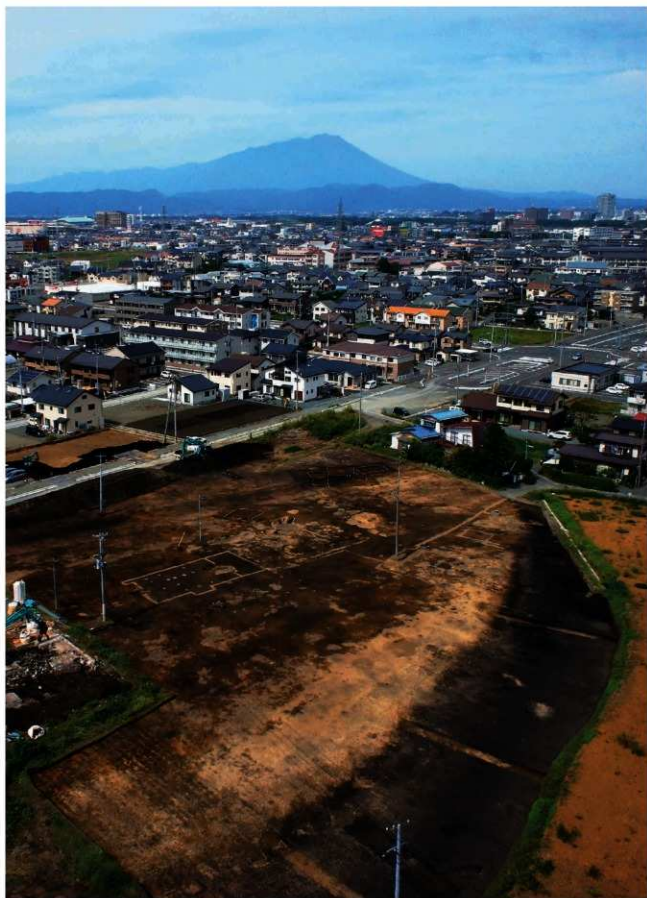
第1図版 盛南開発地区航空写真



本図は、平成17年撮影の写真地図に、細谷地遺跡の調査年度別の調査写真を重ねたものである。

第2図版 細谷地遺跡第31～36次調査垂直写真集成（オルソ画像）





第35次調査I区全景（南東から）

第3図版 細谷地遺跡第35次調査（1）



第35次調査Ⅰ区全景（南から）



第35次調査Ⅰ区北西部竪穴建物跡・竪穴状遺構（南から）

第4図版 細谷地遺跡第35次調査（2）



第35次調査Ⅰ区北西部竪穴建物跡・竪穴状遺構（東から）



第35次調査Ⅱ区全景（北西から）

第5図版 細谷地遺跡第35次調査(3)



RA240 竪穴建物跡（北西から）



地床炉



壁際周溝土層断面



土師器甕（左）・黒曜石礫（中央）・白色粘土（右）出土状況



RA241 竪穴建物跡（北西から）



カマド袖・支脚土器



カマド脇貯蔵穴



カマド・煙道



カマド袖芯材土器



貯蔵穴土層断面



灰白色粉状ハミス（十和田a火山灰）検出状況



RA242 竪穴建物跡（南西から）



RA243 竪穴建物跡（北東から）



RA244 竪穴建物跡 (南西から)



カマドa袖・煙出し



カマドb煙道・煙出し



RE024 竪穴状遺構 (南西から, RA244 と重複)



RA245 竪穴建物跡 (西から)



カマド付近遺物出土状況



須恵器出土状況



炭化材出土状況





RD568 陥し穴・土層断面



RD569 陥し穴・土層断面



RD571 陥し穴・土層断面



FG098 溝跡・土層断面



第 36 次調査 I 区西半部全景（南西から）



第 36 次調査 I 区西半部全景（東から）

第 12 図版 細谷地遺跡第 36 次調査（1）



第36次調査Ⅰ区東半部全景（南東から）



第36次調査Ⅰ区東半部全景（東から）



第36次調査Ⅰ区東半部全景（北から）

第14図版 細谷地遺跡第36次調査（3）



第36次調査Ⅰ区東半部竪穴建物跡・陥し穴群（北から）



RA246 竪穴建物跡全景（垂直）



陥し穴群全景（垂直）



第 36 次調査Ⅱ区全景（北から）



第 36 次調査Ⅱ区全景（西から）

第 16 図版 細谷地遺跡第 36 次調査（5）



RA246 竪穴建物跡（南東から）



カマド・煙道・煙出し



ガラス小玉出土状況



炭化材・焼土検出状況



灰白色粉状バミス（十和田 a 火山灰）検出状況



炭化材出土状況



RE094 竖穴状遺構（南東から、床構築土層のみ）



床構築土層断面



RE095 竖穴状遺構（南東から）



地床炉



炭化材出土状況





RD584 陥し穴・土層断面



RD585 陥し穴 (西半部)・土層断面



RD586 陥し穴・土層断面



RD587 陥し穴・土層断面



RD588 陥し穴・土層断面



RD589 陥し穴・土層断面



RD590 陥し穴・土層断面



RD591 陥し穴・土層断面



RD592 陥し穴・土層断面



RD593 陥し穴・土層断面



RD594 陥し穴・土層断面



RD595 陥し穴・土層断面



RD596 陥し穴・土層断面



RD597 陥し穴・土層断面



RD598 陥し穴・土層断面



RD599 陥し穴・土層断面



RD600 陥し穴・土層断面



RD601 陥し穴・土層断面



RD604 陥し穴・土層断面



調査風景



RD602・603 陥し穴



RD605 土坑 (左)・RD606 土坑 (右)



RG098 溝跡 (南から)



II区旧河道・土層断面・出土土器



001 土師器坏-RA241



003 土師器坏-RA241



004 土師器坏-RA241



008 土師器坏-RA245



009 あかやき土器坏-RA245



006 土師器甕-RA241



011 あかやき土器甕-RA245



012 土師器甕-RA240



014 土師器小型坏-RA246



015 土師器鉢-RA246



墨書「(不明)」(002-RA241)



墨書「×」(013-RA244)

墨書土器



016 磁石-RA245

石製品



017 土玉-36次I区検出面



018 ガラス小玉-RA246

土製品  
ガラス製品

## 附 章





## 細谷地遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

岩手県盛岡市に所在する細谷地遺跡から出土した測定対象試料は、堅穴建物跡および堅穴状遺構から検出された炭化材 13 点である (表 1)。遺構の年代は、堅穴建物跡 RA240、246 が 7 世紀代、RA241 が 9 世紀中葉から後葉、RA245 が 9 世紀後葉、堅穴状遺構 RE026 が 9 世紀代と推定されている。

なお、これらの同一試料を対象に樹種同定も実施されている (別稿樹種同定報告参照)。

### 2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常  $1 \text{ mol}/\ell$  (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 ( $\text{CO}_2$ ) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 3 測定方法

加速器をベースとした  $^{14}\text{C}$ -AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、 $^{14}\text{C}$  の計数、 $^{13}\text{C}$  濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )、 $^{14}\text{C}$  濃度 ( $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 4 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の  $^{13}\text{C}$  濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2)  $^{14}\text{C}$  年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中  $^{14}\text{C}$  濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 $^{14}\text{C}$  年代は  $\delta^{13}\text{C}$  によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。 $^{14}\text{C}$  年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$  年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の  $^{14}\text{C}$  濃度の割合である。pMC が小さい ( $^{14}\text{C}$  が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 ( $^{14}\text{C}$  の量が標準現代炭素

と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{14}\text{C}$  濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{14}\text{C}$  濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは 2 標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が  $^{14}\text{C}$  年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下 1 桁を丸めない  $^{14}\text{C}$  年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を使い、OxCalv4.3 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## 5 測定結果

測定結果を表 1, 2 に示す。

試料の  $^{14}\text{C}$  年代は、 $1500 \pm 20\text{yrBP}$  (試料13) から  $1160 \pm 20\text{yrBP}$  (試料4) の間にある。

遺構ごとの暦年較正年代 (1 $\sigma$ ) を見てみると、RA240 から出土した試料 1 は 778~888cal AD の間に 3 つの範囲で示される。推定年代は 7 世紀代とされているが、それよりも新しい年代値となった。RA241 から出土した試料 2 は 692~770cal AD の間に 2 つの範囲、試料 3 は 732~866cal AD の間に 4 つの範囲でそれぞれ示される。推定年代は 9 世紀中葉から後葉とされており、試料 2 がそれよりも古く、試料 3 はやや古いか推定年代を含む年代値となった。RA245 から出土した試料 4 は 778~941cal AD の間に 5 つの範囲で示され、9 世紀後葉とされる推定年代を含む結果となった。RA246 から出土した試料 5~12 の 8 点のうち最も古い試料 7 が 652~671cal AD の範囲、最も新しい試料 8 が 670~764cal AD の間に 2 つの範囲で示される。推定年代は 7 世紀代とされており、いずれの試料もこれにおおむね一致する。RE026 から出土した試料 13 は 554~596cal AD の範囲で示され、推定年代である 9 世紀代よりもかなり古い結果となった。

試料はすべて炭化材であることから、以下に記述する古木効果を考慮する必要がある。

樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる (古木効果)。今回測定された試料 13 点はいずれも樹皮が確認されていないことから、炭化材となった木が死んだ年代は測定された年代値よりも新しい可能性がある。

試料の炭素含有率は 62% (試料8)~72% (試料3) の適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						LibbyAge (yrBP)	pMC(%)
IAAA-180527	1	遺構:RA240 SSE区 L層	炭化材	AAA	-23.41 ± 0.32	1,180 ± 20	86.36 ± 0.26
IAAA-180528	2	遺構:RA241 カマド中央 床面	炭化材	AAA	-25.86 ± 0.22	1,260 ± 20	85.49 ± 0.25
IAAA-180529	3	遺構:RA241 貯蔵穴内	炭化材	AAA	-26.84 ± 0.17	1,220 ± 20	85.93 ± 0.24
IAAA-180530	4	遺構:RA245 ベルト④中央 C層	炭化材	AAA	-26.07 ± 0.22	1,160 ± 20	86.52 ± 0.26
IAAA-180531	5	遺構:RA246 Q10-Y3 F層, No.1	炭化材	AAA	-26.34 ± 0.23	1,350 ± 20	84.52 ± 0.25
IAAA-180532	6	遺構:RA246 Q10-Y3 F層, No.2	炭化材	AAA	-25.59 ± 0.22	1,340 ± 20	84.61 ± 0.26
IAAA-180533	7	遺構:RA246 Q10-X3 F層, No.3	炭化材	AAA	-24.98 ± 0.31	1,350 ± 20	84.50 ± 0.24
IAAA-180534	8	遺構:RA246 Q10-X4 F層, No.4	炭化材	AAA	-26.59 ± 0.23	1,300 ± 20	85.07 ± 0.23
IAAA-180535	9	遺構:RA246 Q10-Y3 F層, No.5	炭化材	AAA	-25.52 ± 0.22	1,340 ± 20	84.65 ± 0.25
IAAA-180536	10	遺構:RA246 Q10-Y3 F層, No.6	炭化材	AaA	-24.59 ± 0.24	1,310 ± 20	84.99 ± 0.25
IAAA-180537	11	遺構:RA246 Q10-X4 F層, No.7	炭化材	AAA	-26.59 ± 0.21	1,330 ± 20	84.75 ± 0.25
IAAA-180538	12	遺構:RA246 Q10-Y4 F層, No.8	炭化材	AAA	-25.12 ± 0.21	1,340 ± 20	84.68 ± 0.22
IAAA-180539	13	遺構:RE026 R7-F9 D層	炭化材	AAA	-27.87 ± 0.18	1,500 ± 20	82.99 ± 0.23

[IAA 登録番号:#9146]

表2 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值, 暦年較正用  $^{14}\text{C}$  年代, 較正年代) (1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-180527	1,150 ± 20	86.64 ± 0.26	1,177 ± 24	778calAD-792calAD (12.3%) 803calAD-844calAD (30.7%) 857calAD-888calAD (25.2%)	771calAD-898calAD (90.4%) 926calAD-944calAD (5.0%)
IAAA-180528	1,270 ± 20	85.34 ± 0.25	1,259 ± 23	692calAD-749calAD (59.8%) 762calAD-770calAD (8.4%)	671calAD-778calAD (93.2%) 793calAD-802calAD (1.0%) 844calAD-856calAD (1.1%)
IAAA-180529	1,250 ± 20	85.60 ± 0.23	1,218 ± 21	732calAD-735calAD (2.1%) 769calAD-779calAD (9.0%) 790calAD-830calAD (33.0%) 838calAD-866calAD (24.0%)	715calAD-744calAD (12.3%) 765calAD-885calAD (83.1%)
IAAA-180530	1,180 ± 20	86.32 ± 0.26	1,163 ± 24	778calAD-791calAD (11.1%) 805calAD-817calAD (7.2%) 824calAD-842calAD (11.6%) 862calAD-896calAD (29.0%) 928calAD-941calAD (9.3%)	774calAD-902calAD (78.7%) 920calAD-961calAD (16.7%)
IAAA-180531	1,370 ± 20	84.28 ± 0.24	1,351 ± 23	653calAD-673calAD (68.2%)	642calAD-690calAD (94.0%) 752calAD-760calAD (1.4%)

表 2 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值, 暦年較正用  $^{14}\text{C}$  年代, 較正年代) (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
IAAA-180532	1,350 ± 20	84.51 ± 0.25	1,342 ± 24	655calAD-678calAD (68.2%)	645calAD-710calAD (89.7%) 746calAD-764calAD (5.7%)
IAAA-180533	1,350 ± 20	84.50 ± 0.23	1,353 ± 22	652calAD-671calAD (68.2%)	643calAD-688calAD (95.4%)
IAAA-180534	1,320 ± 20	84.80 ± 0.23	1,298 ± 21	670calAD-710calAD (45.7%) 746calAD-764calAD (22.5%)	664calAD-723calAD (63.4%) 740calAD-768calAD (32.0%)
IAAA-180535	1,350 ± 20	84.55 ± 0.24	1,339 ± 23	655calAD-680calAD (68.2%)	646calAD-710calAD (89.2%) 746calAD-764calAD (6.2%)
IAAA-180536	1,300 ± 20	85.06 ± 0.25	1,306 ± 23	665calAD-695calAD (41.2%) 701calAD-709calAD (6.6%) 746calAD-764calAD (20.4%)	660calAD-723calAD (67.4%) 740calAD-768calAD (28.0%)
IAAA-180537	1,360 ± 20	84.48 ± 0.25	1,328 ± 23	657calAD-688calAD (68.2%)	651calAD-713calAD (82.7%) 744calAD-765calAD (12.7%)
IAAA-180538	1,340 ± 20	84.65 ± 0.22	1,336 ± 21	657calAD-681calAD (68.2%)	648calAD-695calAD (88.3%) 702calAD-708calAD (1.1%) 747calAD-764calAD (6.1%)
IAAA-180539	1,550 ± 20	82.50 ± 0.23	1,497 ± 22	554calAD-596calAD (68.2%)	536calAD-632calAD (95.4%)

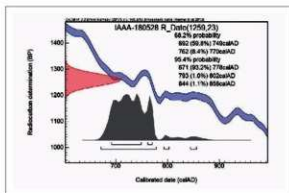
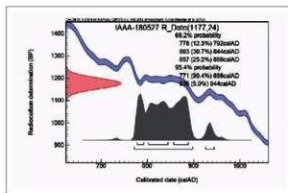
[参考値]

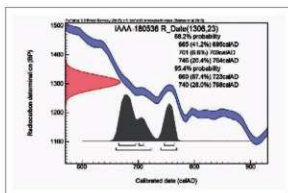
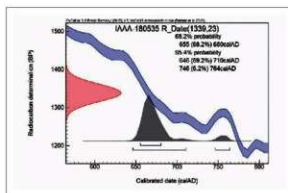
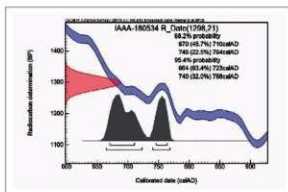
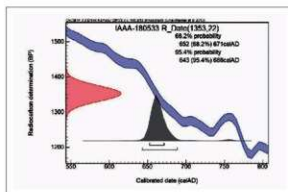
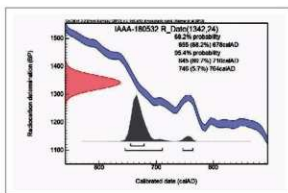
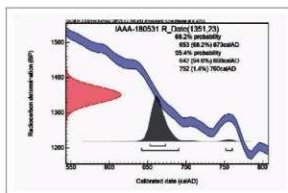
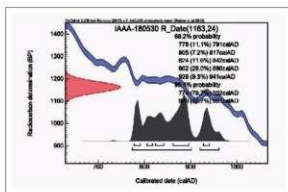
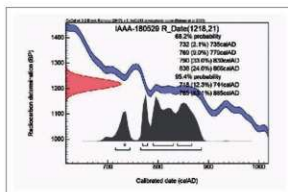
## 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion : Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363





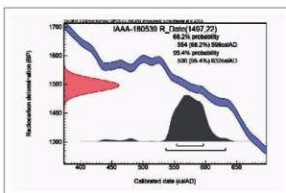
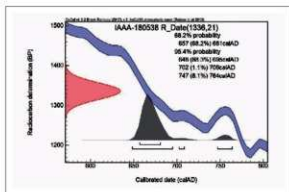
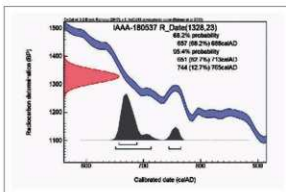


図1 暦年較正年代グラフ(参考)

## 細谷地遺跡から出土した炭化材の樹種

### 1 試料

細谷地遺跡は岩手県盛岡市に所在する。本遺跡では竪穴建物跡等から炭化材が出土したことから、当時の木材利用状況を調査する目的で、炭化材13点の樹種同定を行った(表1)。

なお、同一試料の放射性炭素年代測定が実施され、6~10世紀頃の年代値が示されている(別稿年代測定報告参照)。

### 2 分析方法

剃刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面を作成する。電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

### 3 結果

同定結果を表1に示す。本遺跡の炭化材は13試料のうち10点(試料1~3, 5~9, 11, 12)がコナラ亜属、1点(試料10)がクリ、2点(試料4, 13)がトチノキと同定された。以下に同定の根拠を示す。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節(*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織とがある。なお、試料6はコナラ節と思われるが、小径のためか火炎状の配列がはっきりしないため、コナラ亜属とする。

・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・トチノキ(*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1-15細胞高で階層状に配列する。

表1 細谷地遺跡出土炭化材の樹種同定結果

試料名	遺構名	位置・層位	種類	種類
1	RA240	SSE区 L層	炭化材	コナラ亜属コナラ節
2	RA241	カマド中央 床面	炭化材	コナラ亜属コナラ節
3	RA241	貯蔵穴内	炭化材	コナラ亜属コナラ節
4	RA245	ベルト④中央 C層	炭化材	トチノキ
5	RA246	Q10-Y3 F層, No.1	炭化材	コナラ亜属コナラ節
6	RA246	Q10-Y3 F層, No.2	炭化材	コナラ亜属
7	RA246	Q10-X3 F層, No.3	炭化材	コナラ亜属コナラ節
8	RA246	Q10-X4 F層, No.4	炭化材	コナラ亜属コナラ節
9	RA246	Q10-Y3 F層, No.5	炭化材	コナラ亜属コナラ節
10	RA246	Q10-Y3 F層, No.6	炭化材	クリ
11	RA246	Q10-X4 F層, No.7	炭化材	コナラ亜属コナラ節
12	RA246	Q10-Y4 F層, No.8	炭化材	コナラ亜属コナラ節
13	RE026	R7-F9 D層	炭化材	トチノキ

#### 4 考察

試料中に多いのは、コナラ亜属コナラ節である。コナラなどは里山林を構成する主要な樹種であるため、良質な薪炭材として利用されるほか、堅さを生かして家具などの器具にも使われる。入手しやすく、当時の用材として多用されたとみられるが、木材の性質上炭化して残りやすい性質があるため、多く残った可能性がある。

クリは、比較的硬く、耐朽、耐水、保存性が高い優良材で、用途は建築、土木、器具、家具、船舶、薪炭など幅広い。コナラ節とともに、里山林を構成する主要な樹種であるため、入手しやすく、様々な用途で利用されていたと思われる。また、種実が食用となることは周知の通りである。

トチノキは、保存性に乏しいが、柔らかく、加工しやすいため、器具や細工などに用いられることがある。人里近くの明るく林地を好むことから、遺跡周辺で入手しやすい木材であったと推定される。種実は重要な食糧源として、縄文時代より利用されてきた。

以上のことから、付近に生育し、入手しやすい木材を利用していたことが窺える。これら3種類は、岩手県を始めとする東北地方の古代の遺跡から出土が確認されるが、特にコナラ節とクリは非常に多い(伊藤, 山田編, 2012)。

#### 文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。  
 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181。  
 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176。  
 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所,



83-201.

伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.

伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.

伊東隆夫・山田昌久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース, 海青社, 449p.

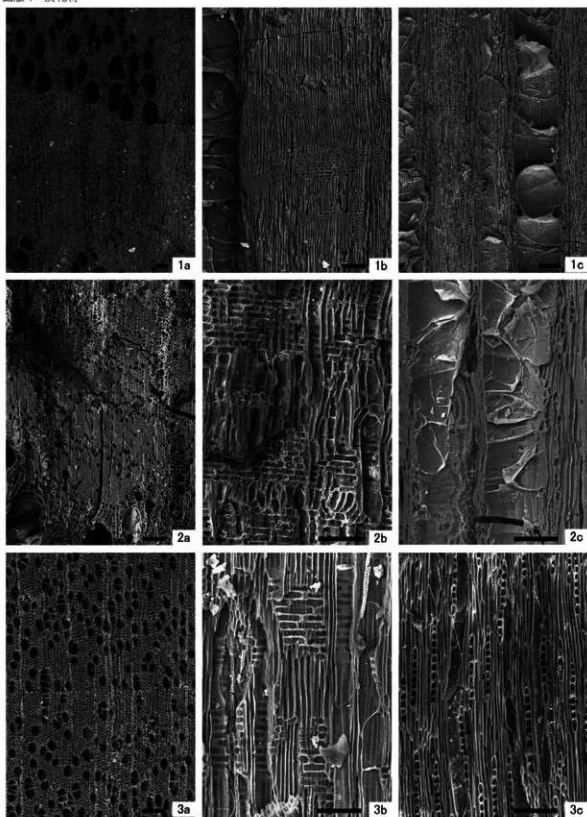
Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.(編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].

島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176p.

Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

※)本分析はバリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

図版1 炭化材



1. コナラ亜属コナラ節 (No.3 RA241 貯蔵穴)

2. クリ (No.10 RA246 Q10-Y3 F層, No.6)

3. トチノキ (No.4 RA245 ベルト④中央, C層)

スケールは 100 $\mu$ m

a: 木口 b: 柱目 c: 板目

## 細谷地遺跡出土ガラス小玉の分析

田村朋美 (奈良文化財研究所)

### 1 はじめに

細谷地遺跡から出土したガラス小玉について、製作技法を推定し、化学組成から基礎ガラスの種類および着色材の特徴を把握することを目的として自然科学的調査を実施した。以下、その結果について報告する。

### 2 資料と方法

本調査の対象は、第36次調査でRA246 堅穴建物跡の埋土中位 (B2層) から出土したガラス小玉1点である。色調は紺色透明を呈する。

調査は、実体顕微鏡観察および蛍光X線分析法による材質分析を実施した。蛍光X線分析の結果は、ガラス標準試料を用いて、FP (Fundamental Parameters) 法によって規格化し、酸化物重量百分率で表示した。測定に用いた装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置 (EDAX 社製 EAGLE III)、励起用X線源はMo管球、管電圧は20kV、管電流は100 $\mu$ A、X線照射径は112 $\mu$ m、計数時間は300秒とした。測定は真空中で実施した。

### 3 結果と考察

顕微鏡観察の結果、孔内面が平滑で、孔と平行方向に伸びる気泡筋が確認されたことから (図1)、軟化したガラスを引き伸ばして製作したガラス管を分割して小玉を得る「引き伸ばし法」で製作されたと判断される。両端面は研磨されている。

基礎ガラスの材質は、ナトリウム (Na<sub>2</sub>O) を14.3%含有するソーダガラスである (表1)。ソーダガラスについては、化学組成から、さらに5種類に細分される (Group S I ~ S V) (Oga and Tamura 2013)。これら既存のグループへの帰属を検討した結果、低 Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> (2.6%) 高 CaO (6.1%) で、MgO と K<sub>2</sub>O の含有量が1.5%よりも多いことから、植物灰タイプのソーダガラス (Group S III) に相当すると判断された。Group S III のガラス小玉については、製作技法と化学組成から Group S III A・S III B・S III C に細分されるが、本資料は通常の引き伸ばし法で製作された紺色ガラス小玉であることから、Group S III B に相当する。

着色に関与する成分としては、コバルト (Co) を0.05%含有しており、コバルトイオンが主たる着色要因である。さらに、マンガン (Mn) の含有量が0.18%と少なく、銅 (Cu) および鉛 (Pb) をわずかに含む。このような着色剤は、これまでに知られている Group S III B のガラス小玉に一般的な特徴である。

Group S III B 生産地は、化学組成の特徴から西アジア-中央アジアと考えているが (Oga and Tamura 2013)、具体的な生産地の特定には至っていない。日本列島には、古墳時代中期後半に出現し、後期後半ごろまで流入が続いたと考えられている。本資料もこの頃までに日本列島に流入したものである可能性が高い。



図1 顕微鏡写真 (落射光)

表1 細谷地遺跡出土ガラス小玉の蛍光X線分析結果

重量濃度 (%)															
Na <sub>2</sub> O	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CoO	CuO	PbO	Rb <sub>2</sub> O	SrO	ZrO <sub>2</sub>
14.3	3.0	2.6	69.7	2.3	6.1	0.18	0.01	0.18	1.09	0.05	0.08	0.05	0.01	0.03	0.10

#### 参考文献

Oga, K., and Tamura, T. 2013 Ancient Japan and the Indian Ocean International Sphere: Chemical Compositions, Chronologies, Provenances and Trade Routes of imported glass beads in the Yayoi-Kofun Periods (3<sup>rd</sup> Century BCE- 7<sup>th</sup> Century CE). *Journal of Indian Ocean Archaeology* No.9, pp.34-60.



## 報告書抄録

ふりがな	せいなんちくいせきぐんはつくちようきほうこくしょ11							
書名	盛南地区遺跡群発掘調査報告書M							
副書名	透明地区土地区画整理事業関連遺跡平成27・28年度発掘調査 細谷地遺跡							
編者著名	津嶋知弘							
編集機関	盛岡市遺跡の学び館(発行:盛岡市・盛岡市教育委員会)							
所在地	〒030-0866 岩手県盛岡市本宮字東原13番地1 電話 019-635-6000							
発行年月日	2019年2月28日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名(略号)	所在地	市町村	遺跡番号	(世界測地系)			(m <sup>2</sup> )	
細谷地(OHY)	岩手県盛岡市 向中野 5・7丁目, 字細谷地	03201	LE26-0214	39°40'42"	141°8'19"	35次: 2015.12-12.25 36次: 2016.5.9-8.4 2016.10.4-12.8	7,842 7,974	土地区画整理事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
細谷地 35次	集落	縄文時代 弥生時代 古代 古代以降  近世		陥し穴3  竪穴建物6・竪穴状遺構1 土坑7・溝5 ピット		縄文石器 弥生後期土器 土師器・須恵器・あかやき土器、硯石  近世陶磁器		
細谷地 36次	集落	縄文時代 弥生時代 古代 古代以降		陥し穴21  竪穴建物1・竪穴状遺構1  土坑2・溝3 ピット		縄文土器・石器 弥生後期土器 土師器・須恵器・あかやき土器、土玉 ガラス小玉		ゾーダガラス
要約	<p>盛南地区遺跡群は、平安時代初期の延暦22年(800)に朝廷が造営した古代城柵「志波城」の南東方に位置し、7世紀より続く一大勢力「志波エラス」が10世紀まで拠点とした古代集落群が主に確認されている。</p> <p>本書掲載の盛南地区遺跡群内で第二の規模の古代集落である細谷地遺跡では、計9種の竪穴建物・竪穴状遺構を精査し、多くの遺物が出土。遺跡南東部の集落の様相を明らかにすることができた。</p>							



## 盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅺ

—道明地区土地区画整理事業関連遺跡平成 27・28 年度発掘調査—  
細谷地遺跡

平成 31 年 2 月 28 日

編集 盛岡市遺跡の学び館  
〒 020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13-1  
電話 019-635-6600 ファクス 019-635-6605  
E-mail iseki@city.morioka.iwate.jp  
URL <http://www.city.moriokaiwate.jp/>

遺跡の学び館

検索

発行 盛岡市・盛岡市教育委員会

印刷 山口北州印刷株式会社  
〒 020-0184 岩手県盛岡市青山 4 丁目 10-5

